

第26回全国バズ学習研究大会開催に当たって

猛暑の名古屋へようこそおいで下さいました。研究熱心な先生方が大勢集まって、第26回全国バズ学習研究大会がこのように盛大に開催されることを心から喜んでおります。

過去20数年間にわたり、新しい指導要領が出るたびにバズ学習の理論は「それを先取りしていた」とよく言われます。たとえば今回の改訂におけるキーワードである「自己教育力」「自己実現」などはすでに10数年前からバズ学習の基本理念になっております。

人間関係を基盤とした指導理念・指導技術はこれからも深化・発展していくことと確信しておるものですが、今年度は

今、教室で何が求められているか

を主要テーマとして多くの発表要項がよせられております。かならずや実りある成果が出ることを期待しております。

なお、今大会は少ない予算のなかの手作り大会であります。参加される皆さんには多々迷惑をおかけするかもしれませんが、お許しください。限られた予算を活用したオリジナリティに富んだ工夫が、大会というものの新しいいきかたを示唆することになればと考えております。

平成3年8月10日

第26回全国バズ学習研究会会長 西村 精爾

第26回 全国バズ学習研究大会

基礎講座

『これからバズ学習を
始める人のために』

岐阜県 東濃教育事務所 小 島 幸 彦

1. バズ学習30年

(1) 2世代にわたって

歴史的評価 「継続は力」

(2) 多くの起伏を乗り越えて

- ・ 校長が替わるとき
- ・ 職員の異動
- ・ 保護者の理解
- ・ 校下の支援

2. バズ学習研究を支える職員集団

(1) 職員のやる気で決まる (職員集団の成熟度まで子どもは育つ)

モラール 凝集度 校内研究 各種の自主的研究会

(2) 研究推進のためのリーダー

(3) 本を読む

(4) アクションリサーチ

(5) 日常活動の中に全校が協同して実践するものを取り入れる

例 ・ 全校運動

・ 全校読書

・ 黙勤清掃

・ 全校朝の歌 (音楽集会・オペラ)

☆ 具体的に評価出来て

奥が深いものを

3. バズ学習研究の動機

(1) 生徒指導上の必然

(2) 学力向上策

(3) 人間関係の充実 (連帯感の育成)

(4) 学力と人間関係 (どのような人間を育てるか)

・・・学校に動機や必然があるか 食わず嫌いの教師

4. バズ学習の理論と方法

(1) 安易な方法論では成功しない

(2) 教育観・授業観・児童観等を学ぶ (校内研究会のテーマとして取

り上げる)

5. 学校教育の問題点

(1) 授業観の混乱・・・欧米と対比して

(2) 技術主義への反省

(3) 教師の人間性、生き方への問いかけの弱さ

(4) 教師の使命観の希薄さ

(5) 論理性、専門性の弱さ

(6) 校長、教育委員会等の指導力不足

6. 緊張をはらんで向かい合う(ひびき合う)授業

校訓・・・一心集中(泉西小)

(1) 私のめざす授業

- ・課題解決学習
- ・態度的目標の重視

感 情

課題→受け入れ→反応

行動傾向

評価的認知

・リズムへの着目

第一上昇期 → 第一下降期 → 第二上昇期・・・授業のヤマ場

(2) 到達度テスト(全国レベルと比較する)・・・年度末

- ・いたみ を感ずる教師(1年間の指導の自己評価)
- ・小中の連携(義務教育終了時点をイメージして)
- ・パソコンへの打ち込み

長期にわたる子ども理解

学習ソフト「竹千代」・・・学級の平均 学力偏差値

個人の成績 特典分布 知能偏差値との相関など

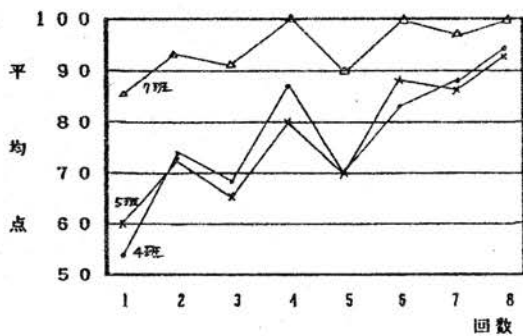
体力づくりソフト「げんき Jr.」との互換制

(3) 授業の記録・・・授業分析

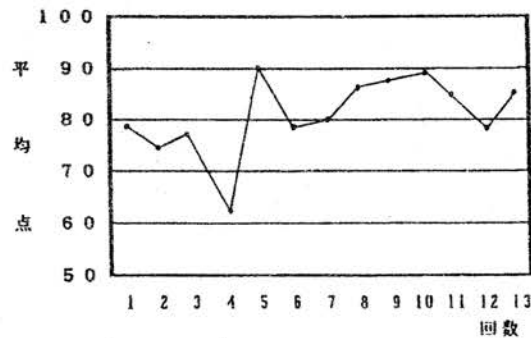
7. バズ学習の成果を実感する

(1) 新規採用教員の事例(小学校)

漢字テスト(5年生)



算数単元別テスト(6年生)



(2) 保護者の評価が一番温かくて厳しい

基礎講座

参加者と共にバズ学習を試みる

豊川市立天王小学校
丸山正克

レディネス
の調整

バズ学習が期待しているものは何だと思えますか

[バズ2?]
[バズ]

(バズ)
これまでの知識を出し合い
バズ学習がねらうものを話
し合う

話し合わせるには、明確な指示
が必要である。

* Gr. Task は?
* Gr. Task は?

(発表)

出た意見全部を発表することを
原則とする。 Gr. Task は?
発表したことはグループで責任
を持つ

具体的にはどんな事をさせるのか

参加度を高める為に、指導過程の中にバズを積極的に
計画する。
多様な相互作用の方法を設定する

話し合い以外にどんな方法があるか

課題に対する
考えが浮かない子どもを参
加させる

(個人思考) 2~3分間

相互作用は自分の考えを
持っていないと成立しない

(発表)
考えが持てない子ども
にヒントを与える

考えの持てない下位群児を
参加させる
模倣の奨励

相互作用の方法
と内容

(バズ)
みんなが参加でき協力の
大切さが実感できる方法
を探る
多くの方法の中から望ま
しいものを選択する

(発表)

事例を挙げて、相互作用の方法と内容の理解を図る

授業過程のどこでバズを計画するか

授業過程の
どこでバズ
相互作用を
させるか
そのポイント

レディネスの調整 { 前時の復習
既有知識の整理

中心課題の解決 { 確実な理解
理解の確認
深化・拡大

学習内容の習熟 { 練習
相互評価

評価活動とペーシング { 質問・疑問の集約
要求の集約
(ノート整理)

よりよい相互作用を成立させるためには
どうしたら良いか

役割と相互
作用の評価

班長の役割 誰もが班長で、誰もがフォロアー

フォロアーの役割

良い相互作用の成立を図るための評価表
デモンストレーションによる学習

バズ学習を
阻む要因

経験則を事例を挙げて説明する

バズ学習はオール
マイテイーではない

教師の役割

何を意識すれば良いか
手作りのバズ学習

子どもと教師で作り上げ
ていく

今日の学習のまとめをして、分か
らないことはないか確認する

(バズ)
質問のまとめをする

昭和33年の指導要領の改訂以後、数学科のねらいとして数学的な見方・考え方を身につけさせることが目標となって久しい。果して、生徒に数学的な見方・考え方を養い得たであろうか。また数学的な見方・考え方を養う授業が展開できたのであろうか。さらに、数学的な見方・考え方を培うための教師の授業力が向上してきたのかどうか再検討すべき課題である。

数学的な見方・考え方とは何かについては、多数の見解が出されているが、中学校の数学の授業で、こういう考え方があるとか、この考え方が演繹で、これが帰納であるなどと教え込むことは無意味であろう。なぜならば、数学的な見方・考え方は、教えるものではなく、つかみ取らせるものだと考えるからである。つかみ取らせるための手だてが授業で開発されてきたであろうか。どうかすると、日々の授業では生徒の知識理解、技能面にウエイトがおかれ、高校入試のための数学に陥ってきたきらいはなかったか。

一方、数学的な見方・考え方を数学という範囲に限って指導するのではなく、数学を通して学ぶことのできる、他の一般的なものの見方・考え方もも指導することも大切な視点であると考え。例えば、無駄を省き合理的に捉えようとする態度、途中であきらめないで最後までやり抜く態度、まちがっていないか検討確かめをする態度、どのような方法で解決に導くかというストラテジーを考える態度など、社会に出て役立つ見方・考え方であって、大切な目標であると考え。ここでは、数学的な見方・考え方だけでなく一般的なものの見方・考え方もねらいに含め意図を広く捉え問題解決能力を養うことを目標として進めていきたい。

平成元年の新指導要領の改訂で「課題学習」がその目玉として取り上げられている。問題解決能力を高めるといふ時代に即応した内容で、これからの生徒に必要不可欠だと考えられて出されたものと考え。その根底には、この数学的な見方・考え方を身につけることが脈々と流れていることは否定できない。この課題学習の取り組みについては、今までの数学的な見方・考え方を育てる教師の授業力が試されることになるように思う。

いろいろなものの見方・考え方は、自分でつかみ取るものであるが、アイデアなり、問題解決能力を育てるための心構え、問題の深め方、問題解決に必要な方法などの素地指導は、生徒どうし、また生徒教師間のコミュニケーションがあって生まれるものである。お互いの考えが練り合わされ、検討され高められて行くものであって、班によるバズ学習が必要となる。またこうした学習は日々の授業で行なわれなくてはならないことから、班を鍛え、授業で生かされる形態を創り上げていく必要がある。

「課題学習」を進めるにあたって

問題解決能力を養うための日々の授業（班）での耕しをどのようにするか。

数学を創る（do math）立場で、どのような心構えで問題に取り組むか、また、どのように問題を深めていくか、さらに解決に必要な迫り方についてどのような素地指導をしたかまとめてみる。ここでいう心構えは問題を解く以前の未知のものに挑戦する心構えであって、自主的に、明確に、簡潔に、合理的に、発展的に捉えていこうとする姿勢である。次に、どのように問題を深めて行くかは、問題を多面的に捉えさせ、解法について様々な角度から吟味するという態度であり、さらに解決に必要な多様な考え方、ストラテジーを身につけさせたいという意味である。ここでは、それぞれの授業で類出する指導例を記しておく。

1. 問題に取り組む心構えを養う

- ◎自分の力で解いてみる。
 - ・既習の知識を生かそうとする。
- ◎理解する工夫をする。
 - ・背景を考える。
 - ・根拠を明らかにする。
- ◎追求していこうとする。
 - ・いろいろに変えてみる。
 - ・場合を考えてみる。
 - ・発想の転換を図ってみる。
- ◎発展させてみる。
 - ・実際に現実の問題を解いてみる。
 - ・次の問題に生かす。

2. 問題を深める方法を身につける

- ・より簡単に
- ・より独創的に
- ・より多様に
- ・より発展的に
- ・より適確に

3. 問題解決に必要な迫り方を身につける。

- ・動かして考えてみよう。
- ・結論から考えてみよう。
- ・考える助けになるものを見つけよう。
- ・いろいろな場合をひとつにまとめよう。
- ・見通しを立てて総合的に判断しよう。
- ・変化を捉える見方を身につけよう。

「課題学習」を進めるにあたって

問題解決能力を養う授業をどのようにするか。

1. 課題設定の留意点

「教科書で教える」と言い古されたことばではあるが、「教科書を教える」ことから少しずつ、教科書で教えられる教師になりたいものである。教科書の内容をどのように課題として設定するか留意点を、つぎのように考えている。

- ①学習の内容が生活の知恵に結びつきやすいもの
- ②解法が多様に考えられるもの
- ③いろいろな見方・考え方の養えるもの

2. 授業における課題の具体例

課題Ⅰ-1 (1年内容) つぎの方程式をどう解きますか。

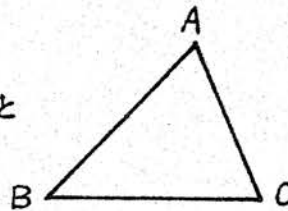
(より簡単な解き方を搜してみよう。)

- (1) $0.2x - 3 = 5$ 左の方程式を工夫して
- (2) $120x - 12 = 60x + 72$ 解きなさい。

課題Ⅱ-7 (2年内容) 下図とまったく同じ三角形を作図してみよう。

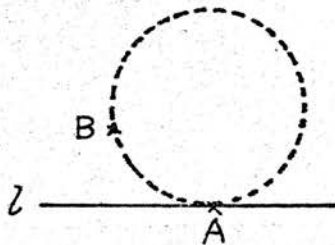
(学習したことをつぎに生かそう。)

1年のときと同じ方法でなく、コンパスと定規だけでかきなさい。



課題Ⅲ-6 (3年内容) できたとして作図のパターンを考えよう。

(結論から考えてみよう。)



直線 l と直線 l 上の点、および直線 l 上にない点 B がある。

点 A で直線 l に接し点 B を通る円をかいてみよう。

3. 授業の進め方（課題Ⅲ-6を例にして）

①各班でレディネスの点検を行なう。

班→全体

- ・チェック1 円はどのような点の集まりといえますか。
- ・チェック2 接線はどのような線ですか。
- ・チェック3 垂直二等分線の作図ができますか。
- ・チェック4 垂線を引く作図ができますか。
- ・チェック5 2点から等距離にある点の集まりは何になりますか。

②解決の見通しを考える。

個人→班→全体

- ・どうすれば作図できるのか。
- ・何がわかれば作図できるのか。
- ・何がてがかりになっているか。
- ・既習事項の何が役に立つのか。
- ・作図の順序をどうするか。
- ・作図が合っているかの確認をどうするか。

③作図題の方略（ストラテジー）を考える。

班→全体

○方略1 問題を図に示す

↓

○方略2 できたとして図をかく。

↓

○方略3 何がわかればかけるのかを考える。

↓

○方略4 予想したことをてがかりから推し量る。

↓

○方略5 すでに学習した知識・技能を思い出す。

↓

○方略6 問題が解決したかを確認める。

④どのような見方・考え方を知恵として学んだかを出し合う。 個人→全体

- ①できあがったものから、どのようなしくみになっているかを考える姿勢。
- ②問題を解決していく方法がわかるとあとは機械的に進められる。
- ③目標を決めてそのために何をすればよいかという進め方。
- ④基礎がしっかりしていないと、複雑な問題に対応できない。
- ⑤問題を解決するしかたをまとめること。
- ⑥てがかりを見つけるために図や表をかくこと。
- ⑦予想したことは、根拠があってはじめて正しいと判断できる。
- ⑧いままでに学習したことを生かしていくこと。

生徒側に立った学習について

(財)アテネ会館 専務理事 西塚茂雄

この標題は、私たちの教育的活動が、敗戦の明けの昭和21年からはじめて、今日までの45年間を総括したものであります。その間、研精塾(S.21―)、アテネ学習会(S.40―)、(財)アテネ会館(S.41―)と何度も脱皮して、私的な活動から、公的な人格をもった財団法人にまで成長しました。かくして文部省学校教育側の指導要領の枠をあまり気にしないで、また他方の小、中、高、大の入試を中心とした教育産業からはっきり、一線を画したことを公的に宣言して、昭和40年12月23日に、三重県社会教育課を経て、財団法人アテネ会館設立の許可を得ました。

(財)アテネ会館 寄付行為(一部)

第一章 総則

第一条、第二条・・・(削略)

第二章 目的及び事業

第三条 本会館は広く文化その他に関する研究を行うと共に、青少年の健全育成を目途とする社会教育事業を推進することを目的とする。

第四条 本会館は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 1 学問、文化その他に関する研究
- 2 青少年の校外生活、家庭生活の向上
- 3 各種研究会、講習会、講演会の開催
- 4 本会館の目的に適う各種会合への会場提供
- 5 その他の本会館の目的に適う適当な事業

第三章 以下省略

(財)アテネ会館の社会教育的活動の一部を紹介(NHKビデオ14分)

わが寺小屋―83(三重県の巻)

受験勉強をしない塾(S.58.3.17.AM7:25放送)

- 補説(1)石とりゲーム(S.22.8.18;黒田孝郎先生のサマーレクチャーから)
(2)豆板(リレーション・プレート)(S.43.平野次郎先生,集合遊び)
(3)読書(S.40―岩波少年文庫を複数で集める,193種)
(4)ふなの模型(黒田孝郎先生の講演の発展)
(5)ルービック・キューブ(S.55―算数の最小公倍数)

折り目のついた真新しいワイシャツを着て
小鹿の眼のように人なつこく
青葉の風のようにすがすがしい顔をあげて
胸に吹き込む一切の夢を見てとろうと
見知らぬ壇上をじっと見詰めている少年たちよ
桃色よりも柔らかい頬べたを
四月の朝の講堂にみずみずしく輝かせている君たちは
まことに澁刺とした弾力性の象徴
未来と光りのほかには何も見ない
一本気と純潔のほかには何も持たない
大空をかける風の申し子
大地を萌える命の精鋭だ
被いかぶさるもろもろの理不尽をも
すべて無心に受けとめ浄化する
上げ潮の海の匂いのする口許には
おとなしそうで、しゃべりたそうで
恥ずかしそうで、笑い出しそうで
むずむずしている千変万化の可能性が
清冽な若さに洗い出されて光っていた
いまアテネにはやがて逆まく巨大な波となって
無限の空間にとどろきわたる
圧縮されたエネルギーが渦巻いているようだ
君たちの眼に燃え立つ信頼と光明の炎は
まるで天の声を人間にささやく永遠の浄火のようだ
昂然と額をあげて
真理の急坂をよじ登ろうとする見渡す限りの精鋭
もうもうと湧き起こる暗黒の戦雲の奥にも
君たちは「道」を間違えることはないだろう
ただ私はひそかに折った
人間を社会悪のなかに野垂れ死させないために
人間を自らの存在を生き切るために
人間の弱さと血みどろに体当たりする
強い土性骨を太らせることを
この世の少しばかりの誘惑とおめかしを捨て
また君たちのいじらしい誇りをも捨てて
君たちがただ他に換えられない人間になるために
汗を流し泥にまみれても
自らの「道」に猛進することを

アテネ文化活動一覧表 (遊んで・読んで・読んで・読んで・考える)

算数

平成3年より

	小学 4年	小学 5年	小学 6年
月	小学 4年	小学 5年	小学 6年
春	4 ルービックキューブ遊び (一段そろえる)	ゆかいな問題 暗算のできるかけ算 石けん水の実験	アテネ数学憲法 (14ヶ条)
か	5 ルービックキューブ遊び (二段そろえる)	3 角数	虫くい算 覆面算 (系統立て順序よく考える)
ら	タンگرام遊び	4 角数	文算題 (複雑な文章を簡単にして数言葉に翻訳する)
初	6 タンگرام遊び (いろいろな形づくり, 作品コンクール)	あん玉九九 (三重算数物語より)	6 角形の探検 ① 3角形→4角形→5角形 ② 11種の5角形から6角形
夏	7 ルービックキューブ遊び (全面完成をめざす)	ねん土で模型づくり	③ カード作り (ベクトルによる色わけ) ④ 74種以上はないだろうか
	タンگرام遊び	雷の算数 (音の伝わる速さから人間時計開発へ, 花火大会, 信号しらべ)	n進数の計算 (かけ算九九の表を作って計算)
夏	8 ルービックキューブ遊び (より早く完成をめざす)	3 角形の種類	計算問題<その1> (アテネ数学憲法を使ってとく)
か	タンگرام遊び	3 角形の折り紙細工	食塩水の問題 (分数の形にして通分母 通分子を使ってとく)
ら	9 ルービックキューブ遊び (それぞれのキューブの動きをしらべる)	1-100までの素数しらべ	
秋	タンگرام遊び	素数を使って分数計算	
	10 豆板遊び (豆板の枚数・形・角度)	びっくりの算数 ① 1列に並ぶ並び方 ② 輪になる ③ 色ちがいのネックレス ④ 5色のネックレス作り	
	タンگرام遊び		
	11 豆板遊び (作品コンクール)		
	タンگرام遊び		
冬	12 豆板遊び 数学カレンダー作り	素因数分解 (200-500まで)	ぬいぐるみ作り (体積が1/2, 1/3の子犬作り)
	1 豆板遊び (豆板をかえていく遊び)	2 進数の利用	文章題2 (中学入試問題から)
	竹内先生の研究ノート<その1>	① カード作り (数あて, 花あて, 覆面カード)	計算問題 (中学入試問題から)
	2 豆板遊び	② 穴あきカード作り	数学玉手箱から (計算の工夫, 考え方のいろいろ)
	竹内先生研究ノート<その2>	③ 山くずし	
	3 矢野先生“お母さんの勉強室”	コンピュータで遊ぼう	
	ルービックキューブ (世界一周, 模様づくり)		

月	中学 1年	中学 2年	中学 3年	
4	<カ>.....p 5 1.5の公式を形式的に証明する括弧の用法, 分数の計算規則が明かになった(公式から読みとる)	<ス>.....No 1-2 [T. 4.1]-[T. 5.4] ・ピタゴラス学派の手続き 補説; 3平方の定理[T. 5.2]の証明を10通りほど示す。 補説; 正5角形の作図	<ス>.....No 1-3 [基本作図]1-1.3 ・ソフィスト一派の続き	<キ>.....p53-p62 p175-p187
春				
か	<カ>.....p 6-p 2.2 ・零と負の数 零も数の仲間に入れる $a - a = b - b$ の証明重視	<ス>.....No 1-3 [T. 5.5]-[T. 7.7]系3 ・ソフィスト一派		<キ>.....p62-p64 p188-p190
ら	零を含む計算・負の数の誕生, 負の数の計算			
初	<カ>.....p 2.3-p 3.0 ・文字式, 指数の性質, 展開			
夏	<カ>.....p 2.3-p 3.0 ・因数分解(公式の運用を重視)			
8	<カ>.....p 3.8-p 4.7 ・分数の誕生, 計算, 歴史 (夏休み特撰)<カ>..... p 3.4-p 3.7			
夏				
か	・因数分解 8.5題 (0.B.とともに)			
ら	<ス>.....No 1-1 [T. 1.1]-[T. 1.7] ・イオニア学派	<キ>.....p14-p23		
秋	転換法を基礎に[平行線の定理][仮定][第5公準]を柱にユークリッド幾何論が建設される。			
1	1.1 <ス>.....No 1-1 [T. 1.8]-[T. 1.10] ・ピタゴラス学派 補説; 「3角形の2辺の和は	<キ>.....p24-p25 演習問題A・B		<キ>.....p72-p75 p206-p208 演習問題A・B
1	1.2 他の1辺より大きい」は[T. 2.4]でやっと到達した!ここに万人を納得させる科学的精神がうかがえる。 補説; アテネ会で開発した3角形の折り紙細工は, [T. 3.7]にきて, 「どうやって折ってからやるせ」の答えを[T. 3.7]で科学的に証明した。		[<ス>終わり]	<キ>.....p143-p158 (冬休み特撰) <キ>.....p37-p39 演習問題A・B (アテネ0.B.とともに) <キ>.....p40-p50 <キ>.....p51-p52 演習問題A・B
冬				<キ>.....p218-p219 演習問題A・B

<テキスト> 図; 幾何の生い立ち 矢野健太郎(修学館) 絶版 アテネ版幾何の生い立ち... 略記<ス>
 数; 数の生い立ち 矢野健太郎(岩崎書店) 絶版 アテネ版数の生い立ち... 略記<カ>
 基礎; 基礎の数学 矢野・石原繁編(装華房)
 幾何の証明 大矢(岩崎書店) 数学遊びと作り方 大矢(さ・絵・ら書房)
 数学がみえてくる 田村(岩崎書店) 数学と人間の歴史 黒田(国土社)

[注意] (定理1)は[T. 1]と略記する。

I. なぜ、「発言力を高める・・・」なのか

1. 本校の教育目標

自ら学び、広い心で、心身を鍛える生徒

2. 学習指導部の指導方針

- ・生徒一人一人が意欲的に学習に取り組み、学力の向上を図れるようにする。 E/A
- ・分からないことを質問したり調べたりして解決しようとする態度を身につけさせる。 E/A
- ・学習に取り組む基本的態度・習慣の育成を図る。
- ・学習規律を身につけさせる。

3. 学習に関する実態の推移

本校は、昭和55年創立の、まだ新しい学校である。新潟市の郊外、東部に位置し、校区の大部分はいわゆる新興住宅地と呼ばれるもので、新潟市の外郭住宅地区の一部に属している。全校生徒1000人・25学級の大規模校である。保護者の平均的学歴水準は高く、教育への関心も強い方であるが、その一方で個人的な学力へ、その関心が偏りやすい傾向も感じられる。

創立当初は、学習・スポーツの両面にわたって活発な活動が展開されたようであるが、創立5年を迎えるころから非行の風が吹いてきた。生徒の行動に落ち着きがなくなり、当然学習環境にも影響が及んできた。学習規律が低下し、学習そのものに対する意欲も低下したようである。このことは、当時の進学の実績上にも現れているほどである。

校内に吹き荒れた非行の嵐も、3、4年後には鎮静化の兆しが見え始め、昨年度から本年度にかけてはめざましく改善されていった。

そうした状況の変化とともに、学習に対する意欲や態度も徐々に良くなってきた。本年度の学習に関する目標は、それらの経緯を考慮しながら設定されたもので、生徒自らの手で学習が進められるための大切な段階を迎えていると考えている。

II. 実践の概要

1. 授業に活気がない

小学校から中学校に移籍して最初の年、念願の英語が教えられることへの意欲と不安が入り混じる。喜び勇んで教室へ・・・

そこで、第一声「Good morning everyone!」

そして生徒から、「Good morning Mr. Inoue!」と挨拶が返ってくるはず??

しかしその期待もむなしく、44人の学級なのにほとんど声が聞こえなかった。

授業に活気がなく、英語の学習では命ともいえる発声がとにかくできなかった。教師と学習者が一体になって授業を進めるには、私と生徒個々のつながりの中だけでは、この状況はどうてい変えがたいものに思えた。

2. 一緒に楽しむことと、集団で守ること

何とかして授業に活気を持たせ、生徒がいきいきと活動するためには何かから取り組めば良いかと考え、2つの大きな柱を考えてみた。

学習のルールは、学習者
である生徒自身で、守っ
ていくべきものである。
(学習規律・学習環境)



英語学習の最も本質的なことはコミュニ
ケーションであり、それが満たされる授
業・活動が活発化への糸口となるは
ず。(コミュニケーション 活動の充実)

授業を、私が考える理想に近い状態にまで成立させるには、まずもって生徒自身の姿勢を変えなければならないと思ったのである。

学習の道具や必要な予習・復習、さらに定刻に授業を開始するための行動などといった学習に対する姿勢を、何らかの形で良い状態に持っていきかけたのだ。

もちろん授業は教師で決まるものだろうから、私自身が50分の授業を全力で組織?していくことが前提だが、それまでの私の実践では学習規律を確立させることの前提に立っての授業の展開があったわけで、どうしてもそういった方式では、活気ある活動・主体的活動と規律の部分が分かれてしまいうまくいかないことも多かったのだ。

さらに、学級集団作りのうまくできている学級とそれほどではない学級で、大いに隔たりが出てしまったのも過去2年間の実践での反省点だった。

そこで、英語学習の大切な(本質的な)要素である、コミュニケーションを中心に捉え、教材の使い方と学習活動の中身を、より生徒たちが互いにふれ合い関わり合っていくように吟味することで、生徒集団の意識の高揚を図り、そこ

を大切に育てながら、自らの学習規律・学習環境を整えていく意識をねらおうとしている。

具体的な活動の中で、生徒の反応や生の声を良く聞くことで、次の展開を模索している最中である。

個々の生徒が、さまざまな要因で、互いに声をひそめるようにしている状況の中で、まず初めに取り組んだことは、ペアを作ってさまざまな活動を試みることだった。

・ペア早読みゲーム→ テキストやプリントの文章を、2人1組になって音読し合う。状況によって、時間を競い合ったり、間違った発音をチェックし合ったり、更にレベルアップしてイントネーションや細かい部分まで目指したりする。

・インタビューゲーム→ 既習及び新出の文法事項の習熟の段階で、自分から相手をさがして必要なことを尋ねたり、答えたり、はたまた書いてもらったりする活動で、採さなければならない相手の数や条件で、難易度が変化するもの。

・その他、ビンゴゲームや英単語しりとりなど、さまざまなゲーム的要素のあるもの。

とにかく、まずは生徒たちの口を軽くすることに主眼を置いたわけなので、少々??騒がしくなることは、仕方なかった。このお陰で、昨年度担当した3年生での授業に比べ、ずいぶんと雰囲気は柔らかくなったようだ。

昨年度、私自身が(むろん生徒もだが)最も苦しんだことは、進度が予定通りに進まないことでも、騒がしくて授業にならないことでもなかった。それは、一口にはなかなか言い表しにくいのだが、生徒が本来持っているであろうはずの、活気や知的な好奇心や興味といったものがストレートに表に出て来にくい雰囲気のようなものだったのだ。

その点では、思いきったゲーム的活動の導入は効果的であった。さらに、ほんの少しずつではあるが、英語の学習を好む生徒も出てきていること、そして、予習や忘れ物の状態が好調になってきていることも良い兆候であると思っている。

3. 発言力を高めるために

発言を活発にして、いきいきと学習活動に取り組む生徒の姿を目指して実践してきたことを以下に記述してみたい。

ア. 読みの指導における実践

- ・聞き取り読み→ 2人1ペアとなつて、1人が英文を文節ごとに区切りながら音読し、もう1人はそれを聞き取つて、文節まで音読する。その際に、自分のテキストは見ないようにし、途中で言えなくなつた場合は相手にもう一度その部分を音読してもらう。
この練習の発展型として、2人の間隔を2mや3mに広げてやってみたり、文節を2つくらい連続して読んだりすることもできる。
- ・時間読み→ 最初に誰かとペアを作り、テキスト1人が読みもう1人が時間を計る。そして、時間の早かつたものを勝者として、勝者は別のペアの勝者を捜してまた同じことを行う練習。

考察

読みの練習は、その後の授業で声をスムーズに出すための大切な導火線としての役割も担っていることが良くわかつた。単純な反復練習をいろいろな形で生徒相互に行わせることで、練習量そのものが多くなつたし、個々のレベルに応じた練習もできたようである。

特に、読みの練習の後におこなう内容理解のためのワークシートへの取り組みが非常にスムーズにできて、これまでにない意欲的な姿も多く見られた。

イ. 内容理解の実践

・読みの練習からワークシートへ

ペアで読みの練習を行った後に、そのまま内容理解のワークシートに取り組む方法で、これまで1人で行なっていた時に比べて自然な形で作業の分業ができるので、時間的にも正確さでも効果があつたようである。

特に、この方法を用いたことで生徒が集団（2人ではあるが）として教師に質問したりする傾向が現れたことは、大変望ましいことと思える。このことが、文法などの理解の段階でこれから生かされていくと思われる。

ウ. その他の実践

現在英語学習の分野では、コミュニケーションの能力の充実が盛んに叫ばれているが、自らが学習している言語を実際に使っていくことこそがコミュニケーションその物であり、生徒が相互に質問し合つたり、ゲーム的な活動をすることが、その能力の育成にとって必要だと感じている。そういった意味では、英語学習

のかなりの部分を占める習熟の活動は、生徒相互の人間関係をよりシビアでより円滑にするための手法が用いられることが望ましいと考えている。

Ⅲ. まとめ

まだまだ実践が初歩的な段階であり、班単位で学習に取り組んでいくようなレベルにまでは達していない現状ではあるが、より多くの生徒どうしが関わり合うことが必要になるような活動を多くしていくなかで、生徒自身が互いのレベルを知らずしらずのうちに向上させ合う作用を持っていることが分かったのは大きな収穫であった。

自分たちで進める活動を設定することで、教師の説明を聞く部分と個人で学習する部分と集団での活動の部分が明確に分かれ、集中を要する時間が生徒にも把握できるようになってよかった。

今後の展望であるが、新規に学習する事項を教材化する際に、学習班全体で取り組む必要の生じるものにしていくことを試み、理論的な文法の理解・習得のための試行錯誤ができるようにしていきたい。

以下、資料。

質問カード	答え
-----	-----
-----	-----
-----	-----
について、質問します。(氏名)	

※このカードは、個人やペアの学習の段階で、自分たちで調べて分からないことや、時間を節約するために質問をしておこうというカード。

このカードは、解答を入れてそのまま黒板に張っておくので、残りの生徒は、まずこのカードを調べてから学習を進める。誰が質問したかが分かるので、感謝の声が生まれることも・・・。

基本文型 []
Question1. [?]
Answer1. []

Question2. [

Answer2. [

~~~~~  
※新しいことが出ると、すぐに使いこなしてしまおうということで、ノ化をねらって作ってあるカード。生徒は、このカードに質問を書き、手を捜しに出発することとなる。

いつも机の上に用意しておき、何枚でも使わせる。この時に、英手な生徒には、質問カードが有効な武器となる。

LET'S PLAY "HANGING GAME!!

1. \_\_\_ m \_\_\_ r

2. L \_\_\_\_\_

3. \_\_\_ e r

•

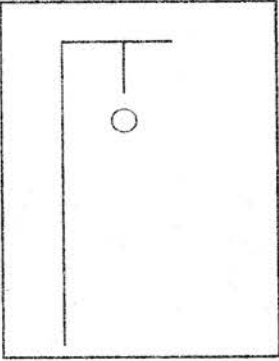
•

•

•

•

•



※ 新出単語の学習確認の意味で)を、でゲーム的に行のカード。

(使い方)

グループの1人がとなって、単語につントを言う。その後、ランクに入るアハアハッていく。

もし間違っていたらしたがどんどん書きいくというもの。

私は、全部の単語るまでに、首ツリに

まった班には、単語の家庭学習を命じることになっている。

校内研究実践報告書 (1 学期)

氏名 井上 哲郎

1. 教科 英語科

2. ねらいと手立て

- (1) ねらい：生き生きと、意欲的に、英文を読むことができる。
- (2) 手立て：ペアの形態を活用した、読みの練習。  
「聞くこと」を重視した、読みの練習形態の導入。

3. 教本才 「白魔の悲劇—スコット南極探険隊」Total English B.K.3/Lesson 4 ㉠、㉡

㉠ In 1909 two men decided to go to the South Pole : Roald Amundsen and Robert Scott. Both men took two years to get ready. They had to go over high mountains and much snow. Amundsen took 4 men, and dogs to pull his sleds. Both dogs and men could eat the same food. His sleds were light and he moved fast.

Scott took 3 men, and horses. He had to carry heavy food for the horses. At the last minutes he took a fourth man, too.

㉡ Scott's trip was a tragedy. The horses died and the men's food was not enough. Here is a page from his notebook.

"January 18, 1912. We have just reached the Pole. At last! But we haven't reached it first. Someone has already been here. It was Amundsen. We have found his tent. We wanted to be first. But our dreams have gone. The trip back will be long and hard."

4. 略案

| ねらい                                                                  | 教師の働きかけ                                                                        | 生徒の学習活動                                                                                                 |
|----------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・文の構造を意識しながら英文を聞く。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・範読テープをかけ、1文ごとにポーズをとって、聞かせる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・テープを聞きながら、ポーズの間に頭の中でリピートする。余裕のない生徒は、覚えていない単語に読みをつける。</li> </ul> |

|                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・読みの分からない単語を確かめながら、全体の読み方を確認する。</li> <li>・正しい読み方を確認しながら、練習をする。</li> <li>・意味の固まりを、音の固まりとして、意識しながら読む。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・前文を通読して聞かせる。(1~2回) 2回読む場合は、特に2回目に、文の構造を意識した読み方をする。</li> <li>・速やかにペアを作り、読みの練習方法を指示する。</li> <li>・区切って読むポイントを説明し、「/」を書き込ませ、再度、「聞き取り読み」をさせる。</li> <li>・全体で、教師の後について、一斉読みをする。</li> <li>・内容理解に関するワークシートに、ペアのまま取り組ませる。</li> </ul> <p style="text-align: center;">後略</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字に集中しながら、聞く。アープを聞いた際に読みをつけ切れなかった単語を、早い段階で書いていく。</li> <li>・2人で1ペアを作り、読みの練習をする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>①最初は、1文ずつ交互に読み合い、分からない発音や間違った発音をなくしていく。</li> <li>②次に、「聞き取り読み」(1人が英文を読み、もう1人がその発音を聞き取って繰り返す読み方)をおこなう。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・再度、「聞き取り読み」をする。</li> <li>・その場で、ペアの形態のままでコーラス・リーディング。(できるだけ、スピードを落とさずに読むように努めながら)</li> </ul> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 5. 考察及び反省

- ・「聞き取り読み」を導入したことで、生徒の意識の中に、ペアの必要性のようなものが、少しできたようで、そのことが集中した練習をする要因となつたように思われる。
- ・どうしても、力量のない生徒のペアでは、練習量が少なくなるので、その部分を考慮していくことも大切であると思われる。

# 「学習時の挨拶自己評価表」の結果について

学習委員会

おそくなりましたが、「学習時の自己評価表」の結果がでたので、お知らせします。実際集計したところ、問題点が多くて、正確なものには、なりません。とにかくクラスごと、班ごとの数の差の多いことに、疑問を感じました。きちんとつけていて、数がよいのなら、すばらしいことなのですが、表のずがいがいかに影響しているのか、数がよい「0」の続くものが多くて困りました。各クラスの班長は、きちんとつけていたのでしょうか？

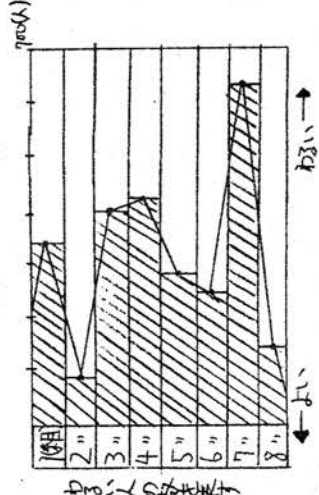
まあ、今回は第一回目ということで、仕方ない事なのですが、第二回目も、今学期中に予定しています。そのときには、どうぞ協力をお願いします。では、各学年ごと、全体の結果について、お知らせします。「学習時の挨拶自己評価表」

## (1年)

一年生は、とても正確に表に書き込まれていました。その中で2組の悪かった人の人数「70」は、とてもよい評価でした。7組は、少し挨拶、声の大きさがよくないようなので改善しましょう。全体的に一年生は、すばらしい挨拶ができています。

|    |      |
|----|------|
| 1組 | 332人 |
| 2組 | 70人  |
| 3組 | 402人 |
| 4組 | 439人 |
| 5組 | 295人 |
| 6組 | 265人 |
| 7組 | 624人 |
| 8組 | 127人 |

※10日間総合で

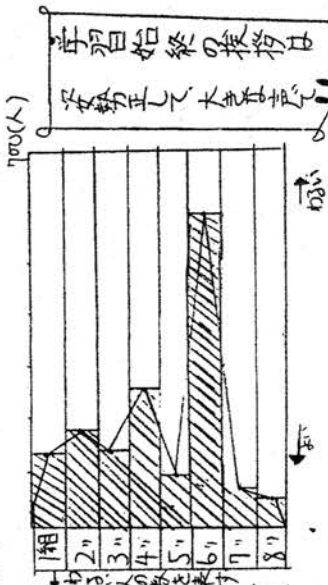


## (2年)

2年生は、表の書き込み方が雑だったと思います。そのためか、クラスごとの差がでてきました。7・8組については、正しく評価されたのなら、すばらしい値がでてきます。5組については、用紙の提出が、3まいだったので、当然のことです。6組については、班長が、厳しすぎたせいか、すごい数になっています。しかし、直す努力が必要で、2年生は、全体的にもっとよくなるように、がんばらなくては、いけません。

|    |      |
|----|------|
| 1組 | 135人 |
| 2組 | 180人 |
| 3組 | 136人 |
| 4組 | 250人 |
| 5組 | 98人  |
| 6組 | 65人  |
| 7組 | 66人  |
| 8組 | 46人  |

※10日間総合で

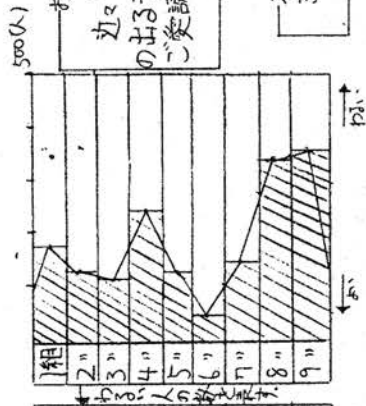


## (3年)

3年生は、とても正確に評価されていました。しかし、内容的には修学旅行などで、調べる日数が、短くなっただけでなく、2年生よりも、ひどい評価です。クラスごととみてみると、だいたい平均しています。学校の顔とも呼ばれる3年生が、これでは、こまります。下級生の見本となるような挨拶ができるようにして下さい。

|    |      |
|----|------|
| 1組 | 188人 |
| 2組 | 139人 |
| 3組 | 118人 |
| 4組 | 232人 |
| 5組 | 109人 |
| 6組 | 27人  |
| 7組 | 118人 |
| 8組 | 334人 |
| 9組 | 350人 |

※10日間総合



# 学習委員会新聞

H.3.6.3  
三年生版

授業中の様子について  
(各クラスの学級委員と班長はアンケートに回答)

## 〔国語〕

- ▶ 授業時の声がかさかす
- ・ 出す人と声を出さない人がいるなど

- ▶ 授業中の態度
- ・ 一語私語が少
- ・ 静かにしてよく学習しているなど

- ▶ 発表・発表の態度
- ・ ほとんどの人が準備が整った
- ・ 一部の人は緊張する等

## 数学

○ 授業時のあつまっ付とんだ状態ですか。

- ・ きちんと聴いていてよい。
- ・ 国語よりも声がかたでている。



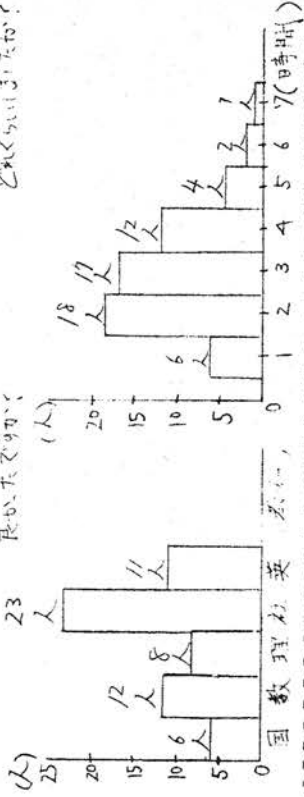
- 授業中の態度はどんな状態ですか。  
・ 時々騒ぐ人まいるが、みんなは静かである。  
・ 問題を解くときは、真剣です。
- 発言、発表の状態、まっ付の拳がらな理由。  
・ 決まらなしかま拳がらない。・ ほとん拳がらない。  
・ 拳がらな機会が少ない。・ 恥しい。・ わからない。

国語でも数学でも授業時のあつまっ付は、大部分の人がまっ付とまっ付のあつまっ付がらな理由は、ほとん拳がらな理由が少ないことばななと思っとう 決まらな人がまっ付とまっ付がらな理由が、クラスみんなが 進んで発言、発表と(こま) 来(こ) 零団が 勉強がまっ付(こま)。

## 中間テストアンケート

(60人の人に関する結果です。)

Q: テストの結果どの教科が1番 長(なが)い(長い)か? Q: テスト勉強は旧平均と比べるとどうですか?



良かった教科については、社会、数学、英語、理科、国語の順に人数が多いです。学習時間は、2.3時間が多いです。  
お前はどうか?

# よりよい人間関係を築く道徳指導

## (バズ学習と道徳指導)

東京都青梅市立第1中学校 埴水尾 祐文

### 1. はじめに

中学校指導書道徳編、第1章「道徳の目標及び内容」の第1節「道徳の基本的な在り方」1. 道徳の意義では、道徳教育は人格の形成の基本に関わるものであるとし、人格の形成は、人が自己を主体的に形成することによって行われる。とある。また、道徳は、人と人との関係の中での望ましい生き方を意味しているとし、さらに、道徳は、具体的に、人間社会の中で人間らしく生きようとする生き方という意味を持っているともある。

また、第5節「内容項目の指導の観点」の2. 主として他の人とのかかわりに関することでは、(2) 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し感謝と思いやりの心をもつようにする。(3) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うようにする。(4) 男女は、互いに相手の人格を尊重し、健全な異性観をもつようにする。(5) それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、謙虚に他に学ぶ広い心をもつようにする。とある。

このように、道徳教育の指導書を読んでいると、「バズ学習」の基本的な考え方と一致することが出て来る。例えば、話合いの場が多い→人の立場、人の価値がわかる→「注意しやすくなる」「注意を素直に聞く」→真の友情が育つ→よりよい人間関係が育つ。というようなことである。

私は、このようなことからバズ学習と道徳とを関連させて考え、実践してみようと考え、以下のようなことを試みた。

### 2. 実践例 「よりよい人間関係を築く道徳指導」・・・バズ学習を効果的に生かしたボランティア学習の試み

#### (1) 主題設定の理由

現代っ子の傾向として、耐性や社会性の欠如が言われている。これは、少子化や社会構造、地域社会の変化などによる社会的訓練の不足によるもので、本校においてもこのことに起因する問題が年々増えてきている。

例えば、「他に対する配慮のなさ」や「思いやりに欠ける」言動は、「人が人としてお互いを認め、助け合い支え合いながら生きて行く関係」要するに「人間関係作り」ができていない証拠であると思う。

私はこのことを自分の問題として、学級指導の中でどの様に解決して行くかを考えた。その結果、どうすれば「よりよい人間関係」を築いて行くことができるかについて、生徒に考えさせるための方法の一つとして、ボランテ



ィアの考え方を導入した。さらにその指導の課程において、頭の中で想像するだけの「人間関係」作りだけでは意味が無いと思い、バズ学習をその中に取り入れることにより、自由な対話を通じて人を認め合うというボランティア精神が、身を持って体験できるように考えた。

(2) 指導経過

- ・ 1時間目 ボランティアとは プリント解説
- ・ 2時間目 VTR「中学生のボランティア」 感想文を書く
- ・ 3時間目 ボランティアとは 感想文より
- ・ 4時間目 バズ学習とは
- ・ 5時間目 バズの話合い ボランティアについて
- ・ 6時間目 ボランティアと人権尊重(研究授業)
- ・ 7時間目 体験学習準備 心構え等
- ・ 8時間目 特別養護老人ホーム「青梅園」訪問 *Muse 訪問*
- ・ 9時間目 感想文を書く *Train (2日)*
- ・ 10時間目 まとめ

(3) 班編成の方法

青梅1中第1学年の方法(今回はこの方法を採用)

- ・ 男女混合 1クラス6班  
(1班につき班員5~6名)
- ・ 中央、生活、学習委員(班長)を決めてから班編成を行う
- ・ 班長が男子(女子)の時、副班長は女子(男子)とする
- ・ 中央、生活、学習委員(班長)は、他の係を兼ねない
- ・ 班によっては学習が一人の場合もある。
- ・ 班編成は、原則として1学期に2回までとする。

| 係 \ 班 | 1   | 2   | 3   | 4   | 5   | 6   |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 班 長   | 中央男 | 中央女 | 生活男 | 生活女 | 学習男 | 学習女 |
| 副班長   | 女   | 男   | 女   | 男   | 女   | 男   |
| 美 化   |     |     |     |     |     |     |
| レ ク   |     |     |     |     |     |     |
| 学 習   |     |     |     |     |     |     |

### 3. 問題点と今後の課題

本校の道徳指導の年間計画については、道徳委員会が毎年作成し、各学年毎に具体的な計画を提示している。さらに、各学年にいる道徳委員会の教師は、その月の主題に合わせた資料も提示し、今年度に至ってはすでに4回の学年一斉の授業を実施している。しかしながらこの回数は決して多いとは言えないし、担任がどのような考えの基に、どのような方法で実施しているかは疑問である。

そういう私自身も今回のボランティアを通しての「人間関係」を学ばせるといふ内容についても、まだまだ本当の意味で自分のものにしていないところもたくさんあり、もっといろいろな場面で実施していかないと私自身の勉強にもならないし、生徒にとってもただ数回の経験では、間接体験にとどまってしまう恐れがある。

またバズ学習においても、今回の試みは、話し合いについての一つの方法として扱ったものであり、ほんの一部にすぎない。私のクラスでは、期末試験前の班学習や、学活時に時々活用しているもののまだまだ回数的には少ないように思う。

しかし、このような試みは効果が無いというのでは決してなく、上記のような場面で活用することにより、学習効果は向上したし、クラスの男女の協力は他のクラスに比べはるかに良くなったと思う。

この活動が、もっと確実なデータとしてここで述べられないのは、前述した回数の問題と、もう一つは学年、学校の教師に理解を求め、全体の動きとして取り組んでいないからである。（バズだけでなく、道徳の授業もそうである）

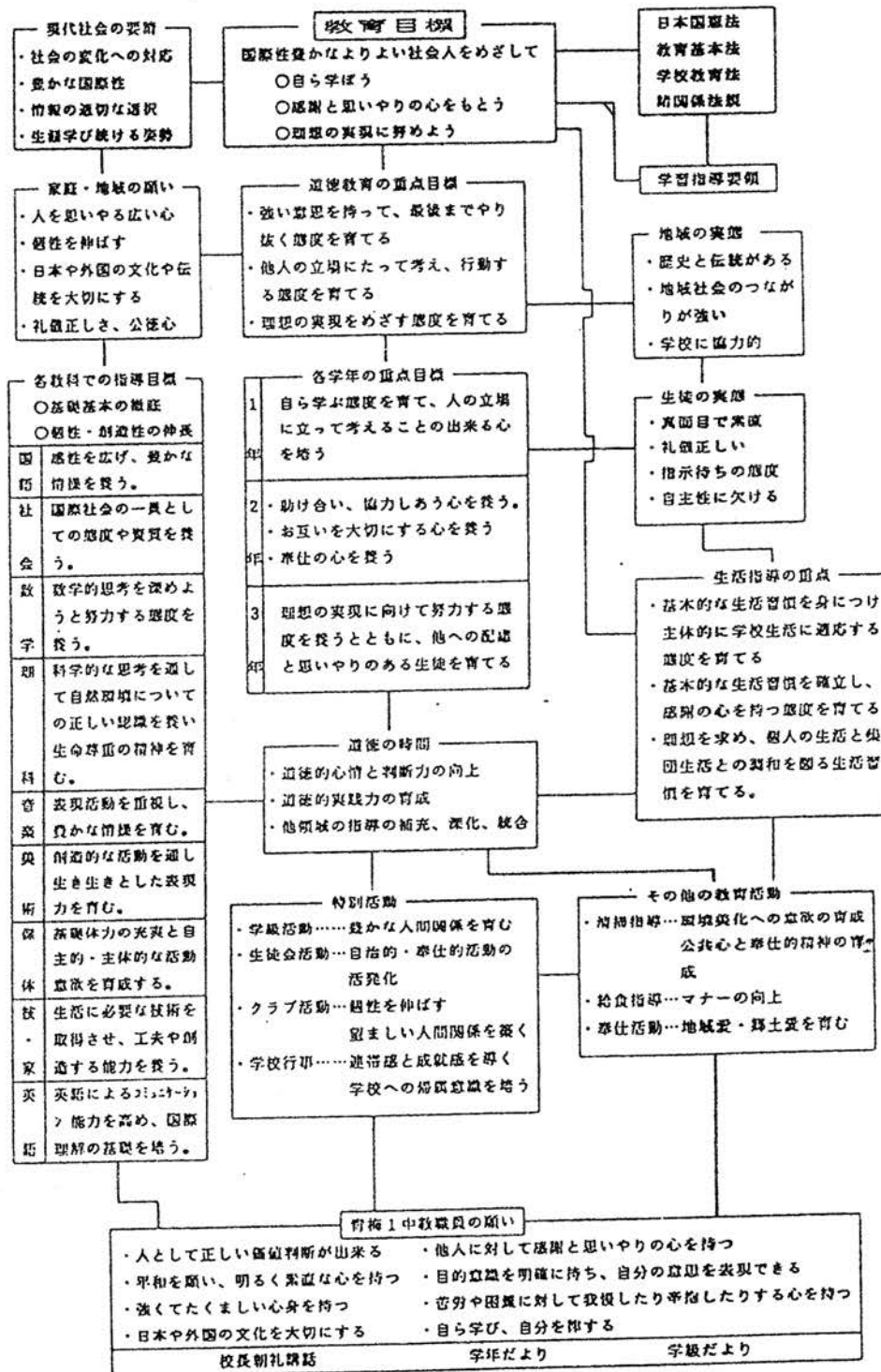
中学校の授業においては、教科担任制であるため、小学校のように多くの教科にわたり、いろいろな場面で実施することは、一人の動きでは難しい。

ご存じのように、バズは、学校における全教育活動に活用できるはずだし、道徳においても全く同じことは言えるのである。（2 道徳における指導の指針（2）日常生活における道徳的実践の指導に配慮する 参照）したがって、今後我々はもっとバズ学習の効果を広く教師に知らせ、せめて学年の動きくらいに広げることが必要である。そうすることによりバズの効果は一層高まることは確実であろう。

道徳とバズは、その目的とすることがたいへん近いこともあり、現在東京都立教育研究所の道徳の研究員の中でも注目されつつある。したがって、道徳におけるバズの研究実践は、バズの益々の発展に寄与するものと確信する。



参考資料



(4) 研究授業時のバズの展開 (平成2年10月25日実施)

|           | 学習内容と教師の発問                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 生徒の活動                                                                                                                                                                        |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入<br>10分 | <p>1. 1学期に学習した内容を確認させるために、生徒の書いた感想文を配布し、黙読させる。黙読の結果どんな感想を持ったか発表させる。</p> <p>(1) 感想文を読んで、どんな感想を持ちましたか?</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | <p>1. 感想文を黙読し、意見を発表する。</p>                                                                                                                                                   |
| 展開<br>25分 | <p>2. 生徒のボランティアに対する感想をもとに、体の不自由な人や高齢者に限らず、学校の仲間や、学級の友達とつきあう時も「自分が上だ」とか「やってあげる」というような高い立場からではなく、「同じ仲間」としてつき合うことが大切であることを説明する。</p> <p>(2) 「同じ仲間としてつき合う」とはどんなことか班で話しあってみなさい。</p> <p>3. 班ごとにBUZZセッション開始を指示する。</p> <p>①話し合う時間は7分<br/>②司会は班長<br/>③全員の意見を聞けるようにする<br/>④出た意見を記入させる</p> <p>4. スムーズな話し合いができるようにアドバイスなどをしながら机間巡視する。</p> <p>5. 各班の話し合いの結果を発表させる。</p> <p>6. 各班から出た意見をもとに生徒と一緒に「同じ仲間としてつきあう」ためにはどうすればいいかについてともに考え合う。</p> | <p>2. 教師の説明を聞き、本時の学習課題をつかむ。</p> <p>3. 「同じ仲間として」つきあうとはどんなことかについて班で話し合う。</p> <p>4. 必要に応じて教師のアドバイスを受ける。</p> <p>5. 話し合いの結果を各班ごとに発表する。</p> <p>6. それぞれの班から出された意見をもとにしてともに考えあう。</p> |
| 終末<br>15分 | <p>7. 作文「人の価値」を配布し、朗読する。</p> <p>8. 今日の学習で理解したことを班でまとめさせ、発表させる。BUZZセッション開始を指示する。(3分)</p> <p>9. 各班から出された意見に短い評価を与えながら価値の内面化を図る。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                          | <p>7. 「人の価値」の朗読を聞く</p> <p>8. 本時の学習で理解したことを班で話し合い、班長は発表する。</p> <p>9. 教師の評価を聞く。</p>                                                                                            |

### (5) 生徒の反応

今回の10時間に及ぶ道德の授業は、生徒に老人問題の一端について、深く考えさせることができたと同時に、ボランティア全般に渡る基礎知識の修得、そして人間関係の大切さを学ばせることができたと思う。

もちろん反省すべき点は多々あるが、ここでは生徒の書いた感想を載せることにする。(おうめボランティアセンター便りに掲載されたものより抜粋)

## 青梅園をたずねて

第一中学校 一年 松田桃紅

老人ホームはもつと暗いところだと思っていた。けど、行ってみると、とても明るくてきれいだった。設備はとてものついで、使いやすいそうだった。お世話している人はとても、やさしく話しかけていた。

歌をうたっているとき、「中へ入って歌って下さい」といわれて、ちよつとはずかしかった。こしが曲がった、おばあちゃんやおじいちゃんも、とても大きな声でうたっていた。

青梅園に入るのを百数十名の人がまわっているなんて、いつになったら

入れるのかな、とも思った。高れい化社会が進んでいるというけれど、老人がもつともつとふえたら、老人ホームは足りるのだろうか疑問をもった。私もそのうちおばあちゃんになつて老人ホームにお世話になる日があるかもしれないと思った。その時、はたして私の入れる老人ホームは、何年まちだろうか。もしかして何十年まちになるかもしれない。老人ホームは本当に必要なのだろうか？その家その家で、自分の父や母をそれなりに大事にすれば、お世話すれば日本から老人ホームは消えていくと思う。だけど家々で、お世話

して寝たきりにさせたら、みんなで歌うこともしゃべることも食事をとることも、何もかも楽しみがなくなってしまうような気がした。そういう点から見ると、やはり老人ホームは大切だと思った。

これからは、老人ホームでなく、老人のための、家からかよう、いい場をつくれればいいと思った。そうすればそこへ行きたいから寝たきりになることはないと思う。

老人がもつともつとくらしやすい社会を築くために、私たちは、社会をもつとしんげんにみつめなければならぬと思う。



# 第26回全国バズ学習研究大会

実践発表

「バズ学習を活用した音楽学習のあり方」

岐阜県各務原市立那加中学校

澤田 博昭

## 1. バズ学習への期待

- (1) 個が鍛えられる。  
小人数の活動により、一人ひとりが責任をもって歌わなければいけない。より積極的な活動ができる。また、教師の班巡視で、一人ひとりへの指導が可能となる。
- (2) 力がつきやすい。  
班内でお互いの声を聴いたりするので、アドバイスしたりされるうちに歌唱力がつく。どこを直したら良いかなどの着眼するポイントもわかってくる。
- (3) 積極的な姿勢が身につく。  
わからないところを班で教えあったりするので、自分が表現できない所などを進んで取り組むことができる。

## 2. バズ学習の授業での取り入れ方

|      | 〈種類〉      | 〈実践した結果〉                                                                                                                                 |
|------|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| バズ学習 | 生活班(4~5人) | <ul style="list-style-type: none"><li>・ お互いに気が知れた者同志ということでまとまりやすい。</li><li>・ 音楽的な能力の差が出やすい。(しかし、他教科はこのグループで活動している。)</li></ul>            |
|      | パート別      | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 自分のパートのみということで歌いやすい。</li><li>・ 合唱になった時、歌えない場合がある。能力別・生活班と並行してやるが、バズ唱する前に頼ってしまう。(効果はある)</li></ul> |
|      | 生活班の合同    | <ul style="list-style-type: none"><li>・ なかなか歌えない班と歌える班と一緒にやると歌えない班がだんだんと歌えるようになってくる。</li></ul>                                           |
|      | 音楽だけの班    | (まだ実践していない。)                                                                                                                             |

### 3. 実践

〈1年生から2年生までの歩み〉

入学した頃の実態

男子 —— ほとんど音楽が嫌いという答えが多い。好きと答えた子は、1名だけ。

女子 —— 7割が好き、3割が好きでも嫌いでもない。

〔理由〕人前で歌うのがいや、恥ずかしい、聴くのは好きだけど…。

#### ☞ 1年生1学期 「バス学習の導入」

「リコーダーなんかは、グループや好きな子とやったけど、歌は経験ない。パート練習はやったことがある。」（小6のとき）

まず、リコーダーで経験があるということで、バスでやらせてみる。

バス形態になるが、それぞれが勝手に吹いているだけ…。

T：「わからない子を教えてあげよう。」

吹ける子が、吹けない子に教える姿が見られるようになったが、「〇〇君、教えてあげようとするけどいやがるよ。」「〇〇さん、いくら教えたってもうまくならへん。」「先生、誰も教えてくれんで教えて。」

#### ☞ 1年生2学期 「リコーダー学習のやり方と、バス合唱の導入」

##### ◎ 学習リーダーの進め方

1. 「まず個人練習をして下さい。」 約5分間
2. 「吹けないところはありませんか。」  
1人ずつきいていく。「〇〇さん、〇〇君…。」
3. 「それでは一人ずつ吹いて下さい。」  
→ 机や手拍子で拍子をとってやる。
4. A<sub>1</sub>のパート、A<sub>2</sub>のパート、一人ずつでペアを組み、残りの子は聞き役でアドバイスをする。  
→ 机や手拍子で拍子をとる。
5. 「でも、一人だけ聞き役であとの人は吹いて下さい。」あとで感想をいってもらおう。班員全員にやってもらおう。
6. 「では、全員でやります。」

バス学習の進め方を、前記のような表を配って教えていく。

ほとんどの班が上手にやっている。1部の班がなかなか進まない。

「○○君がなかなか吹けんもん…。」そこで、班内でどうしても吹けない子は、先生のところへ来るようにした。(1クラス、3～4名いた。)

また、学習リーダーや吹ける子に、教え方や、ここまで吹けたらよしとするという個(吹けない子)にあった目標をつくらせた。

このように、かなりの班でやろうという意識がでてきたし、やり方がわかってきたようであった。

そこで、今度は班(生活)で合唱を取り入れた。最初のうちは、かなり抵抗があった。

「そんなのいやー。」、「はずかしいもん。」、「なんでー。」

つぎのように指導を進めていった。(若者たち・3部合唱)

- ① 全体合唱で主旋律を歌い、その後班で教科書を見ないで歌わせる。
- ② 全体合唱で中音、低音を歌い、班で正しく歌えているかどうか確認させる。
- ③ 班でパート分けをして3部合唱させる。
- ④ 曲の盛り上がりの工夫をさせる。
- ⑤ 発表

上記の②～⑤を各班の実態に合わせ、計画を立てさせた。下記のような表を使い最後に発表させた。

若者たち、日グループ発表  
— 発表者

評価ポイント  
※ 3つのパートが聞こえるか。  
※ 曲の工夫がわかるか。  
OCX OXY

1. 2. 3. 4. 5

| 班  | パート | パート | パート | 内容                                        | 感想 |
|----|-----|-----|-----|-------------------------------------------|----|
| 5班 | △   | △   | 3   | お礼、曲の工夫がなかつたので<br>もっと工夫がほしい。              |    |
| 7班 | △   | △   | 3   | さゆに3のパートが、かいこさ<br>うたったのでお礼、うたうとが<br>きこえた。 |    |
| 1班 | △   | X   | 2   | 音がまじりあって、なんやら、おから<br>がなくなりました。曲の工夫がなかつた。  |    |
| 6班 | X   | X   | 1   | せんせん、だめだめ、音のぼろ<br>ろ、音がなかった。               |    |
| 8班 | △   | △   | 3   | 声かとても大きくて、<br>うた、うた。                      |    |

若者たち、日グループ発表  
— 発表者

評価ポイント  
※ 3つのパートが聞こえるか。  
※ 曲の工夫がわかるか。

| 班  | パート | パート | パート | 内容                                  | 感想 |
|----|-----|-----|-----|-------------------------------------|----|
| 5班 | △   | X   | 2   | 曲の工夫が、お礼、お礼に<br>うた、うた、うた、うた、うた、うた。  |    |
| 7班 | X   | △   | 1   | 3つのパート、うた、うた、<br>うた、うた、うた、うた、うた、うた。 |    |
| 3班 | △   | △   | 3   | 曲の工夫が、工夫、工夫、<br>工夫、工夫、工夫、工夫、工夫、工夫。  |    |
| 1班 | △   | △   | 4   | 大げさなうた、うた、うた、<br>うた、うた、うた、うた、うた、うた。 |    |
| 2班 | △   | △   | 4   | 大げさなうた、うた、うた、<br>うた、うた、うた、うた、うた、うた。 |    |



試験的にあるクラスは、バズ学習を取り入れないでやってみたが、次のような結果が出た。

| 全体学習のみ                                                                                                                                                                                | バズ学習を取り入れた場合                                                                                                                                                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間がかからない。</li> <li>・個々の把握しにくく、歌えない子がそのままになっている</li> <li>・曲の工夫などクラス合唱として統一しやすい。</li> <li>・歌わされているという意識。</li> <li>・一人ひとりの指導が徹底していない。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間数が全体学習の2倍かかる。</li> <li>・どの子も、ある程度歌える。(下位が伸びている。)</li> <li>・班独自でやるため、把握しにくい。</li> <li>・自分たちでやっていこうとする姿勢。</li> <li>・一人ひとりの指導が生きてくる。</li> </ul> |

- ・各グループに若干差はあったものの、だいたいグループ唱ができるようになった。
- ・若干の差といっても技術、能力的なものより、精神的なもの(気持ち)が大きい。

☞ 1年生3学期 「班で表現を工夫させる」(夢の世界を)

班で合唱できるだけでなく、班でどう歌ったら良いのか一人ひとりの曲の願いを出し合い、班で表現目標を作らせた。その後、各グループに実際に発表(合唱)し、一番良いものをクラスの表現工夫として取り入れた。

- ① 高・中・低音の3パートを全員が歌えるようにする。
- ② 班でパート分けをする。(意図的に、男子は低音で女子は高・中音)
- ③ 班で工夫をして歌う。



④ 発表（自分たちのグループが工夫したところを発表してから歌う。）

⑤ 全体合唱

☞ 2年生で目指す姿

- ・ できるだけ早くグループ合唱できる。（音取り）
- ・ 各グループごとに自分たちの実態を考え、学習計画が立てられる。
- ・ 歌える子だけに頼らず、自ら課題に取り組める。
- ・ 自分自身のつまずきや、グループの子のつまずきに対して、色々な工夫ができる。

☞ 3年生で目指す姿

- ・ 自分のつまずきに対して、適切に対処することができる。
- ・ 課題に対する自分の達成度がわかる。
- ・ 混声四部合唱の響きを味わうことができる。

#### 4. 成果と今後の課題

- この時から、4人でバズ唱を楽しむ班が出てきた。
- 歌えない班が歌える班といっしょに歌う（練習する）姿がみられた。
- 班で表現工夫している時、自ら歌って意見を言う子が出てきた。
- 積極的にバズ唱する姿が見られるようになった。
- 全体合唱が充実してきた。
- 音が取れない子の中に、家でわざわざ自分のパートを練習してくる子がいた。
- × 教室内で、8つの班が歌うとお互いの音が聴きにくい。
- × 班に一人歌えない子がいると、とまどってしまうことがある。
- × 課題の到達に対して、班の差がある。

以上であるが、今後生活班だけでなく、能力などを考えた音楽授業だけの班を作り、実践していきたいと考えている。

# 全員リーダー制による生活紡ぎの学級づくり

春日井市立小野小学校

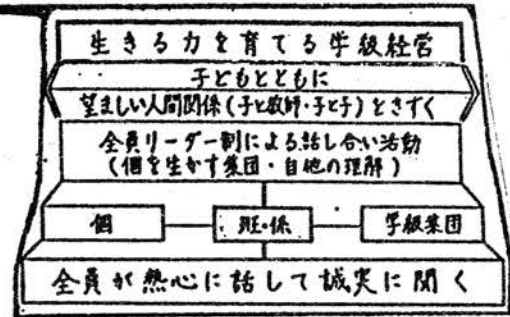
杉山あさ子

## I 基本的な考え

☆ 学級経営における教師の指導性

子供たちは、学級に存在する様々な人間関係を通じて、多くのものを学んでいる。

学級における学習は、教師と児童・児童と児童との多様な相互作用を含む全体的な過程であり、その指導は、より効果的な相互作用を生み出すものとして、意図的・系統的に組織される必要がある。

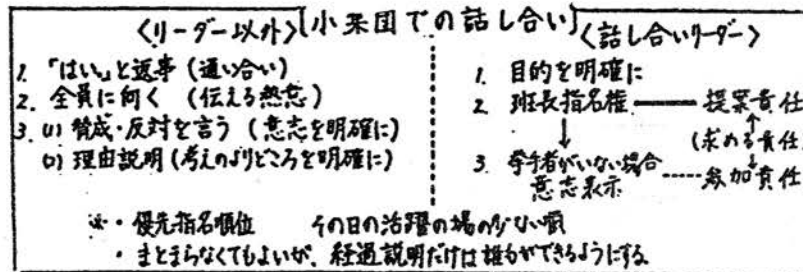
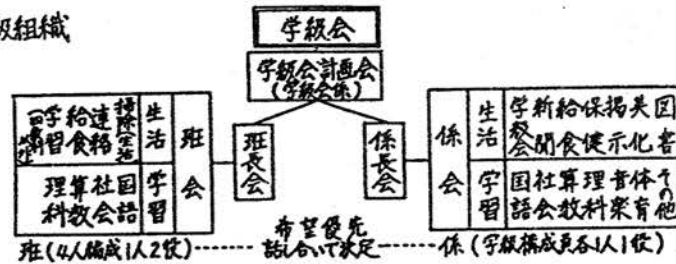


1年勝負の学級経営で偶然を待ってはいられない!!

- ・ 児童理解に基づく指導システムの確立が急がれるべきである。
- ・ 個の確立・自立を目指して、自己の評価能力を高めることで、自らを生かす意欲と、他を理解しようとする態度を育てたい。

「自他の尊重」を「集団の向上」につなげるものとして、  
個と集団をつなぐステップとしての小集団 — 班・係の活動に注目したい。  
その基盤となる話し合い活動を重視したい。

学級組織



## 結果

- ア. 子供たちが明るく、活動的になった。熱意を持って話すようになり、誠実に聞くようになった。自分なりに考え判断し、自分とみんなのために喜びを持って動くようになる。
- イ. 話し合う内容が充実してくる。現在の子供たちの話し合いは、生活の中から問題を見つけ、それを自分たちの手で改善していこうとする意欲が感じられる。個人の努力を認め、励ます思いやりが生まれる。実践化へ向けてのパワーが生まれる。

### (1) 全員リーダー制

人間は、誰もが、それぞれ独自のものを生かし、深めていく中で、かけがえのない自分自身を創り上げていく。そこに創造があり、幸せが生まれる。自分が他人に代わり得ない自分であること、それが人間の生き甲斐であり、喜びである。

担任は、児童一人ひとりを、学級集団の中に、明確に位置づけなければならない。集団は個を成長させ、個を生かすものでなくてはならないのだから。全員リーダー制の意義もそこにある。

### (2) 生活を紡ぐ

教師は、子供一人ひとりに、自己教育力—「生きるために学ぶ力」をつけなければならない。

そして、その力を生み出す土壌としての現代の子供社会・生活における「関わり」の衰弱と、「経験」の危機を認識する必要がある。

いつの時代にあっても、子供たちは、仲間集団を創ることで社会化し、人間としての生活の仕方、「生き方」を身に付けてきた。

「仲間」には友情が生まれ、「集団」にはルールができる。

今、教師に最も求められているのは、子供が自己を向上させることができるように、環境を整え、子供たち自身の手で、生活を発展させていけるような教育の技術を増やしていくことではないかと思う。

だからこそ、担任は、学級を「社会」にしなければならない。「仲間集団」に育てなければならない。その学級の中に生活を形成し、向上していく力を、子供たち一人ひとりに生み出させ、仲間と力を合わせて、日々の生活を紡がせていかなければならない。

## II 指導の手だて

子供たちの生活世界を魅力あるものに回復するためには、学級生活を、「楽ではないが楽しいもの」・子供たちにとって本当の意味での、「快適な生活の場」にすることであり、そこで、学級の子供たち全員に、「楽しい経験」をできるだけ多くさせることだと思う。

|                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                          |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第9回 学級会 9月7日 西園 取組                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                          |
| 議題 1.2学期の計画<br>(1)学級会 (2)班(生活・学習)<br>(3)休                                                                                                                                |                                                                                                                                                                          |
| 考えの項目                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                          |
| 1.0学期会の日程 ①アサト ②70分<br>2.0人数 ③役割分担(生活・学習) ④70分<br>⑤の整理・統合はかかっている ⑥70分<br>⑦休みの内容(生活・学習) ⑧70分(生活・学習)                                                                       |                                                                                                                                                                          |
| 自分の考え                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                          |
| 2.0いまのままの4人<br>⑨4人だとどういかに生活<br>をやるのか<br>⑩このままの生活学習を<br>やる(考え→?)<br>⑪この方針(生活・学習)<br>⑫生活と学習を統合す                                                                            | おぼろしい<br>生活と学習は体の<br>とにかけがえがないから<br>先生にお話をきいて<br>たぶん大丈夫かなと<br>思っています<br>よく聞いて話を聞いて                                                                                       |
| 1. (1)の生活と学習の<br>2. (2)の生活と学習の<br>3. (3)の生活と学習の<br>4. (4)の生活と学習の<br>5. (5)の生活と学習の<br>6. (6)の生活と学習の<br>7. (7)の生活と学習の<br>8. (8)の生活と学習の<br>9. (9)の生活と学習の<br>10. (10)の生活と学習の | 1. (1)の生活と学習の<br>2. (2)の生活と学習の<br>3. (3)の生活と学習の<br>4. (4)の生活と学習の<br>5. (5)の生活と学習の<br>6. (6)の生活と学習の<br>7. (7)の生活と学習の<br>8. (8)の生活と学習の<br>9. (9)の生活と学習の<br>10. (10)の生活と学習の |

◀班長変更▶ 掃除 → 生活  
掃除班長は、班内輪番制  
生活班長は、班会の司会役

|       |     |             |         |      |
|-------|-----|-------------|---------|------|
| 係反省表  |     |             |         |      |
| 9月    |     |             |         |      |
| 今日の目標 |     | 時間を守ろう。     |         |      |
| 今日    | 日曜  | 活動内容        | 活動時間    | 活動場所 |
| 週     | 19日 | ボール空気のてんけん  | 金沢 (山田) | 朝    |
|       | 20日 | 係長会 組立たいそう  | 山田 (金沢) | 15分放 |
|       | 21日 | 組立たいそう 早く出る | 金沢 (山田) | 体育時  |
|       | 22日 | ボール空気のてんけん  | 山田 (金沢) | 朝    |
|       | 23日 |             |         |      |
| 休     | 土   | 赤白ぼうしをもちて遊ぶ | 金沢 (山田) | 朝の会  |

1. (1)の生活と学習の  
2. (2)の生活と学習の  
3. (3)の生活と学習の  
4. (4)の生活と学習の  
5. (5)の生活と学習の  
6. (6)の生活と学習の  
7. (7)の生活と学習の  
8. (8)の生活と学習の  
9. (9)の生活と学習の  
10. (10)の生活と学習の

## ② 処理(評価)の工夫

日記や個人メモは、自らの生活を見つめることで、話し合いの基盤となる個の内省力を育てていく。

子供たちは、自己と対話することで、自分を見つめ、生活の中の問題点を見つける。

従来、それは、教師の赤ペンが育てていく部分が多かった。教師がほめることを軸に、励ましを与えることは、全学年を通して重要なことであり、個々の児童に対する評価、それに基づく指導は、1対1の段階に応じたきめの細かなものでなくてはならないことは、当然である。

しかし、もう少し、その処理(評価)の場を、開放的なものへと視点を広げていく必要があると思う。

子供たちの毎日の生活は、小集団、あるいはクラス全員で話し合ったり、解決していくための問題提起になるものも多い。それらを積極的にとりあげることにより、子供たちの日々の活動が、子供たち自身の向上につながったり、仲間と自分のために確かに役立ったということが、喜びとして実感できる場——活動することが、価値あることだと認識できる場を、積極的にひらいていきたい。

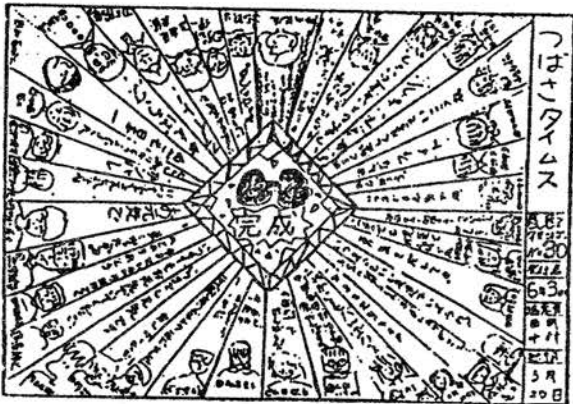
また、自らを生かす意欲と、他を理解しようとする態度を育てるためには、評価カード類の充実を図ることが有効である。

# 帰りの会

- 1 連絡係  
その他
- 2 一日の反省  
班(個人)  
日直  
(週番の反省)
- 3 先生のお話
- 4 帰りのあいさつ

| 週訓                   | 日 格 | あ  | い  | う  | え  | お  | か  | き  | こ  | け  | こ  | け  | こ  | け  | こ  | け  | こ  | け  | こ  | け  |
|----------------------|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 業前の<br>過ごし方          | 10  | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| 発言回数                 | 10  | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| 1日の係活動               | 10  | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| 忘れ物                  | 10  | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| 取り組み                 | 10  | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| 時間内に<br>残さず食<br>べれたか | 10  | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 |

一日の反省



| 日 格 | あ  | い  | う  | え  | お  | か  | き  | こ  | け  | こ  | け  | こ  | け  | こ  | け  | こ  | け  | こ  | け  |
|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 10  | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| 10  | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| 10  | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| 10  | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| 10  | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 |

つばさタイムス

#### IV 今後の課題

- ◎ 手だてとの関係については、活動・指導の時間を生み出す方向で、児童相互の関わりを組織化するために、「個を生かす」場の開発と処理の工夫をさらに進める。
- 学級を核とする集団活動の育成という点から、学年及び低・中・高単位の縦スケールで指導法をとらえまとめてみたい。





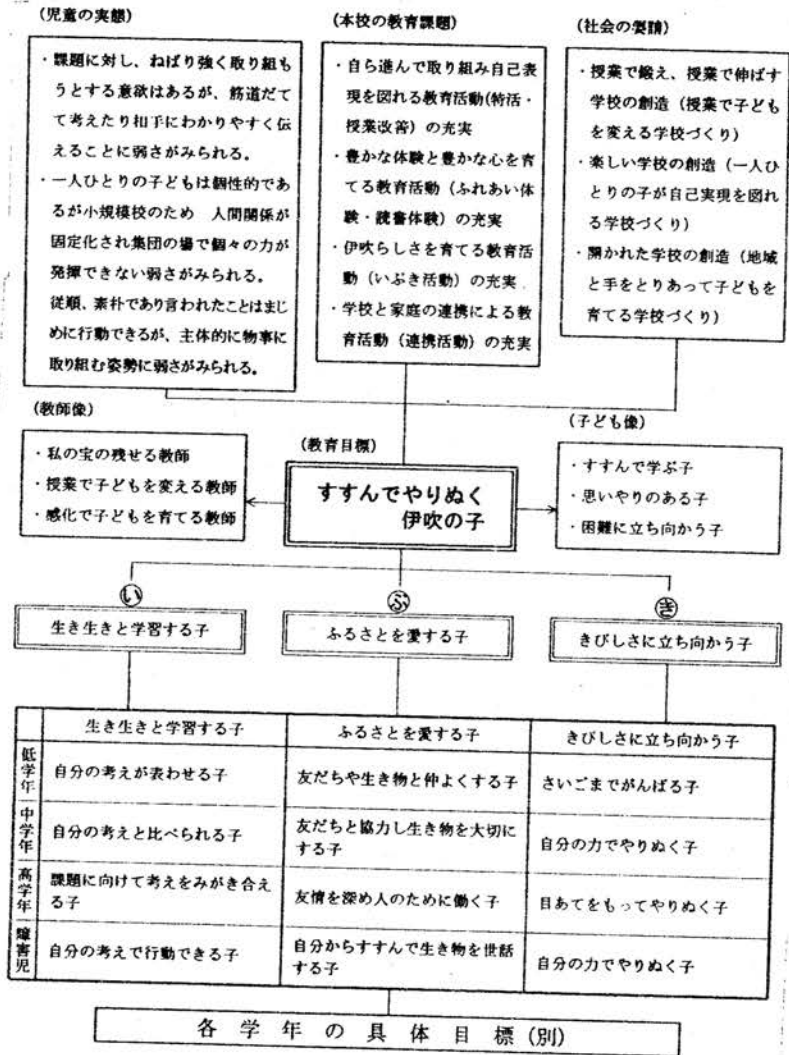




一人ひとりが創意を出し合い、個が高まる授業の創造  
 — 個が意欲的に取り組める操作活動の追究 —

滋賀県 伊吹小学校  
 大野 宏 己

I 研究にあたって  
 1、本校の教育目標について



## 2、研究主題と主題設定の理由

### (1) 研究主題

一人ひとりが創意を出し合い、個が高まる授業の創造  
—— 個が意欲的に取り組める操作活動の追究 ——

### (2) 主題設定の理由

#### ① 学校教育の今日的課題

近年わが国では、技術革新による産業構造の急激な変化に加えて、情報化や高齢化、国際化の進展がめざましく、来る21世紀には、このすう勢はますます強くなり、わが国の社会は、これまでに取り組んだことのない新しい課題に直面することになるであろう。だとすれば、次代に生きる子どもの姿を展望する時、今日の学校教育は、一つの大きな転機を迎えているといえよう。

新しい教育課程では、このことをふまえて、次の4つの柱を立てている。

- ア 心豊かな人間の育成
- イ 基礎・基本の重視と個性教育の推進
- ウ 自己教育力の育成
- エ 文化と伝統の尊重と国際理解の推進

ところで、算数数学の国際調査によると、日本は計算力において、トップレベルであるが、問題解決の力が劣るそうである。本校の児童の実態も同じ傾向を示している。

それ故、算数科の授業を工夫し改善するために、4つの柱を立てた。

- ア 個性的な発想を生み出すこと。
- イ 基礎・基本を自分のものとし身につけること。
- ウ 課題に対して主体的にたくましく解決していくこと。
- エ 意欲的に学習に取り組むこと。

これらを研究の基盤として、授業改善にメスを入れようとした。

### 3、研究仮説

新教育課程がめざすものは、意欲的な態度・個性的な発想・たくましく追求していく力・基礎基本の充実であり、これらは、授業の中で練り上げられなければならない。

それ故、全ての段階において操作活動を正面にすえ、体験的学習活動を仕組むことが不可欠であろう。

また、操作活動における子どもの姿を分析していくことにより、子どもサイドの授業が実現できると考える。

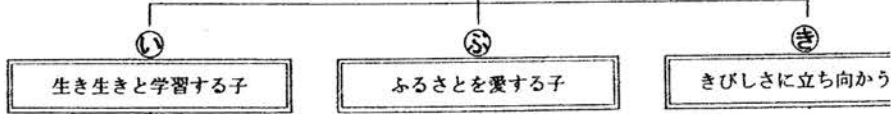
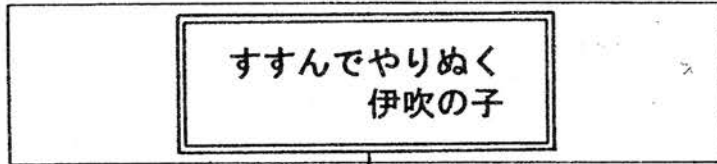
### 4、研究の内容

子どもたち一人ひとりが意欲的に取り組むことができる操作活動を追究するために次の3点について研究を推進してきた。

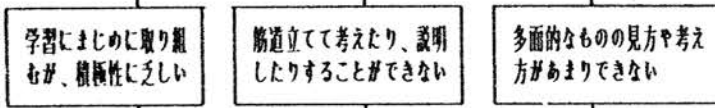
- ① 操作活動の類型化
- ② 操作活動を取り入れた指導法の改善
- ③ 環境の充実と活用

# 校内研究の全体計画

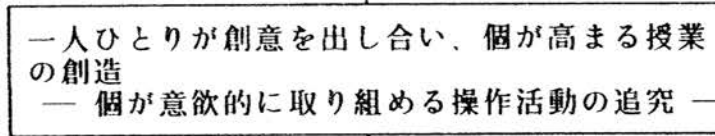
教育目標



児童の実態



研究主題



めざす子どもの姿

- 基礎・基本を自分のものとして身につける子
  - 課題に対して主体的にたくましく解決していく子
  - 意欲的に学習に取り組む子
  - 個性的な発想を生み出せる子

研究の方向と実践

|                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>操作活動を取り入れた指導法の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・操作活動に視点を当てた単元指導計画</li> <li>・操作活動に視点を当てた学習展開</li> <li>・個性尊重の指導のあり方</li> <li>・子どもの学習意欲に焦点を当てた評価</li> </ul> | <p><b>操作活動の類型化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・のり出し操作</li> <li>・生み出し操作</li> <li>・手さぐり操作</li> <li>・たしかめ操作</li> <li>・手だすけ操作</li> <li>・はびみ操作</li> </ul> | <p><b>環境の充実と活用</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>フuntime<br/>単元の構造図の掲示</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>算数コーナー<br/>算数の門パズルゲーム</p> </div> <p>操作教具の開発</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

研究の仮説

新教育課程がめざすものは、意欲的な態度・個性的な発想たくましく追求していく力・基礎基本の充実であり、これらは授業の中で練り上げられなければならない。  
それ故、全ての段階において操作活動を正面にすえ、体験的学習活動を仕組むことが不可欠であろう。  
また、操作活動における子どもの姿を分析していくことにより、子どもサイドの授業が実現できると考える。

## 6、研究の方向と実践化

### (1) 操作活動の類型化

一つの単元を学習していくとき、いくつかの操作活動を生かす場をよく考えておかなければならない。そのためには、操作活動を類型化しておき、単元計画や目標に応じて効果的に使用する必要があると考える。

それで、操作活動を6つに分けて、次に示した。

#### ① のり出し操作（動機づけ操作）

問題を生み出したり、学習の動機づけをさせるもので、子どもに目的意識や必要感、興味、関心をもたせるものである。

主に、ブランチタイムに使用する。（注1）

#### ② 生み出し操作（概念づくり操作）

子どもに念頭で思考させることを手の操作でイメージ化させる。操作を繰り返しているうちに、頭の中にイメージがだんだんできあがって、記憶などもより明確になる。

#### ③ 手さぐり操作（試行錯誤操作）

子どもに操作を通して、多面的な発想を生ませる。拡散型の授業などに使用。（注2）

#### ④ たしかめ操作（検証操作）

子どもの発想を操作を通して、具体的にたしかめ、分からせる。

#### ⑤ 手だすけ操作

子どもの論理的な説明を操作活動を通して確かにさせる。具体物の操作を根拠にして、言葉の表現に漸次高め、筋道を立てて考えることができるようにする。

#### ⑥ はげみ操作（習熟操作）

子どもに操作活動を通して、基礎・基本を習熟させる。

#### 注1 ブランチタイム

単元の見通しがもてるような学習過程を仕組み、子どもの課題を設定する第1時の学習。

#### 注2 拡散型の授業

課題に対して、一人ひとりが取り組む過程やその成果を認め合うことによって、互いの考えを広げ、深めていくことをねらった発展的な学習展開。

### (2) 操作活動を取り入れた指導法の改善

#### ① 操作活動に視点を当てた単元指導計画（資料参照）

本校における単元指導計画づくりのポイントは、類型化した操作活動を目標や流れに合わせて、いかに計画に組み入れていくかということである。

そのために、単元を構造的にとらえ、学習課題と学習内容（操作活動）とで、流れを表した。（構造図）

また、操作活動の類型を記入することで、操作活動を生かす場を明確化した。

このことにより、1時間1時間のつながりがはっきり分かり、子どもに学

習の見通しを持たせることができるとともに、子どもの学習意欲を喚起（予習、復習）することができる。

つまり、子どもに「自己教育力」を身につけさせるのに役立つと考える。

② 操作活動に視点を当てた学習展開（資料参照）

本校では学習段階を「つかむ」、「みとおす」、「ためす」、「ふりかえる」、「ふかめる」の5つの段階にした。

とくに「ためす」では、十分に時間を確保することにより、操作活動を通して自力解決させることをねらっている。また、「子どもへの配慮」では、個に応じた指導の充実を図り、小人数学級の特徴を生かしたきめ細かい指導をしている。

③ 子どもの学習意欲に焦点を当てた評価（資料参照）

抽出児の記録をとる際に、学習意欲の変化とその時の教師の働きかけを詳細に記録するようにした。

学習意欲の向上がみられたとき、子どもの具体的な行動はどうであったか、その時の教師の働きかけがどのように効果的であったか。また、その逆の場合などの結果を基に、操作の内容・させ方・授業の構成について考察する。

その他にも、子どもの学習中のノート等の記述や授業後の自己評価表、小テスト等も評価とする。

④ 環境の充実と活用

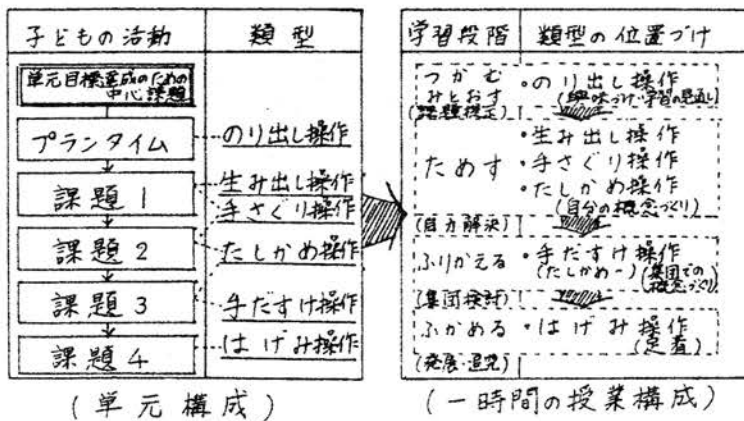
算数の学習でも、より一層の教育効果を上げるためには、教育環境の側面的な働きを見つめる必要があると捉え、その充実を図ることとした。

◎算数コーナーの設置… 学習活動の促進や学習内容の定着、学習意欲の継続をねらう。

7. 研究の成果と課題

(1) 操作活動を正面にすすめる

操作活動の意義や条件を吟味することにより、6つの類型が考えだされた。それらを目標に応じて、単元構成や授業構成に組み入れ、授業の改善が図れた。

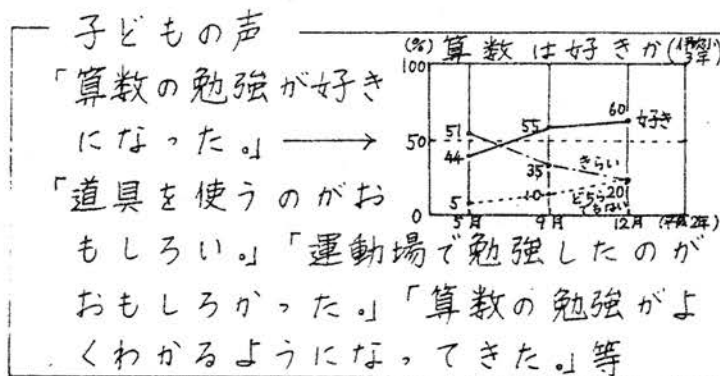




(2) 操作活動を正面にすえて

授業に操作活動を取り入れることによって、どの子どもにも個性的な見方・考え方が発想でき、より深く考える能力を伸ばすことができた。また、授業中子どもが楽しく、しかも集中して活動するようになった。

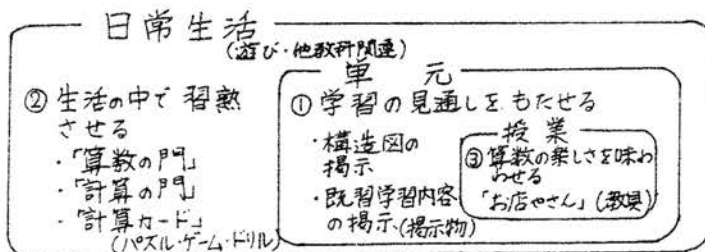
具体例をあげると、次のようである。



(3) 操作活動を生活化するために

操作活動を生活化するために、算数コーナーを設定した。算数コーナーを設けるにあたっては、次のような企画が考えられた。

算数コーナーの類型と具体例



(4) 操作活動をより子どもに接近させるために

操作活動を取り入れた子どもサイドの授業を目指すために、学習意欲に係わる記録をとり分析してきた。

そのことによって、教師の働きかけと子どもの意欲との関係が次第に明らかになり、子どもサイドの授業づくりが可能になった。

習の見通しを持たせることができるとともに、子どもの学習意欲を喚起（予習、復習）することができる。

つまり、子どもに「自己教育力」を身につけさせるのに役立つと考える。

② 操作活動に視点を当てた学習展開（資料参照）

本校では学習段階を「つかむ」、「みとおす」、「ためす」、「ふりかえる」、「ふかめる」の5つの段階にした。

とくに「ためす」では、十分に時間を確保することにより、操作活動を通して自力解決させることをねらっている。また、「子どもへの配慮」では、個に応じた指導の充実を図り、小人数学級の特徴を生かしたきめ細かい指導をしている。

③ 子どもの学習意欲に焦点を当てた評価（資料参照）

抽出児の記録をとる際に、学習意欲の変化とその時の教師の働きかけを詳細に記録するようにした。

学習意欲の向上がみられたとき、子どもの具体的な行動はどうであったか、その時の教師の働きかけがどのように効果的であったか。また、その逆の場合などの結果を基に、操作の内容・させ方・授業の構成について考察する。

その他にも、子どもの学習中のノート等の記述や授業後の自己評価表、小テスト等も評価とする。

④ 環境の充実と活用

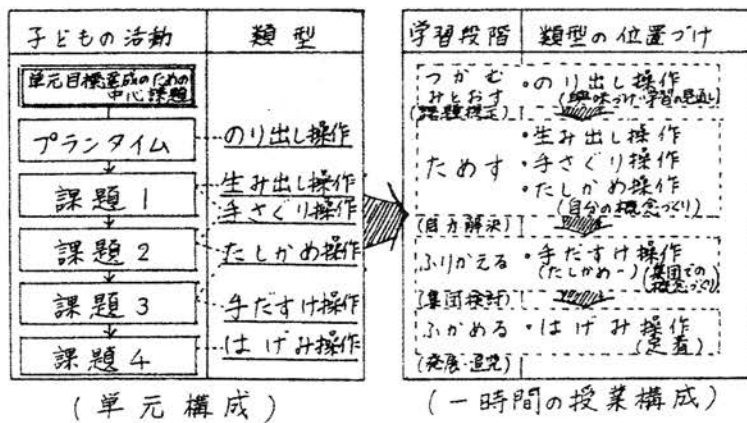
算数の学習でも、より一層の教育効果を上げるためには、教育環境の側面的な働きを見つめる必要があると捉え、その充実を図ることとした。

◎算数コーナーの設置… 学習活動の促進や学習内容の定着、学習意欲の継続をねらう。（資料参照）

7. 研究の成果と課題

(1) 操作活動を正面にすすめる

操作活動の意義や条件を吟味することにより、6つの類型が考えだされた。それらを目標に応じて、単元構成や授業構成に組み入れ、授業の改善が図れた。



## II 今後の課題

### 1、学年発達段階に合わせた話し合い活動

操作活動をしながらノートづくりをし、具体物を示しながら、子どもたちは根拠をもって自分の考えを述べるようになってきた。

しかし、子ども同士で話し合いをつなげ、考えを練り上げ、より高次元の思考に到達する段階が課題として残された。

### 2、評価の活用

子どもの意欲を評価することを試みたが、この評価を授業を構成するための糧とし、更に一人ひとりが意欲的に取り組めるよう、日常の授業に活用していきたい。

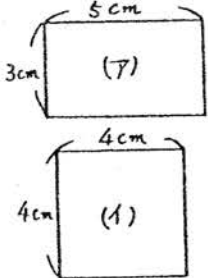

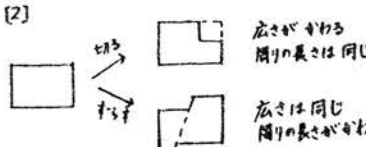
### 3、領域別の操作活動の系統性

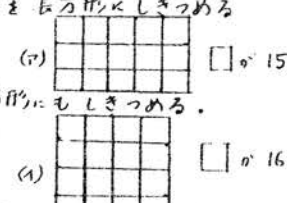

単元における操作活動の系統性は明らかになってきたが、各領域別の系統性までは及ばなかった。

そこで、発達段階と操作活動との関連について追求し、領域別の系統を明らかにしていきたい。

| 単元                   | 目標                                                                                                                             | 子どもの活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 操作活動の類型 |
|----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|
| <p>面積</p> <p>9時間</p> | <p>(1) 面積の意味を理解し、面積を比較する方法を考える。</p> <p>(2) 面積の単位を用いて面積を表し、等積変形を通して単位面積の理解を深める。</p> <p>(3) 長方形や正方形の面積の求め方を理解し、公式にまとめる。</p>      | <p>面積について知り、いろいろなものの面積を求めよう。</p> <p>----- (面積に関する調査)</p> <p>ブランチタイム</p> <p>じんとりゲームで広さをくらべよう。(1)</p> <p>陣取りゲームで比べて 比較の方法を考える。----- のり出し操作 (動機づけ操作)</p> <p>課題1</p> <p>まわりの長さとおよび広さについて調べよう。(1)</p> <p>まわりの長さの異なる正方形と長方形の広さを比べる。面積の用語を知り、長さとは別の量であることをわく。----- たしめ操作 (検証操作)</p> <p>課題2</p> <p>面積の単位 <math>1\text{cm}^2</math> の方眼を使って、おもしろい形に変えてみよう。(1)</p> <p><math>1\text{cm}^2</math> の大きさを知り、<math>1\text{cm}^2</math> の変形、<math>5\text{cm}^2</math> の変形を考えたりする。----- たしめ操作 (検証操作) 手だけ操作</p> <p>課題3</p> <p>長方形(正方形)の面積のべんりな求め方を考えよう。(2)</p> <p>方眼の入っていない長方形(正方形)の面積の求め方を考える。----- 手さぐり操作 (試行錯誤操作)</p> <p>長方形や正方形の面積を公式にまとめる。----- 生みだし操作 (概念づくり操作)</p> |         |
|                      | <p>(4) 面積の単位 <math>\text{m}^2</math>、<math>\text{km}^2</math> を理解し、公式を用いて適用問題を解く。</p> <p>(5) いろいろな面積の単位を理解し、公式を用いて適用問題を解く。</p> | <p>課題4</p> <p>大きいものの面積を求めよう。(2)</p> <p><math>10000\text{cm}^2</math> はどのくらいの広さが予想し、運動場を実測させることにより <math>1\text{m}^2</math> の必要性に気づく。----- 生みだし操作 (概念づくり操作)</p> <p>面積の単位 <math>1\text{km}^2</math>、および <math>\text{a}</math>、<math>\text{ha}</math> を知り、広い土地の面積を求めよう。----- 生みだし操作 (概念づくり操作)</p> <p>課題5</p> <p>面積の学習のまとめをしよう。(2)</p> <p>学習したことをまとめる。----- はげみ操作 (習熟操作)</p> <p>評価(テスト)をする。</p>                                                                                                                                                                                                                                                             |         |

6. 学習展開

| 段階    | 子どもの活動                                                                                             | 教師の働きかけ・子どもの応答                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 子どもへの配慮                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| つかむ   | 1. 本時の課題を知る。                                                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>今日は広さについて勉強します。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>黒板に掲示することにより課題を明確にさせる。2つの図形を提示する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| みとおす  | 2. 自分の予想を立てる。<br> | <ul style="list-style-type: none"> <li>どちらが広いと思いますか？</li> <li>・Aの方が広い。 <math>A &gt; B</math></li> <li>・同じかもしれない。 <math>A = B</math></li> <li>・Iの方が広い。 <math>A &lt; B</math></li> <li>・わからない。 ?</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>直観を大切に広さ比べの興味づけをする。</li> <li>理由を簡単に言わせてみる。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| ためす   | 3. 広さ比べの方法を考える。                                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>どうしたらどちらがどれだけ広いかわかるでしょうか。自分の考えた方法で比べてみてください。一つ考え出したらもう他にないか。用紙をふやして方法をわかりやすく書いておきましょう。</li> <li>・周りの長さで比べる。</li> <li>・重ねて比べる。(はみ出した部分ははみで切る。)</li> <li>・同じ形のものをしきつめて比べる。</li> <li>・重さで比べる。</li> <li>・方眼を置きこんで比べる。(1cm, 2cm, 4cm)</li> <li>・計算で比べる。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>個人学習(自力解決の場合)に入る前に、操作活動に使えそうな物を予め提示し「お土産さんコーナー」として自由に使うようにさせる。(準備する物) 画鋸、おはじき、一円玉、ひも、クリップ、辺が1cmのブロック、ジャリ、方眼紙、ねん土など</li> <li>児童の発想を大事にする。考え出せない子には机回巡視をして適切な助言を与える。</li> <li>計算で比べる考え方をしている児童には、その理由を考えさせる。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| ふりかえる | 4. 各自の考え(調べた結果)を発表し話し合う。                                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>どんな比べ方をしたか発表してください。</li> <li>・周りの長さで比べたら両方とも16cmだったので、広さも同じだ。</li> <li>・周りの長さで広さを比べることはできないだろう。</li> <li>・重ねると少しだけ(I)の方が広い。(直接比較)</li> <li>・周りの長さで広さがきめられるか考えてみます。</li> <li>・きめられると思う。</li> <li>・きめられないと思う。 (挙手する)</li> </ul> <p>周りの長さで比べられないとすると、どんな比べ方をしたらよいでしょうか。(任意単位による比較)</p> <p>画鋸 / 1つ分    方眼 / 1つ分    広い<br/>           ブロック / 1つ分</p> <p>おはじき・一円玉では比べにくい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しきつめるには、すき間のない方がよい。</li> <li>・一番よいものは、正方形のようなもの</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>最初は周りの長さで比べている考え方を取り上げ、次に重ねて比べている考え方を取り上げ、両者の結果の違いに着目させる。</li> <li>周りの長さで広さとの関係について反例を提示し調べさせる。</li> <li>[1] ひもでいろいろな形を作って比べさせる。<br/>  </li> <li>[2]<br/>  </li> <li>広さは周りの長さで判断できないこと、長さや広さは別の量であることをおさえ、予想の修正をさせる。</li> <li>同じ形のものをしきつめて比べることを既習の長さ・かさ・重さなどに関連づけて考えさせる。</li> <li>面積という用語、面積の単位の必要性に気づかせ、1cm<sup>2</sup>を理解させる。</li> <li>基準となるもののいくつかをおさえ、しきつめるもので一番よいものは何か考えさせる。</li> </ul> |
| ふかめる  | 5. わかったことをノートにまとめて発表する。                                                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>今日の勉強でどんなことがわかりましたか。自分の言葉でノートに書きましょう。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>学習したことをまとめることにより評価とする。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |

| 主な発問、指示                                                                                                         | 子どもの意欲          | その時の具体的行動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>つかむ</p> <p>・今日は、広さについて勉強します。</p>                                                                             | <p>III II I</p> | <p>黒板をいじって見つめている</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <p>みとぶ</p> <p>・どちらが広いと思いますか。</p>                                                                                | <p>III II I</p> | <p>・(ア)と(イ)は同じ広さのとき挙手。<br/>・予想を言っている友達の方を見る。<br/>・時々、カリコ筆箱であるが、くわい教師の話に聞いている。</p>                                                                                                                                                                                                                                          |
| <p>たぬ</p> <p>・どうしたら、どちらがどれだけ広いかわかるでしょうか。自分の考えた方法で、比べてみて下さい。</p>                                                 | <p>III II I</p> | <p>・1cm<sup>3</sup>の立方体を長方形にしきつめる (14×10)<br/>↓<br/>① 同様に正方形にもしきつめる。<br/>  <br/>② 次に、クリップを並べる。<br/>  <p>・ホチキスの針を並べる<br/>(ア) 2 (イ) 3<br/>・画鋲は途中</p> </p> |
| <p>ふりかえ</p> <p>・どんな比べ方をしたか発表して下さい。</p> <p>・まわりの長さで、広さが決められますか。</p> <p>・まわりの長さで比べられないとすると、どんな比べ方をしたらよいでしょうか。</p> | <p>III II I</p> | <p>・挙手はいない。話は聞いている。<br/>・ノートに書いているが、比べ方、結果を書いている。話を聞いている。→ 若く終わる。<br/>話を聞いた後、1-1に方眼を書きこいている。<br/>↓<br/>プロフの人 挙手<br/>また、消す。<br/>↓<br/>おん上の発表のときから聞いている<br/>方眼のおとと画鋲を比べる。<br/>根拠よく話を聞いている。</p>                                                                                                                               |
| <p>ふか</p> <p>・今日の勉強で分かったことをノートに書きましょう。</p>                                                                      | <p>III II I</p> | <p></p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

折れ線グラフで III…たいへん意欲的に取り組んだ II…だいたい意欲的に取り組んだ I…あまり意欲的に取り組めなかった



第5学年 図形の面積単元の算数コーナー

1 算数コーナーのあらまし

<掲示>

平行四辺形の面積=底×高さ  
三角形の面積=底×高さ÷2

台形の面積=(上底+下底)×高さ÷2

<操作板>

①

・板にくぎを打ったもの  
・ゴムひも

②

じんとり遊び  
方眼用の黒板

2 算数コーナーの設置にあたって

- 面積の公式や求め方など、実際の学習に使用したものを、学習後に掲示することによって、その定着をはかる。
- 学習に使用した、等しい面積の三角形や平行四辺形などの教具、じんとり遊びなどの器具を昼休みなどの遊びに使用させる。

3 算数コーナーの効果 (子どもの取り組み)

- 面積の求め方などの系統性をひと目で掲示物を通して理解できた。
- 雨の日など、二人一組になって遊びを考える児童が増えてきた。

## 1 はじめに

これまで行ってきた授業は、どちらかという教師による知識伝達型の授業が中心であった。この指導法は、知識を効率良く伝達するにはとてもよいが、反面、生徒が受け身になり、生徒一人一人の能力、関心、興味を生かすことができなかった。これでは、新指導要領の柱である、個性の重視、自己教育力の育成、基礎・基本の徹底は実現できない。

そこで、バズ学習を授業の中で積極的に活用することによって、個の考えを高めさせ、班別自由学習、自由研究によって、主体的な探求活動をさせることにした。

また、基礎・基本を徹底させるために、予備課題、確認課題を行うことにした。その結果、生徒の自ら学ぶ意欲が高まり、自己教育力に必要な態度、能力が育つと考え、本研究に取り組んだ。

## 2 研究の仮説

バズ学習、課題構成図を効果的に活用し、班別自由学習・自由研究の場を設定した授業展開をすれば自己学習に必要な能力や態度を身につけさせることができる。

予備課題、確認課題を行うことによって、主体的に学習に取り組ませるために必要な、基礎・基本を生徒一人一人に身につけさせることができる。

## 3 研究の手だて

### (1) 課題構成図

授業にとって大切な課題を、単元初めに、生徒に一括提示するために考えたのが課題構成図である。この課題構成図によって、生徒に学習の見通しを与え、学習に主体的に取り組もうとする意欲を喚起させることができると考えた。

課題構成図を単元の初めに生徒に提示し、単元のガイダンスを行う。このとき、生徒の意見、感想を聞き、必要があれば課題構成図に修正を加える。

### (2) 基本的な授業の流れ(資料1)

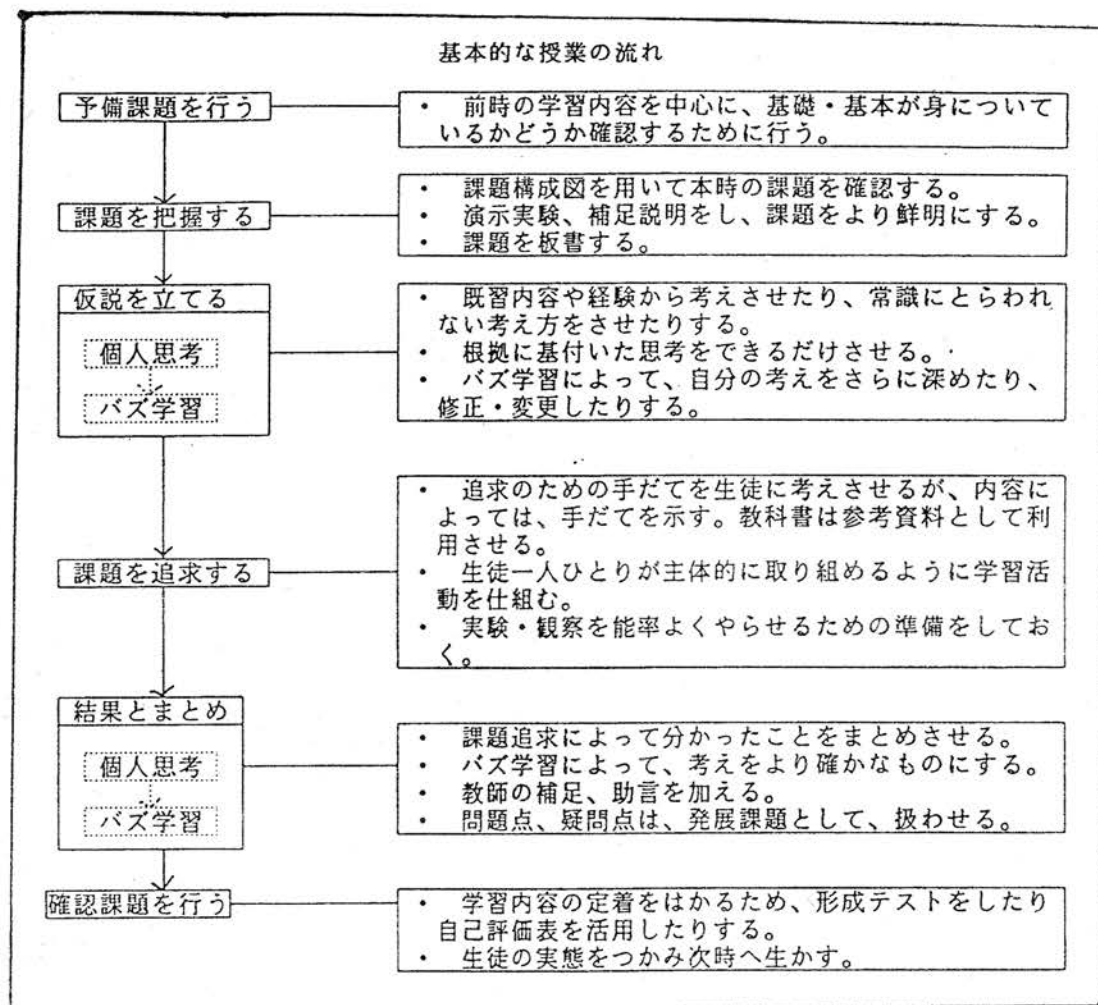
バズ学習の基本的な流れ、「課題提示→個人思考→バズ学習(集団思考)→まとめ」をもとに、授業の基本的な流れを考えた。

### (3) 班別自由学習と自由研究

班別自由学習とは、追究の手だてが多く広がりのある課題を与え、追究の手だてをバズの話し合いによって考えさせたり、選択させたりして、班で行わせるものである。これまでの決められた実験だけを行うのと違い、自分たちの考えが生

かされやすいので、課題を真剣に受け止めさせ、主体的に学習に取り組ませることができると考える。

自由研究は、単元の学習を進める中で、でてきた疑問、問題点、新たな課題を個別に解決させるためのものである。単元終了後、取り組まる。自己学習に近いもので、自己学習の経験をつませることができると考える。



(資料1)

#### (4) 予備課題

将来自己学習するために必要となるであろう、基礎、基本は確実に身に付けさせなければならない。この立場に立って、単元全体をながめ基礎、基本事項を精選して見つけだし、授業前に、プリントでこの事項を、確認・ドリル学習させることにした。

(5) 確認課題

学習内容が定着したかどうかを確認することを目的とし、隣接バズ、復習バズ、形成テスト等を利用して行う。

(6) 自己評価表

教材研究により、学習目標を設定したとき、明らかになった目標を、知識、技能、思考、態度（情意）という観点別に配列したものが、自己評価表である。自己評価だけでは、あいまいさが生まれやすいので、隣接バズによる相互評価の欄も設けた。この自己評価表によって、学習の成果を評価したり、蓄積したりすることによって、自己の学習を常に振り返る習慣を身につけさせることができる。考える。

4 指導の実際

(1) 単元名 「酸・アルカリ・塩」

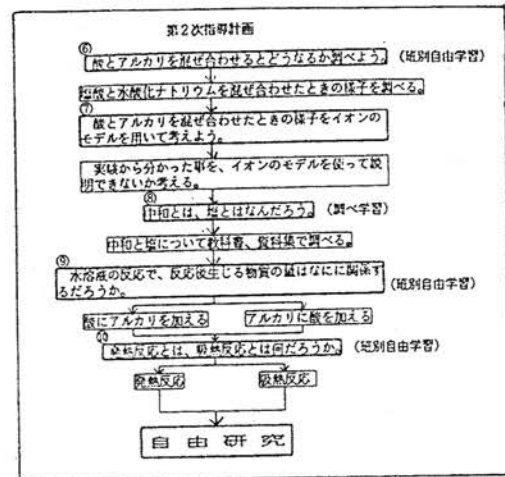
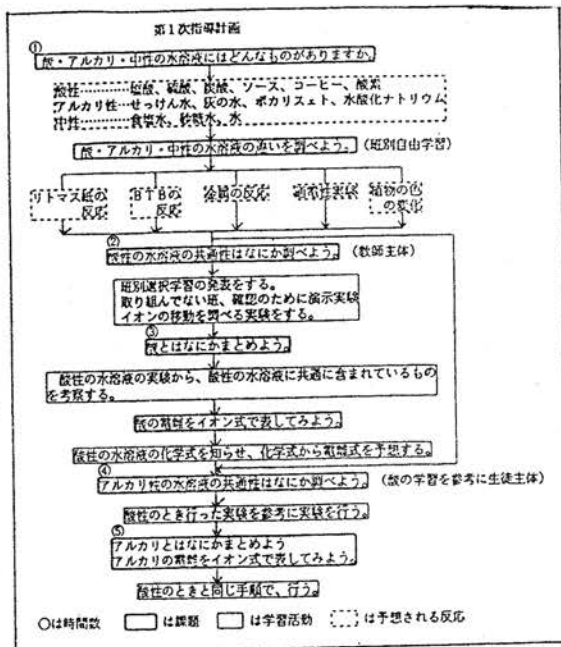
(2) 生徒の実態

生徒数は、男子22人、女子22人 計44人

バズ学習の学習規律がやや身につく、班での話し合いが活発になってきている。実験に興味を持ってやる生徒は、半分ぐらいで、後の半分は見ている事が多い。

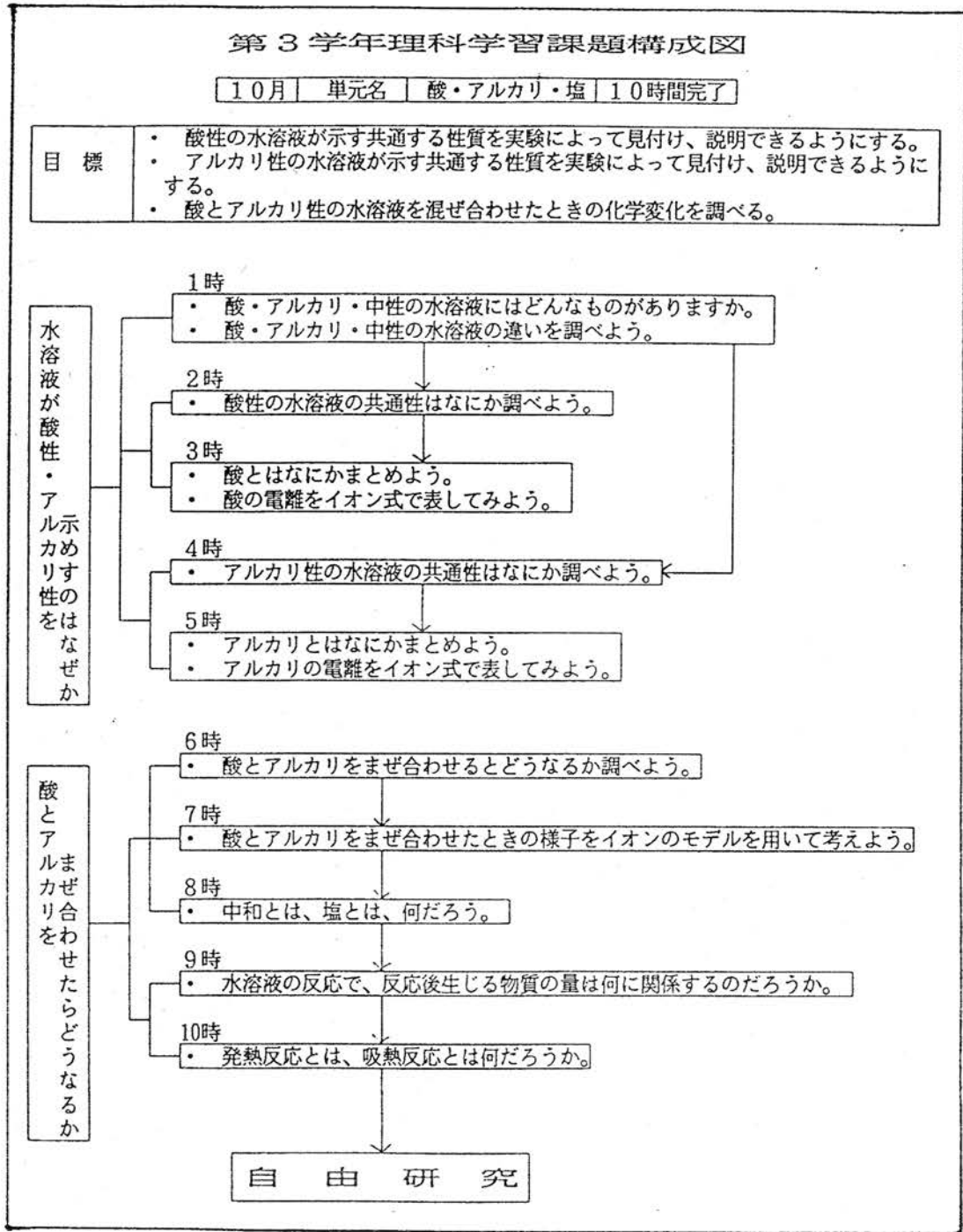
酸について知っている生徒は多いが、アルカリについて知っている生徒は少ない。リトマス紙、BTB反応を理解している生徒は、半数しかいない。

(3) 指導計画 (資料2)



(資料2)


(4) 課題構成図 (資料3)





(資料3)

(5) 自己評価表 (資料4)

| 自己評価表                         |          |   |
|-------------------------------|----------|---|
| 組番氏名                          |          |   |
| 単元名                           | 酸・アルカリ・塩 |   |
| 目標                            | 観        | 記 |
| 酸性の水溶液の共通の性質が説明できる。           |          |   |
| アルカリの水溶液の共通の性質が説明できる          |          |   |
| 中和とは何か説明できる。                  |          |   |
| 塩とは何か説明できる。                   |          |   |
| 酸の電離をイオン式で表すことができる。           |          |   |
| アルカリの電離をイオン式で表すことができる。        |          |   |
| 吸熱反応・発熱反応が説明できる。              |          |   |
| 酸性の水溶液の共通の性質を調べる実験が行える。       |          |   |
| アルカリの水溶液の共通の性質を調べる実験が行える。     |          |   |
| 共通の性質を調べる実験の結果から分かったことが説明できる。 |          |   |
| 酸とアルカリの反応がモデルを使って説明できる。       |          |   |

  
 できる

  
 だいたいできる

  
 あまりできない

自己評価表

6組 2番 氏名 渡辺 亮

- ・ この単元の学習は楽しくできましたか。 5-④-3-2-1
- ・ 班で話し合う前に自分自身の力で課題に取り組みことができましたか。 5-4-③-2-1
- ・ 班で話し合うとき自分の意見を言うことができましたか。 5-4-3-②-1
- ・ 班で話し合うとき友達のことをしっかり聞くことができましたか 5-④-3-2-1
- ・ 班で仲良く学習しようと努力しましたか。 5-④-3-2-1
- ・ 班で学習することが楽しかったですか。 ⑤-4-3-2-1
- ・ 実験を選んでみましたか。 5-④-3-2-1
- ・ 班で協力して実験できましたか。 5-④-3-2-1
- ・ この単元の目標が達成できましたか。 5-④-3-2-1

感想

別分解しては苦手。電離イオンには 酸/アルカリ。また、酸/アルカリは、それぞれ異なる性質。別にできた分野のり、私も、ふたつ、とこ3つ(た。それは、と、図をみる。実験をする。楽しい。た、と、思。ます。

図や書こも、た、と、思。ます。11の電離分解、い、と、思。ます。図の書け、理解、し、け、る。前、で、も、今、も、思。ます。

(資料4)

5 授業実践の結果と考察

(1) ガイダンスについて

課題構成図を提示したときの生徒の反応で最も多かったのが、「電離式が難しいので、時間をかけてほしい」であった。そこで、7時を延長し、8時の途中までやることにした。その他の反応としては、「授業で分かりにくかったところは予備課題で何度もやってほしい」、「難しそうだからゆっくりやって」「頑張らねば」等があった。これらの反応から分かるように、課題構成図によって、生徒の意欲を喚起することができたと考える。

(2) 第1次「水溶液が酸性、アルカリ性を示すのはなぜか」について

1時の「酸・アルカリ・中性の水溶液にはどんなものがありますか」の課題は、予想通り生徒の関心を高め、やる気を引き出すのに効果的であった。

班別自由学習によって、自分達の実験ができるという気持ちを抱かせることができた。さらに、他班と違うことをやろう、たくさんやろうの競争意識もはたらかせることができ、生徒は、主体的に学習に取り組んだと考える。このことは、どの班も必死に実験取り組み、班の中で、遊んでいたりと、見ていたりする生徒が



ほとんどいなかったことから分かる。2、3時の教師主体の授業を受けての4、5時の生徒主体の授業の展開は、とてもスムーズにいった。一つの流れを他に応用する態度を育成することができたと考える。

### (3) 第2次「酸とアルカリをませあわせたらどうなるか」について

6時も班別自由学習の形態をとったつもりであったが、どの班も同じ実験をやっていた。課題に広がりがなかったせいである。こういった課題の場合は、一斉に取り組ませたほうが能率的である。

9時、10時の二者択一の方法の班別学習は、生徒にやる気を起こさせることにつながったと考える。選ぶことができることに魅力を感じ、やらされる感覚が薄れるようである。また、結果発表も、クラスの半分は、知らないわけで、いい加減にやると友達から質問されるので、これが刺激となり、一生懸命に取り組ませることができたと考える。

### (4) 自己評価について

認知面で相互評価を取り入れたため、自分だけの思い込みがなくなり、客観性が出て良かった。また、友達に話すことによって、頭では分かっているつもりであったことが、あいまいであったことに気付かせることができ、学習内容を定着させるのに役立った。自己評価についての感想では、「自分がだんだん分かっていくことが目で分かるのでうれしい」「分からないところが分かりうれしい」「テスト勉強がしやすい」などが多かった。態度面の自己評価表では、どの項目も、クラス平均が普通の3.0以上であった。また、個人的に見ても、1または2と答えた生徒は、3～5人であった。

### (5) 自由研究

自由研究に実際に取り組む前に、まず、課題と方法を書かせ、提出させ、アドバイスの必要なものには、個別指導を行った。

生徒の取り組んだ課題は、興味本位の課題、授業内でうまくいかなかった課題が多く、発展的課題が少なかった。発展的課題が少なかったのは、残念であるが、意欲を引き出すねらいは十分達成できた。

授業内と同じような課題が多いのには驚いたが、実験に取り組んだ理由は、実験がうまくいかなかったから、自分でできなかつたから、という前向きなものであった。

## 6 おわりに

班別自由学習、自由研究によって、生徒の学習意欲を高めることができ、これまで、どちらかという受け身的であった生徒に、主体的に授業に取り組ませることができた。本研究により、わずかではあるが、自己教育力の育成ができたと考える。

生徒に主体的に取り組ませるための実験・観察の開発を今後の課題とし、自己教育力を育成するための指導法の研究をさらに進めていきたい。

## 生徒側に立った学習について

(財)アテネ会館 専務理事 西塚茂雄

この標題は、私たちの教育的活動が、敗戦の明けの昭和21年から始めて、今日までの45年間を総括したものであります。その間、研精塾(S.21―)、アテネ学習会(S.40―)、(財)アテネ会館(S.41―)と何度も脱皮して、私的な活動から、公的な人格をもった財団法人にまで成長しました。かくして文部省学校教育側の指導要領の枠をあまり気にしないで、また他方の小、中、高、大の入試を中心とした教育産業からはっきり、一線を画したことを公的に宣言して、昭和40年12月23日に、三重県社会教育課を経て、財団法人アテネ会館設立の許可を得ました。

(財)アテネ会館 寄付行為 (一部)

### 第一章 総則

第一条, 第二条・・・(削略)

### 第二章 目的及び事業

第三条 本会館は広く文化その他に関する研究を行うと共に、青少年の健全育成を目途とする社会教育事業を推進することを目的とする。

第四条 本会館は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 1 学問、文化その他に関する研究
- 2 青少年の校外生活、家庭生活の向上
- 3 各種研究会、講習会、講演会の開催
- 4 本会館の目的に適う各種会合への会場提供
- 5 その他の本会館の目的に適う適当な事業

### 第三章 以下省略

(財)アテネ会館の社会教育的活動の一部を紹介 (NHKビデオ14分)

わが寺小屋―83 (三重県の巻)

受験勉強をしない塾 (S.58.3.17. AM7:25放送)

- 補説 (1) 石とりゲーム (S.22.8.18; 黒田孝郎先生のサマーレクチャーから)  
(2) 豆板 (リレーション・プレート) (S.43. 平野次郎先生, 集合遊び)  
(3) 読書 (S.40―岩波少年文庫を複数で集める, 193種)  
(4) ふなの模型 (黒田孝郎先生の講演の発展)  
(5) ルービック・キューブ (S.55―算数の最小公倍数)

折り目のついた真新しいワイシャツを着て  
小鹿の眼のように人なつこく  
青葉の風のようにすがすがしい顔をあげて  
胸に吹き込む一切の夢を見てとろうと  
見知らぬ壇上をじっと見詰めている少年たちよ  
桃色よりも柔らかい頬ぺたを  
四月の朝の講堂にみずみずしく輝かせている君たちは  
まことに澁刺とした弾力性の象徴  
未来と光りのほかには何も見ない  
一本気と純潔のほかには何も持たない  
大空をかける風の申し子  
大地を萌える命の精鋭だ  
被いかぶさるもろもろの理不尽をも  
すべて無心に受けとめ浄化する  
上げ潮の海の匂いのする口許には  
おとなしそうで、しゃべりたそうで  
恥ずかしそうで、笑い出しそうで  
むずむずしている千変万化の可能性が  
清冽な若さに洗い出されて光っていた  
いまアテネにはやがて逆まく巨大な波となって  
無限の空間にとどろきわたる  
圧縮されたエネルギーが渦巻いているようだ  
君たちの眼に燃え立つ信頼と光明の炎は  
まるで天の声を人間にささやく永遠の浄火のようだ  
昂然と額をあげて  
真理の急坂をよじ登ろうとする見渡す限りの精鋭  
もうもうと湧き起こる暗黒の戦雲の奥にも  
君たちは「道」を間違えることはないだろう  
ただ私はひそかに祈った  
人間を社会悪のなかに野垂れ死させないために  
人間を自らの存在を生き切るために  
人間の弱さと血みどろに体当たりする  
強い土性骨を太らせることを  
この世の少しばかりの誘惑とおめかしを捨て  
また君たちのいじらしい誇りをも捨てて  
君たちがただ他に換えられない人間になるために  
汗を流し泥にまみれても  
自らの「道」に猛進することを

## 第26回全国バス学習研究大会資料

| 分科会名      | 勤務校          | 氏名   |
|-----------|--------------|------|
| 実践研究発表(3) | 岐阜県土岐市立泉西小学校 | 杉浦正佳 |

### 1、研究主題

#### グループを生かした学習指導

### 2、主題設定の理由

4月、学級開きと共に、一人一人が生き生きと意欲的に学習に取り組む学級をつくろうと、毎年意気込むのではあるが、いざ授業を行ってみると、自分の理想の授業には到底届かないものばかりである。そして、次第に学級開きの時の意気込みも消沈してしまうことがよくある。

授業の構成が一部の児童だけに大きく関わってしまい、多数がお客さんの存在であるというのである。学級全体でねりあげ高め合っていく授業が成立しないということである。挙手したりして積極的に授業に参加してくる児童と反対にそういう児童や教師の話を聞いて授業に参加している児童とに授業中の学級が二分化されているのである。

消極的な児童を授業に参加させようと意図的に指名をすると、概ね的を得た発言や自分なりの考えを何とかしようとする。しかし、声が小さく、生きた発言とは言い難い。

そこで、このような児童の意識を生活ノートや生の声から探ってみると、ほとんどの児童が間違っていたら恥ずかしいという気持ちをもっていることが分かった。また、このような児童は授業中に積極的に堂々と意見を言いたいという気持ちを合わせてもっていることも分かった。

つまり、好ましい人間関係が醸成されていないために、積極的な児童とそうでない児童に分かれてしまい、バランスを欠いた不安定な授業になってしまうのではないかと考えられる。

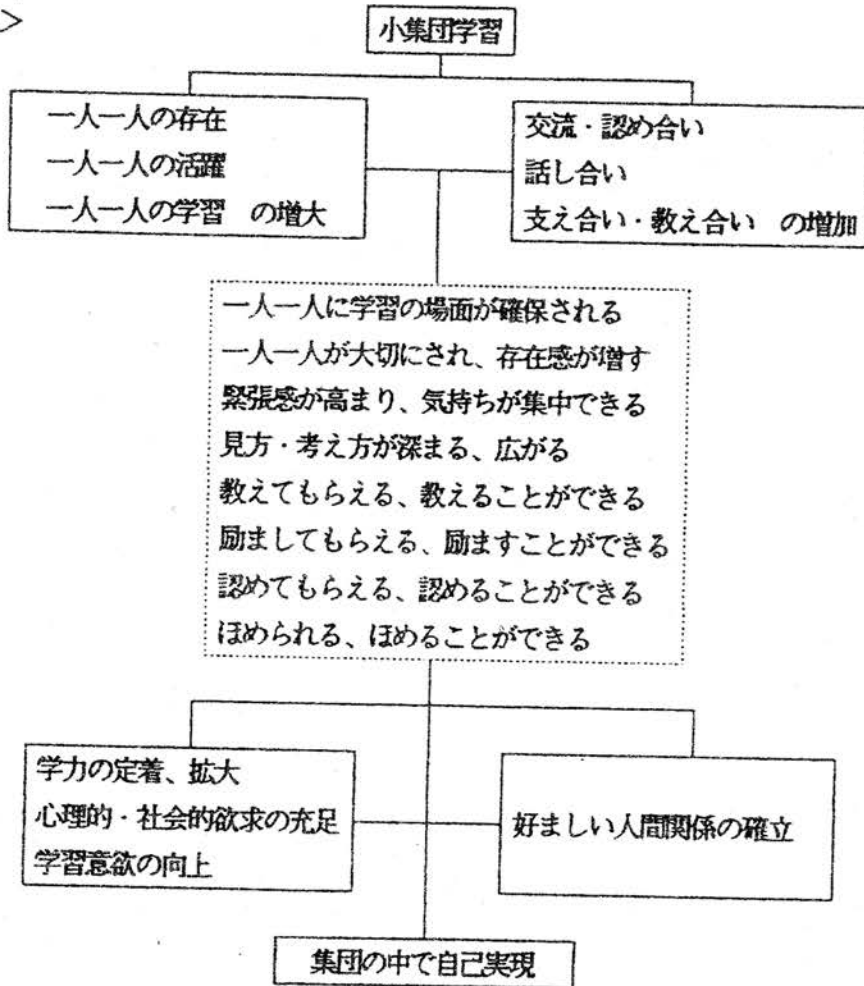
そこで、好ましい人間関係をつくり、一人一人が生き生きと学習に参加していく学習展開をしていくためには、一斉指導における個の存在・活躍・学習より、小集団というグループを生かしたほうがその場面が高まると考え、本主題を設定した。

また、グループを生かした学習展開を進めていくことで、集団の中での一人一人の自己実現が図っていくことができるのではないかと考えた。

### 3、研究の仮説

グループという小集団学習を位置づけた学習指導と集団の中での自己実現との関係を次の頁のように考えた。

<仮説>



グループという小集団の中の他のメンバーによって機会・意欲づけ・緊張感  
励まし・援助などの作用が促され、逆に、好ましい小集団の中でこそ自己を  
実現できる児童もいるととらえ、小集団の学習が活かされることにより、学級と  
いう大きな集団の中での自己実現ができるのではないかと考えた。

#### 4、研究内容

仮説に基づいて、次のような研究内容で研究を進めた。

- (1) 児童の意識が持続するようなこだわりのある課題の設定
  - ・意識のズレ（矛盾）が生じる事象提示
  - ・興味関心のある内容の取り上げと児童を引きつける資料提示
  - ・適度抵抗のある内容
  - ・多様な発展性、思考、解決の可能性の内在

(2) 1 単位時間の学習過程の想定とグループの活動（小集団による学習）の位置づけ

< 社会科学習における 1 単位時間の学習過程 >

| 過程             | 場面                            | 内容                                                                                                                    |
|----------------|-------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| つかむ過程<br>認識過程  | ○足場を確認し、本時の学習課題をつかむ場面         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・見学結果の交流、確認</li> <li>・資料の読み取り</li> <li>・筋の骨格と場づくり</li> <li>・調べ学習の交流</li> </ul> |
| さぐる過程<br>探究過程  | ○学習課題解決の場面<br>多様な考えや対立意見を出す場面 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人々の願い</li> <li>・様々な資料の読み取り</li> <li>・因果関係</li> <li>・特色</li> </ul>             |
| まとめる過程<br>確認過程 | ○学習内容の確かめと定着を図る場面             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・キーワードを使ったノートへのまとめ</li> <li>・クイズ</li> <li>・新たな課題</li> </ul>                    |

学習内容を考えて、この過程の中にグループの活動を位置づけていく。位置づけはどの過程にもというのではなくて、一人一人の学習が高まっていくことを大切にする。課題との関係から、さぐる（探究過程）に位置づけていくことが多い。

(3) グルーピングとグループ学習の形態

〔グルーピング〕

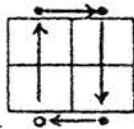
- ・興味関心の差異によるグループ
- ・課題解決方法別グループ
- ・生活グループ

〔グループ学習の形態〕

- ・情報交換、練習、確認、考えの多様化……リーダーは進行役的な役割

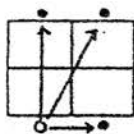
○4人 情報交換、練習、確認が中心 リーダーは進行役的な活躍

輪番法



- 全員発言（参加）が機械的にできる
  - 緊張感が生まれる
  - 学習方法が身につく
- ・交流
  - ・練習

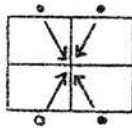
指名法



- リーダーが育つ
  - 発言の方向が指向される（ねりあげの初歩）
  - 緊張感が生まれる
- ・交流、練習
  - ・話し合い



#### 自由会話法



主体性が育つ

・話し合い

集団凝集性が生まれる

・追求、まとめ

楽しく充実した雰囲気生まれる

好ましい集団に高まる

#### 4、実践

【実践例1】(小5理科『たねの発芽』より) …附内容(3)に準じて

この単元では、たねの発芽の条件を予想し、その予想に応じて実験方法を考え実験を行い、最終的に発芽の条件をまとめるようになっている。

そこで、校庭や花壇に出ているいろいろな草の芽を観察させた後に、次のような課題を提示した。

たねが根や芽を出す(発芽する)ためには、なにが必要なのだろうか？

児童から次のような予想がでた。

- (ア) 土が必要ではないか。
- (イ) 水が必要ではないか。
- (ウ) 日光(明るさ)が必要ではないか。
- (エ) 暖かい(適当な気温)と発芽するのではないか。
- (オ) 空気も必要ではないか。

条件の予想がでたあとに、予想の疑問や根拠を話し合わせ、自分が実験して調べてみたい条件を決め、同じ条件同士でグループを組み、実験に取り組ませた。

この実践でのグルーピングは、5つの実験方法で15のグループを作った。34名の学級であるので、1つのグループは2~3名の構成である。実験は、できるだけ個人でやらせたいという考えと、一人では実験の条件設定が不十分な児童への支えということで、最小人数のグループにした。

#### <実践結果と考察>

実験方法別のグループで学習を進めたことは、一人一人の児童が自分の興味関心をもって意欲的に取り組むことに効果的であった。

(I)の明るさの条件に取り組んだ児童は、家から蛍光灯を持ってきて夜でも暗くならないように配慮して、明るい所と暗い所の比較実験をすることができた。

理科の授業の実験では、どちらかと言えば第3者的になりがちであった女子の活動も十分になされていた。

実験内容にも関わるが、実験方法別のグループの構成は学習が高まっていくということで有効であると感じた。

【実践例2】（小5社会科『庄内平野のいな作』より）…**内容(1)(3)**に異なって  
○意識のズレをもとにした課題設定と興味関心別課題追求グループの構成

提示(1)

【庄内平野の農業人口の移りかわり】のグラフの提示

資料内の 事実の読み取り

- ・農業人口が減ってきている
- ・20年ぐらいで6万5千人から、約半分の3万4千人ぐらいに減った。……etc.

米の生産量はどうかろう？

提示(2)

【庄内平野の10a当たりの米の生産量の移りかわり】のグラフを提示

資料内の 事実の読み取り

- ・安定した米の生産量
- ・'55~'75までは、年々増えている。……ect.

推: 農業人口が減ったから、米の生産量も減っただろう。

自分の意識との

ズレ

なぜだろう？

どうしてだろう？

課題

農業人口が減っているのに米の生産量が  
変わらないのはどうしてだろう？

予想を考え話し合う

- ・農業機械の進歩 (研究グループ) ……………(6)
- ・たくさんとれる稲の栽培 ……………(2)
- ・人手を補うために共同で作っている。…(1)
- ・農薬や肥料の工夫 ……………(2)
- ・土地の改良 ……………(1)

この実践も実践(1)のように、興味関心のある内容ごとにグループを構成して、各内容ごとに詳しく調べるようにさせた。また、調べた結果を発表会で、良く分かるように発表するよう指示した。

<実践結果と考察>

グループでまとめる前に一人一人調べておくようにと、グループを構成した後に付け加えておいたら、次の授業のときノートびっしりと調べたことを書いてきている児童が多くいたことに驚いた。

普段あまり授業中に活躍しない子までもそうであったからだ。

一人一人の足場ができてから、どの内容のグループも意欲的に取り組むことができた。グループのまとめを模造紙に書かせ全体発表をさせたが、グループの構成メンバーに関係なく全てのグループがわかり易く発表することがで

きた。グループ内で各自の発表分担がしっかりなされていた。

授業時間の効率や調べていない内容の理解をするという点では問題があるが、いな作の工夫を意欲的に調べるといふ点では効果があったと考える。

この実践後にとつたアンケート結果は以下の通りである。

問：『農業人口が減っているのに米の生産量が変わらないのはどうしてだろう？』の学習では、自分が調べてみたいことについて勉強して、みんなに発表しました。このような勉強はどうでしたか。

- (ア)自分が調べたいことがやれて楽しい勉強だった。
- (イ)同じことを調べる子のグループだったので楽しい勉強だった。
- (ウ)自分で調べなくてはいけなくて、めんどくさかった。
- (エ)一人でまとめて発表でなく、グループだったのでいやだった。
- (オ)その他

↓(イ)2%

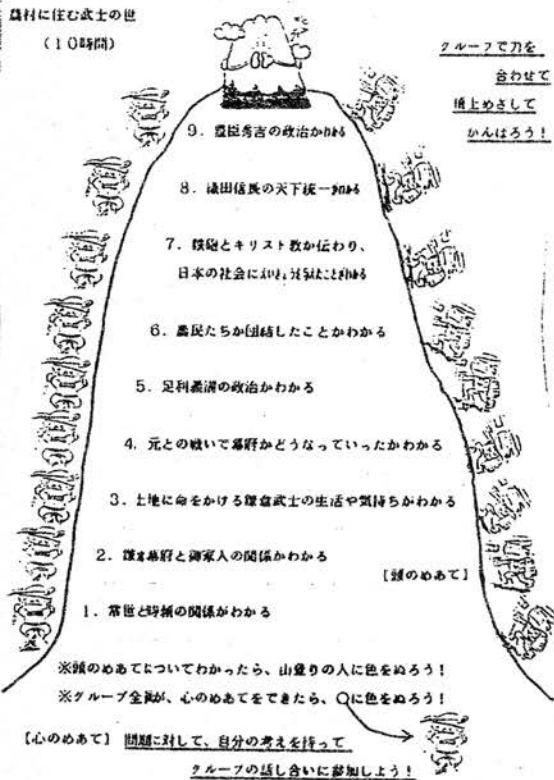
|     |     |    |     |
|-----|-----|----|-----|
| (ア) | (イ) | ウ  | (エ) |
| 32% | 52% | 3% | 8%  |

【実践例3】(小6社会科『農村に住む武士の世』から) 階層(2)

- (1) つかむ(認識過程)過程における、確かな足場づくり(前時の確かめ)  
 <グループの話し合いによる、意図的な先行知識や先行経験の想起>  
 前時までの学習内容が、本時に大きく関わってくるのがよくある。

そこで 前時の復習と本時のめあて「頭のめあて」「心のめあて」(下図:山登り表)の確認を授業導入時に 位置づけた。

この活動を行うことにより、前時の学習内容の定着が低かった児童に、その内容を確認させると共に本時の学習内容の確認や課題解決の援助、また、学習の方向づけができる考えた。



・学習内容と学習方向づけの山登り表

「頭のめあて」…知識理解的な内容

「心のめあて」…学習参加面の態度的な内容

導入時のグループの話し合い

リーダー：前の時間で分かったことを順番に発表して下さい。  
 C1：頼朝が平氏をうって、鎌倉に幕府を開いた。  
 C2：壇の浦で源氏は平氏をたおした。  
 C3：将軍と家来の武士は御恩と奉公の関係で結ばれていた。  
 C4：その家来・御家人は「いざ鎌倉」の時は、命がけて戦うことを誓ったということだった。  
 C5： .....

リーダー：C5君、前の時間は、絵（教室内に掲示）のように、将軍と御家人が御恩と奉公の関係で結ばれていたんじゃないかな。山登り2（鎌倉幕府と御家人の関係がわかる）を色をぬろう。  
 リーダー：今日の頭のめあては、「土地に命をかける鎌倉武士の生活や気持ち」がわかります。心のめあては、「問題に対して自分の考えを持って、グループの話し合いに参加しよう。」です。

山登り表を使い、つかむ（認識過程）過程にグループの話し合いを位置づけたことにより、本時の学習は「土地に命をかける鎌倉武士の生活や気持ち」であることを確認することができた。更に、前時の学習が源頼朝が鎌倉幕府を開き、将軍と御家人は、御恩と奉公の関係で結ばれていることが確認できた。また、「いざ鎌倉」に備えて絶えず武芸に励んでいるという考えに発展していくことができ、本時に生きてきた。

この山登り表は、学習の方向を示していくうえで、また、個人の足場づくりとして有効であった。（鑑・陸・本・の・盟）

本時の目標 認知：土地に命をかける鎌倉武士の生活の様子をつかみ、自分の土地は自分で守っていることがわかる。  
 態度：課題に対して、自分の考えを持って、グループの話し合いに参加することができる。

本時の展開

| 過程 | ねらい                             | 教材の主な展開                                                                                                                      | 予想される児童の反応                                                                                                                                                                                                                                          | 留意点                                                                                         |
|----|---------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| つ  | 前時の復習と本時のめあてを確認させる。             | ○グループで前時の復習と今日のめあての確認をして下さい。<br>・前時のノートを確認するように指示する。                                                                         | (リ) 前の時間でわかったことを発表して下さい。<br>・壇ノ浦の戦いで頼朝が平氏を打ち破り、源頼朝が鎌倉に幕府を開いた。<br>・将軍と家来の武士（御家人）は御恩と奉公の関係で結ばれ、「いざ鎌倉」のときは御家人は命がけて戦うことを誓った。<br>(リ) 今日の勉強の頭のめあては「土地に命をかける鎌倉武士の生活の様子や、その武士達の心がわかることです」心のめあては「問題に対して、自分の考えを持ってグループの話し合いに参加していくう。」です。めあてに向かってがんばって勉強しましょう。 | ・リーダーへの援助を行う。（特に5、8G）<br>・将軍と御家人の関係をつかませておく。（本時への関わりより）<br>・めあての確認は山登りをもとに、リーダーがメンバーに言っていく。 |
| か  | 武士の服装の絵より鎌倉武士の生活の様子や生活場所をわからせる。 | ○この絵は鎌倉武士の服装です。絵を見て、気付くことは、わかることは？<br>（編組の服装の生活と比べて見てみましょう）<br>・図解ボードの提示。                                                    | ・門の所に人がいる。一丁・弓を持っている。一門を誓っている。<br>・馬を飼っている。<br>・その馬に乗って弓の練習をしている。一かさがけ（やぶさめ）<br>・出んばがあつて餅したり、田植えをしている。一農村だ<br>・柳で家の周りを囲んでいる。家の周りに堀がある。<br>・一層敷を敷き詰められないようにしている。<br>・鳥一風一塵羽、戦いに使うのでは、<br>・平安貴族と比べると熟手でなく、いつも戦いの備蓄しているようだ。                            | ・多くの子供が酒宴（売書）できる場であり、鎌倉武士の具体的な生活を提案していくところである。多くの子に指名していきたい。（列指名）                           |
| む  | 問題をつかまえる。                       |                                                                                                                              | 鎌倉武士が武三の訓練にはげひのはどうしてだろう。                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                             |
| さ  | 鎌倉武士が武三にはげひわけを考えさせる。            | ○これは鎌倉武士の岳に出てくる言葉です。<br>・「一断絶命」のカードを貼る。<br>・言葉の意味を説明する。<br>○この言葉や今まで勉強したことを手掛かりに考えてみましょう。<br>・個人追求・グループ追求をさせる。<br>・全体発表をさせる。 | <個人追求><br>図解ボードのようなプリントの吹き出しに言葉を入れる。<br>(門番) 土地を取られないようにしっかり守るぞ。<br>堀が来ないかしっかり守るぞ。<br>(やぶさめ) 「いざ鎌倉」の時のため、しっかり練習を頑んでおこう。いつでも戦いにいけるようにしておこう。<br>戦いで手柄を立てるように。<br>(馬の世話) 鎌倉へ一番に著くように馬の世話をよくしておこう。<br><グループ追求><br>各自のプリントを基に話し合う。<br>(バズ)               | ・必然的な課題のように子供に意識づける。<br>・吹き出しは、気持ちなどを答かせる。                                                  |
| ら  | 鎌倉武士が武三にはげひわけがわかり、ノートにまとめさせる。   | ○グループの話し合いや他のグループの友達の話を確認して、今日の勉強をまとめましょう。                                                                                   | 図解ボード (指名法)<br>自由会話法 (自由会話法)                                                                                                                                                                                                                        | ・リーダーへの援助をする。自由会話ができるように援助したい。<br>・話し合いが行き詰まっているGに考えていく視点を与える。<br>・ノートにしっかりまとめさせる。          |

本時の評価 認知：土地に命をかける鎌倉武士の生活がわかったか。（ノート・発言） 態度：グループ学習にめあてを持って参加できたか。（学習態度）

(2) さぐる（探究過程）過程における、課題追求のためのグループの位置づけ  
 主題設定のところでも述べたが、一人一人の考えを学級全体に出し合い、学級全体で考えを価値ある方向へねりあげていくとなると、学級人数・授業時間などのため、全員が発言したりしてねりあげていくことはほとんど不可能である。

また、このとき授業に参加しているものの、どちらかと言えば、授業に埋没（受動的学習姿勢、考えが浅くぼんやり姿勢）してしまっている児童も少なくない。

そこで、一人一人の考えをねりあげるために少人数のグループで、話し合わせることにした。グループということで、一人一人の課題に対する考えが明かになり、また、グループの中へ自分の考えを自分の言葉で語らなければならないということで、考えが深まっていくだろうと考えた。

しかし、実際に行ってみると、グループ構成・話し合いの方法・役割分担などいろいろな問題がでてきた。またいくら個人の考えづくりをしても、一人一人が発言するだけで、個と個の関わりがうすく、友達の考えと自分の考えを比べる姿がなかなか見られなかった。

少しでも、グループの話し合いが深まっていくようにと、リーダーとしての班長を指導した。班長には右のような「班長カード」を与え、話し合いの形から指導していった。

このカードを利用してグループの話し合いを進めるようにさせていくうちに、少しずつ各人の考えを関わらせて話し合いを進めていくグループがでてきた。

社会科 話し合いカード

- 二人二人の考えを言ってもらおう。（輪番法）
 

班長「A君の考えはどうですか。」（あと、順番に言ってもらおう）  
 A君「.....と思います。」  
 Bさん「.....です。」  
 C君「.....です。」  
 Dさん「.....と思います。」  
 班長「ぼく（わたし）は.....と考えたよ。」  
 ※分からない人には、分からないということはっきり言ってもらったり、どこが分からないのか言ってもらおう。  
 （一人でも何も言えない人がいたら、そのグループは成長しているとはいえないよ。また、一人一人に力をつけていくことができないよ。）
- 班長が指名して、考えを言ってもらおう。（指名法）
 

班長「A君の考えについて、Dさんはどう思いますか。」  
 Dさん「わたしの考えとA君の考えはちがっていたけど、A君の考えが.....ということがよくわかったよ。」  
 班長「Bさんは、今のDさんの意見について、つけたしか、何かありませんか。」  
 Bさん「Dさんと同じで、わたしもA君の考えが.....ということがよくわかりました。」  
 班長「Cくんは、Dさん・Bさんの意見やA君の考えについてどう思いますか。」  
 C君「ぼくもDさんと同じで、A君の考えが.....ということがよくわかったよ。」  
 班長「ぼく（わたし）も、A君の考えたこともよくわかったけれど、Dさんの考えもよくわかって、とても参考になったよ。」
- 班長が指名しなくても、グループの中で自由に話し合う。（自由会話法）
 

班長「何か質問や、つけたしはないかな？」  
 A君「C君の考えちょっとよく分からなかったのでおしえて。」  
 C君「ぼくの考えは.....で.....なんだよ。」  
 A君「あ、わかった。いいところに目をつけたなあ。」  
 Dさん「.....。」  
 Bさん「.....。」
- グループの話し合い後、クラスの中へ発表するようにみんなではげまそう。  
 ・クラスへの発表はグループの考えを言うのではなく、グループの子の考えを参考にしながらか、あくまでも自分の考えを発表していくこと。  
 「一人一人があれこれと考えて、グループや自分をたかめていこう！」

課題に対するグループの話し合い

リーダー：鎌倉武士が戦いの練習に励んだりするのは、どうしてですか。順番に言ってください。

C1：やぶさめのところのように、「いざ鎌倉」のときのために弓矢の練習をしている。

C2：門番のところに敵が土地や田んぼを取りにくるかもしれないんで、守っている。

C3：わたしは、馬の世話のところで、馬は戦いのときや、「いざ鎌倉」で駆けつけるとき、とても大切なので世話をする人がえさをやって



いつでもいいようにしていると思います。

リーダ：つけたしや質問・意見はありませんか。

C2：C1君につけたしで、やぶさめは「いざ鎌倉」のときだけでなく、敵がせめてきたときに戦えるようにしていると思う。

C1：守ることも……

リーダ：C2君の門番のことだけど、源氏の武士はガンが飛ぶのを見て、敵が隠れていることを見抜いたことがあったけど、門番の人はそういうことも見ていると思います。

.....

自分の意見につけたしされることにより、考えが広がり深まったようであった。C1で言えば、「いざ鎌倉」という御恩と奉公の関係しか考えていなかったが、C2につけたしされ、土地を守っているということも知った。

こういう話し合いが盛んになればなるほど、考えがねりあげられると考えられる。

実践例4 (小5社会科『畑作や畜産にはげむ人々』から) 実践内容(2)に關して

本実践は実践3の(2)と同じ場面の報告であるが、課題に対するグループの話し合いでグループ全体のものでなく、一人の児童の変容をノートやそのときの記録メモから拾って、報告する。

本時の学習内容と展開は次のようであった。

・本時の目標 認知目標：読取を取り入れている創作読家では、収入を安定させるために雇を飼っていることがわかる。  
態度目標：自分の考えを持って、グループや学級の話し合いに参加することができる。

・本時の展開 (6/8)

| 話し言葉のわらひ         | 主な発問と指示                                                                                                                    | 形態           | 学習活動と予想される児童の反応                                                                                                                                                                                        | 指導上の留意点                                                                            |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| つ<br>か<br>C      | ・小川さんと鎌川さんの家の雇子の違いが理解できる。<br>資料：[付録1と2の対比]<br>資料：[付録1と2の対比]                                                                | 一斉           | ○鎌川さんの家の雇子について気づいたことを発表する。<br>・鎌川さんの方が働く人が少ない。<br>・鎌川さんの方が広い耕地である。<br>・鎌川さんの方が収入も多い。<br>・鎌川さんの方が雇い支出が少ない。<br>・どうして雇を飼っているのだろう。<br>・鎌川さんの方が仕事が多くて大変そうだ。                                                 | ・働く人数、収入と支出、野菜だけと野菜と畜産、農業支出を特に注目させる。<br>・多くの子が発言できるようにノートをとる時間を確保する。               |
| さ<br>C           | ・野宮づくりの問題点から、雇を飼う理由を考えることができる。<br>・雇を飼っているわけを考えて、ノートに書こう。<br>・グループで話し合おう。<br>・みんなで話し合おう。<br>資料：[付録1と2の対比]<br>資料：[付録1と2の対比] | 個<br>G<br>一斉 | ○創作読家の学習や生活経験などから、自分なりの雇を飼っているわけをノートに書く。<br>・雇を飼ったほうがもうかる。<br>・鎌川さんの耕地は広いから、飼料や畜舎を作ることができる。<br>・野菜は値段が一定でない。(米は田が決まった値段で買いうる。)<br>・気候によって、野菜の値段が高くなる。<br>・雇の糞は堆肥づくりに利用できる。<br>・作った野菜が売った時は、雇の飼料(糞)になる。 | ・雇作の学習のときの土づくりや、天候による被害を想起させたり。<br>・野菜の値段の不安定<br>→ 飼の値段の不安定<br>・雇の糞<br>→ 土づくり(肥料等) |
| る                | ○なぜ、小川さんは鎌川さんのように雇をかわないのだろうか。<br>・小川さんも鎌川さんのように雇を飼えばいいのに、どうして飼わないのだろうか。<br>資料：[付録1と2の対比]                                   | 一斉           | ○小川さんが雇を飼わないわけを考えよう。<br>・雇は、毎日世話をしなくてはいけない。<br>・飼料代が高い。<br>・もし、雇が病気になって死んでしまったら大損する。<br>・病気になった雇はたぶん売れないだろう。                                                                                           | ・収入を安定させるために、雇を飼えばよいようなことを押さえつつ、でも、小川さんは雇を飼っていない事実を正視させ、雇の飼育の問題点を捉えさせる。            |
| ま<br>と<br>め<br>る | ・雇を飼っている理由や雇の飼育の問題点の観点で学習のまとめ(ノートへの記述)をすることができる<br>・今日の勉強でわかったことを、ノートにまとめなさい。                                              | 個            | ○学習のまとめをノートに書く。<br>(2段)・創作読家の鎌川さんが雇を飼っているのは、野菜づくりが天候に左右されやすく、収入が安定しないからだ。また、雇の糞は堆肥づくりに役にたつからだ。しかし、雇を飼うことで仕事が多くなったり、飼料代が高いなど多くの問題もある。                                                                   | ・問題を振り返りながら、まとめさせる。                                                                |

本時の評価 認知目標：野宮づくりの問題点をもとにして、雇を飼う理由を考えることができたか。(ノート、発言)  
態度目標：雇を飼うことの意義について考え、全員が発言(グループ学習もあわせて)できたか。(発言)



課題に対するグループの話し合いは展開案の〔G〕のところである。

抽出児（仮にT君とする）はグループの班長（話し合いのリーダー）であり知識・理解力にも優れ、学級内で班長に選ばれているのだから、それなりの人望もある。

まず、個人追求では次のようにT君は考えた。

「雨がふりすぎてしまい作物がくさってしまったり、野菜が取れすぎて、ねだんが安くなったりしてしまうと、収入が入らなくなってしまう。そのため、ぶたを飼っているのではないか。」

天候不順や豊作貧乏などによる野菜の価格の不安定さを捉え、ほとんど申し分のない内容であった。（個人追求の初回巡視で私は花丸をうっていた。この時は学級全員に何枚の丸をうった。）

グループの話し合いになり、1GのリーダーであるT君は「班長カード」（前述のものと同じカード）に沿って話し合いを進めた。

グループ全員赤ペンで丸を貰っているのだから、話し合いにはどの子も意欲的であった。花丸のT君は言うまでもなく、自信満々の姿であった。

しかし、3人の子（グループ4人構成）が発表していくごとに、T君の口から、「あっ、そうか。」という声がかもれてきた。

グループの子が、

(ア) お金がたくさん入ってほしいから野菜だけでなくぶたも飼っているのではないか。

(イ) ぶたのふんがたい肥になる。

(ウ) ぶたは、野菜の間引きしたものを食べさせればよいから、えさ代が安くという考えを出してきたからだ。

T君は、きっと自分の考えがベストと思っていたのだろう。（私の花丸もあった）

しかし、自分が気づかない(イ)や(ウ)のような考えがいっぱいあったのだ。その内容は、よく考えれば、もっとものことばかりであった。

授業終末のまとめの今日の勉強でわかったこととして、T君は次のようにまとめている。

『緑川さんの家でぶたを飼っているのは、野菜は値が一定していないために、高くなったり低くなったりするので、収入が安定しません。そのため、ぶたを売っています。また、ぶたのふんがたい肥になるためとてもいい土ができます。しかし、いいことばかりじゃありません。冬に子ぶたがおつたりしてしまわないためにつ夜したり、病気にならないようにみたり、家族旅行もできないから困ることもあります。どこもいけないのはさびしいですね。』

また、『間引きしたものがえさになる。』ともまとめの欄外に書いてある。

## 5、研究の成果と今後の課題（○：成果 ●：課題）

- 課題設定を工夫することで意欲が持続する学習ができた。
- 生活グループにとらわれず、場合に応じてグループをつくることができ、そのグループが生き生きと活動することができた。
- グループという少人数の集団は、自分の立場や考えをはっきりしなければならない反面、少人数がゆえ、気軽さもあり自分の考えを述べ易く、考えがわりあがっていくようである。また、自分の考えを述べること（述べなければならないこと）で、自分の足場が明確になり、考えを深めていくことにつながる。● グループを生かすだけでなく、実習4のように個人に焦点を当て、個人に合った指導や助言を考慮していかなければならない。

## 1. はじめに（研究の背景）

近年、児童生徒の問題行動として、非行などの反社会的行動とともに、意欲欠如や登校拒否などの非社会的行動が大きく取り上げられ、多方面から論じられている。問題行動の原因は多種多様であり一般化することは難しいが、多くの場合、問題行動を持つ児童生徒には、身近な人間関係において様々な偏りや歪みが見られる。

このような人との関わり方の不適切さは、これまでに学んできた人間関係の持ち方の不十分さによることが指摘されている。近年の核家族化と少産化の進行により、子どもは濃密な親子関係の中で大切に育てられているが、様々な人との関わりを持つ機会が昔に比べて激減しているため、他者との関わり方がともすると不得手になりやすい。

さらに、親の教育に対する期待が著しく増大し、幼少期から早期教育に熱心な親が多くなり、常に保護監督下に子どもが置かれ、他の人間と自由に関わりを持つ機会が著しく少なくなっている。かつては、地域社会で様々な年齢の子どもたちが自然発生的に集団を作り、自発的積極的な遊びを展開してきたが、現代では、こうした体験を持つことは期待しにくくなっている。

このため、現代の子どもたちは、様々な人間と関わりを深めて自己を適切に主張することが不得手になり、障害や困難に直面すると問題行動に陥ってしまう傾向がある。

したがって、問題行動を予防してたくましい人間を育成するためには、多様な人間関係を体験させ、多くの人々と関わりを持たせることによって自己を成長させるように配慮する必要があると考える。本実践では、たくましい人間育成に対する異年齢集団活動を中心とした児童会活動について述べる。

## 2. 研究の動機

### (1) 本校の実態から

本校は、児童数828人、学級数25（含特殊）で、市内でも大規模校に属している。市のほぼ中心に位置し、80余年の歴史を持つ落ち着いた学校であり、年間を通して問題行動も少なく素直な児童が多い。

しかし、学年当初の通学団会議では、毎年通学班内での問題がいくつか現れる。高学年の児童が低学年の児童をいじめるとというのが主な内容である。学年初めで班長が不慣れなためということも考えられるが、子ども同士の関わり方の不適切さが引き起こすものであり、放っておけない問題である。

そこで、児童会では、通学班単位や兄弟学級で活動させる機会を持つことによって、これらの問題を解決できないかと考えた。後に仮説で述べるよう

に、地域における異年齢集団の中での遊びによる交流の不足が、こうしたいじめや意欲不足を生む原因になっていることに気づいた。

本研究では、異年齢集団活動を中心とした児童会活動を、より良い人間関係づくりの手だてとして位置づけ、個の変容を見つめながら指導しようと考えた。

## (2) 従来の児童会活動の反省

これまでの児童会活動を中心にした研究では、児童会活動の組織や運営のしかたについての研究に重点が置かれ、こうした点では多くの成果が得られている。しかし、活動を通して集団を形成する個や学級の何が変わったのか、言いかえれば、われわれ指導者が「個や学級のここを変えよう（高めよう）」と意識して取り組むことが少なかったように思われる。

児童会活動や行事を通して児童や学級をどのように変えようとしたのか、そして児童や学級はどのように変容していったかを明確にすることで、変容のために必要な手だてが明確になり、より優れた活動が促されると考える。

そこで、児童会活動の中でも、個や学級との関わりが大変大きいたてわり集会活動に焦点を当てることにした。全校集会活動は、異年齢集団で活動を行うため、児童会執行部や代表委員・グループのリーダー等、個への働きかけが多く児童相互の関わりも深いものがあり、集会を通して個を変える手だても様々な方法が考えられる場であると言える。

## 3. 研究の仮説

### (1) 集団活動の意義

集団活動は、一人ひとりの子どもに大きな影響を与えるが、こうした活動は、集団の成員からの評価によっても、著しく左右される。学校生活においても、児童生徒は学級集団の成員として行動しており、他の成員の評価を受けながら活動し、人間形成を凶っている。また、集団の成員に及ぼす影響は、集団成員の特質や価値観などによって規定される。

今日の子どもたちの集団を見ると、同年齢集団が圧倒的に多い。同年齢集団は、共通の興味や関心を持ち、相互に平等な立場で自由に付き合うことができ、心を開きお互いを高め合うのに最も適した集団であると言える。

しかし、同年齢集団は、ともすると集団の成員に対する思いやりが薄れ、自分の尺度でのみ仲間に対して価値評価をしがちになると言われている。この欠点を補うためには、能力や経験の相違を活用できる異質集団を学校や地域社会で形成し、その活動を多面的に生かすことが必要となってくる。

### (2) 異年齢集団活動の必要性

異質集団による活動では、それぞれの成員の持つ特色を發揮し合うことによって、集団全体の水準が高まり、集団成員の所属感が強まるのである。

このような異質集団は、かつては家庭や地域の遊び集団として存在してい

たが、急激な経済発展とそれに伴う社会変動によって、核家族化が進行し地域社会の構造が激変したため、子どもたちは異質集団活動を体験する機会が乏しくなっている。

こうした時代だからこそ、家庭はもちろん、学校においても多くの機会をとらえて、異質集団による活動の体験を子どもに持たせるよう留意すべきである。さらに、小学校において異年齢集団活動の場を設けることは、児童期における自己中心性の脱却を図り、対人関係の円滑化に役立つ経験を積むのに有効であると考えられる。

### (3) 研究仮説の設定

以上述べてきたことをもとに、次のように研究仮説を設定した。

- ア. たてわり集会活動によって異年齢で触れ合う機会を増やすことにより、各児童の社会性はそれぞれ向上し、通学班や学級内の人間関係を望ましいものにするであろう。
- イ. 友だちとうまく遊べない子もふくめ、どの児童もフォロワーから出発し、ミドルに身を置き、やがてリーダーとしての経験をするなど、集団内の役割行動を一通り体験させることにより、尊敬や思いやり、さらにリーダーシップやフォロワーシップが育つであろう。
- ウ. 集団を形成する個や学級の変容に注目してたてわり集会活動を見直すことにより、より優れた集団活動が促され、たくましい人間を育成できるであろう。

## 4. 研究の方法

- (1) たてわり集会活動において、企画から事後までの各段階ごとに、児童会役員・代表委員・グループのリーダー・学級・各児童の集会との関わりを見直し、観点表を作成する。
- (2) 昨年度から継続して行っているたてわり集会活動の取り組みを、観点表をもとに考察して、異年齢集団活動のあり方を探る。

## 5. 研究の実践と考察

- (1) たてわり集会活動における児童の変容を見るための観点表の作成

### ア. ねらい

われわれは、児童会役員と共に児童会活動の年間計画や全校集会の企画を立てたり実施する中で、結果として児童や学級の自主性が高まったとしても、この活動や集会を通して「個や学級のここを変えよう（高めよう）」と意識して取り組むことが少なかった。そのため、活動が「すませ主義」に陥ったり、児童を変容させるためのきめ細かな手だてに欠けることがあった。

そこで、本研究では、異年齢集団の活動であるたてわり集会活動に焦点を当て、それぞれの立場の児童をそれぞれの立場に応じて変容させるには

どうしたらよいかを考えながら、集会の企画から事後の段階までの活動を見直してみた。そして、各段階において、それぞれの児童に対してどんなねらいを持ってどんな手だてを打つべきかをモデル化してみた。

<観測り集会活動における観点表>

|                  | 低学年                                                                                                                                                                   | 高学年                                                                                                                                                                    | 班長                                                                                                                                 | 学級委員                                                                                                                                                                                  | 児童会執行部                                                                                                                                                                                          |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 計<br>画<br>段<br>階 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○計画について知る。(執行部・担任が説明)</li> <li>○話をしっかり聞く。</li> <li>○何の集会か、どこで活動するのか、班長は誰なのか事を明らかにする。</li> <li>○班のめあて(協力・楽しさ等)を確かめる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○どんな集会にしたいか話し合う。</li> <li>○集会名を考える。</li> <li>○計画に自分の意見が出せる。</li> </ul>                                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>○班長会で、執行部から会の目的・内容の説明を受ける。</li> <li>○班長としての心がまえを持つ。</li> </ul>                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>○話し合う目的と内容をはっきりと学級に伝える。</li> <li>○話し合いの進行をする。</li> <li>○学級の意見を代表委員会に反映させる。</li> <li>○代表委員会で会のねらいを考えた意見が言える。</li> <li>○集会内容を学級に報告する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○集会のねらいを明らかにさせる。</li> <li>○全校児童が楽しめるものにする。</li> <li>○全校の意見をどのように強上げるか考える。</li> <li>○当日までの計画を話し合う。</li> <li>○当日までの計画を広報する。</li> </ul>                     |
| 調<br>査<br>段<br>階 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○班の人と仲良くできる。</li> <li>○上級生の指示に従い、自分達の役割を確実に果たせる。</li> </ul>                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○班の人と仲良くできる。</li> <li>○低学年の手助けをすると同時に、自分達の役割を確実に果たせる。</li> </ul>                                                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>○班員に説明・指示ができる。</li> <li>○班のめあてを確認する。</li> <li>○班長会で、最終確認を受ける。</li> </ul>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○執行部からの広報活動を行う。(プログラム・持ち物・隊形等)</li> <li>○学級の中で班の活動状況を発表し合うことにより、意欲化を図る。</li> <li>○執行部の準備を補助する。</li> <li>○集会担当学級は、執行部とともに進行の練習をする。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○具体的内容を広報する。</li> <li>○児童個人が準備するもの・班が準備するものを確認する。</li> <li>○執行部が作らなくてはいけない物の制作を進める。</li> <li>○集会の役割を決めて練習する。</li> <li>○班長会を召集し、指示や進行状況の確認をする。</li> </ul> |
| 集<br>会<br>当<br>日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と仲良く楽しく参加できる。</li> <li>○分からない事が聞ける。</li> <li>○楽しむ時、やる時のけじめが持てる。</li> </ul>                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○高学年としての役割を理解し、リーダーシップがとれる。</li> <li>○選んで活動に参加できる。</li> <li>○自分の仕事を責任を持ってやれる。</li> </ul>                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○班員をまとめて行動できる。</li> <li>○班内の雰囲気に心を配る。</li> <li>○班員への励ましをする。</li> </ul>                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>○執行部に協力し、会を進行させる。</li> <li>○会の流れをつかみ、班長に助言ができる。</li> </ul>                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>○司会・進行をする。</li> <li>○円滑で的確な指示を出し、会の雰囲気高める。</li> </ul>                                                                                                    |
| 事<br>後<br>段<br>階 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○反省をする。</li> <li>・楽しく、仲良く参加できたか。</li> <li>・自分の役割が果たせたか。</li> <li>・身まわりが守れたか。</li> </ul>                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○反省をする。</li> <li>・積極的に活動に参加できたか。</li> <li>・低学年の世話ができたか。</li> <li>・良かった点、改善すべき点がはっきりつかめたか。</li> <li>・責任を持って自分の仕事できたか。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○班員の意見をまとめる。</li> <li>○反省をする。</li> <li>・班長としての役割が的確に果たせたか。</li> <li>・班のめあてが守れたか。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○学級で反省会を行い、成果と課題をまとめる。</li> <li>○代表委員会で反省会の内容を発表する。</li> <li>○自分の役割が果たせたか反省する。</li> <li>○集会の反省内容を学級に伝える。</li> </ul>                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>○執行部内の役割の反省をする。</li> <li>○班・学級の反省、意見を根上げる。</li> <li>○反省や意見をまとめ、児童会だよりで知らせる。</li> <li>○次回のための反省点・成果を明らかにする。</li> </ul>                                    |

### イ. 実践への生かし方

この観点表は、たてわり集会活動において、企画から事後までの各段階で各役割を持った児童が、どのように行動すべきかという教師の「ねがい」を明らかにしたものである。したがって、われわれ教師は、各段階における児童の実態に応じて、適切な手だてや助言を行うことが可能になるのである。また、各役割を持った児童が、この集会を通してどのように活動すべきかという見通しがはっきりするばかりでなく、各段階において各児童とのつながりもはっきりとし、目的を持って活動することができる。

観点表作成にあたっては、あくまで一般性を持たせることを前提としているため、必要に応じて付加削除等をして変更するものである。グループの編成方法や集会の内容に応じて、リーダーや高学年の児童の役割も変更され、それぞれの児童に対する教師の「ねがい」も当然変更される。

### (2) 「篠木探検隊」の実践(7月5日実施)

本校では、学期に一度ずつの全校集会と月2回の業前児童集会の集会活動に、1か月ごとの常時活動を加えた3本柱で児童会活動を行っている。全校



集会は、たてわりの仲良し班をもとに活動しており、本年度は、「篠木探検隊」・「収穫祭」・「巨大かるた取り大会」の3つの集会を計画した。本研究では、異年齢集団活動が顕著な「篠木探検隊」の実践を中心に考察した。

「篠木探検隊」における縦割り集会活動観点表

|      | 低学年                                                                                                                                                                               | 高学年                                                                                                                                                                       | 班長                                                                                                                                                                                                                                                               | 学級委員                                                                                                                                                                                                                                                              | 児童会執行部                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 計画段階 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画について、代表委員・担任から説明を受ける。</li> <li>・自分達の班長としての役割を覚える。</li> </ul>                                                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・集会内容を検討後、集会名を話し合う。</li> <li>・集会名と内容を覚える。</li> </ul>                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・原案を学級に伝え、担当の是非を話し合う。</li> <li>・集会名を話し合う。</li> <li>・代表委員など各クラスの意見をもとに集会名を検討する。</li> <li>・決定した集会名と内容を学級に伝える。</li> </ul>                                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年の夏休みの反省をもとに今年の集会を話し合う。「校内オリエンティング」も原案とする。</li> <li>・原案承認後、集会名を話し合うよう呼び掛ける。</li> <li>・集会名を検討し決定する。</li> <li>・集会当日までの事前活動や準備の計画を立てて伝達する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                       |
| 準備段階 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・カルア作りをする。</li> <li>・集会のイメージを描く。</li> <li>・年賀ハガキを集める。</li> <li>・色紙や飾り物の作成などを行う。</li> <li>・上級生の手伝いを受ける。</li> <li>・班長の確認をしっかりと行う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・カルア作りをして用意を運ぶ。</li> <li>・班長に作り(場所)の案内をする。</li> <li>・年賀ハガキを集める。</li> <li>・班長の指示に従って協力や問題行動を行う。</li> <li>・班長の確認をしっかりと行う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・班長としての心かまえをする。</li> <li>・班長会と執行部から集会の目的、事前活動の計画を聞き理解する。</li> <li>・班長会と明日の事前活動の内容を覚える。</li> <li>・計画に従って班長としての責任や問題行動を行う。</li> <li>・アムといのたに立ち入り禁止する。</li> <li>・作業の準備を班長にカルアを渡す。</li> <li>・当日の持ち物・ルール・整列場所を確認する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・持ち物は、執行部員に班長、原案作りを伝える。</li> <li>・班長制作について話し合う。</li> <li>・代表委員会で各クラスの意見をもとに班長会を確立する。</li> <li>・班長のクラスや学級組に呼びかけ説明する。</li> <li>・各クラスの進行状況をつかむ。</li> <li>・作業中不明な点を執行部に聞きに行く。</li> <li>・問題文と意見をもとに班長に書き、執行部の確認を受ける。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・班長会と集会の内容を知らせる。</li> <li>・カルア作り・ポイント作り・準備物・事前の計画の原案をまとめる。</li> <li>・班長会を準備する。</li> <li>・全校で準備するものと班長の計画を伝達する。</li> <li>・集会当日の準備などについて行い始める。</li> <li>・班長会と班長会を行うことを前日に知らせる。</li> <li>・各クラスをまわって進行状況を確認する。</li> <li>・ポイントの配布を班長に任せ、問題文と各ポイントの意見を聞く。</li> <li>・当日の持ち物・ルール・整列場所を準備させる。</li> <li>・問題文と意見をもとにポイントに基づき、ルールを伝える。</li> </ul>      |
| 集会当日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・班長の指示に従って自分達の班長としての役割を覚える。</li> <li>・行きたいポイントを知る。</li> </ul>                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・進みかたについて班長の指示を受ける。</li> </ul>                                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・班長を要領で覚える。</li> <li>・班長に指示をもち、回り方を覚える。</li> <li>・みんなの意見を聞き入れてポイントを知る。</li> <li>・アムといのたを見守りながら班長を要領で覚える。</li> </ul>                                                                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・所定の場所に必要な物を置く。</li> <li>・各クラスの班長と班長会を開催する。</li> <li>・班長会の意見をもとに班長に知らせる。</li> </ul>                                                                                                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各ポイントを知り、最終確認する。</li> <li>・全校を要領に従って開会式を行う。</li> <li>・班長をまわってポイント配布を始める。</li> <li>・担当の場所に行き、班長の指示や班長と班長会を開催する。</li> <li>・進みかたについて班長から指示を受ける。</li> <li>・班長と班長会を行い、班長の指示を受ける。</li> <li>・問題文の内容が不明な班長に説明を受ける。</li> <li>・班長時間終了後、班長に班長会を開催し知らせる。</li> <li>・班長会を開催し、開会式を行う。</li> <li>・学級委員に班長と班長の意見を伝える。</li> <li>・使用した器具を元の場所にもどす。</li> </ul> |
| 事後段階 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・班長の指示に従って自分達の班長としての役割を覚える。</li> <li>・行きたいポイントを知る。</li> </ul>                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・班長の指示に従って自分達の班長としての役割を覚える。</li> <li>・班長の指示に従って自分達の班長としての役割を覚える。</li> </ul>                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・班長会と班長会の班長会を開催する。</li> <li>・班長会と班長会の班長会を開催する。</li> <li>・班長会と班長会の班長会を開催する。</li> </ul>                                                                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・班長会を開催する。</li> <li>・班長会と班長会を開催する。</li> <li>・班長会と班長会を開催する。</li> <li>・班長会と班長会を開催する。</li> </ul>                                                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・班長会を開催し、班長会を開催する。</li> <li>・班長会と班長会を開催する。</li> <li>・班長会と班長会を開催する。</li> <li>・班長会と班長会を開催する。</li> <li>・班長会と班長会を開催する。</li> <li>・班長会と班長会を開催する。</li> <li>・班長会と班長会を開催する。</li> <li>・班長会と班長会を開催する。</li> </ul>                                                                                                                                      |

### ア. 計画段階

昨年「篠木夏祭り」を行い、たてわりのグループで模擬店を作り全校で買い物をして楽しんだ。この集会では、自分たちで計画や準備をしたものが形となって現れる喜びや、みんなで協力して品物作りやお店での売り買いをした思い出を得ることができた。こうした経験をもとに、今年の児童会執行部は、「全校児童が楽しめるもの・全校で準備ができるもの」という条件で、『校内オリエンティング』を考えた。

集会の目的と内容をはっきりとさせて、原案を各学級へ下ろして承認を得た。その後、集会の内容にふさわしい名前を各学級で話し合い、たくさんの意見が代表委員会に寄せられた。その中から、6年生の意見の「篠木探検隊」に決定した。低学年の児童には、担任からも集会名と内容を再度伝えてもらい、共通理解を図った。

### イ. 準備段階

集会名が決定されると、執行部では、グループ作りの方法・ポイント作り(場所と問題)・準備するもの・業前の計画等の原案作りに取りかかった。原案作りには月当番の代表委員も加わり、全校児童のことを考えた楽しい内容になるよう工夫をこらした。グループ作りは、2学年ずつのたてわり班(1・6年、2・5年、3・4年、各4人の8人程度の班)にする



ことにし、業前の計画も原案通りに行うことになった。ポイントは、高学年を中心に多くの意見がよせられ、27のポイントが決定した。

さっそく児童会だよりを通じて、グループ作り・準備するもの・業前の計画を全校に知らせた。先生方には、各ポイントの内容・当日までの計画・当日の日程など詳細な提案をして協力をお願いした。

各ポイント一覧表

ポイント地図

[年組班]

しの木たんけんたい  
(オリエンタリング)  
さあ、いくつポイント  
をまわらな??  
地図を見ながら  
かきは、は、は、は??

★の所では、集計長に先生方の  
サインをしてください。

しの木たんけんたいポイント  
1990.6

スタート ラジ引き  
ごみ袋をもらう

1. 電球を2がせ  
各首屋の天井の電球の取
2. おにたいじ  
まとあて
3. 贈答物をのりこえて  
体育館でマット 遊び場など
4. 今何時?  
プールの時計を読む
5. いかだであらなみをこえろ!  
プールで 代表1名
6. うきわハボールを入れる
7. 小島は何者?  
両岸小島の島の取
8. のぼり旗にのぼろう  
登っててっぺんの字を読む
9. プランコごき  
ひとり10回こぐ
10. タイヤはいくつ?  
なかよし広場のタイヤ
11. なんをすべろうすべり台  
12. 文をわとび
13. はい、シュート  
バスケットボールを5回入  
れる。
14. くるりん、ばっ  
鉄物でさかあがりや回さわり
15. フラフープ
16. 船1人った  
かなげ
17. まとあて  
登てき板にドッジボールをあ  
てる

18. (あんまりの取組の) 長2あて
19. おぶつて ワッショイ
20. びた雷の取は?  
職員室前のくつ入れの取
21. 両館をわらせ!  
代表1名の足指に両館をつけて  
歩く
22. じゃ口がいっぱい  
左館の1階から4階までのじゃ  
口の取を数える
23. 計算クイズ  
不斉集のとき 1, 2年級取の取  
を数え
24. 假名取かき
25. ハーフヒーロー  
左館1階から4階までの階取の取
26. 旗はだれでしょう  
先生の名前みて
27. 宝をさがせ  
ゴール

両シンボルマークのあるポイントでは  
お話を読んでよい。  
(文に親しみたりで休憩をとっても  
よい)

※ポイントによっては、先生か児童会役員  
からサインをもらうものがある。

内容の決定に従い、各学級でグループ作りと準備物の収集を始めた。高学年は、リーダーを決めた。いかだでプールを渡るポイントでは、全校に呼びかけて、牛乳パックとプラスチック容器を集めた。目的がはっきりしているの、わずかな期間で500個近くも集まり、4隻のいかだを作ることができた。

執行部では、4日間の業前の計画の細案と当日のプログラムを考えた。グループ作りが終ると、業前を使った準備が始まるまでに班長会を開き、業前の計画を班長に知らせた。業前での活動は、各班ごとに班の旗を作ることと、各ポイントに必要な道具を用意したり問題を書いたりすることである。旗の作り方や問題文の書き方は、作業の前日の班長会で執行部の児童が見本を見せながら具体的に説明した。また、業前では、班の仲間意識を高めるために、班長会を通していろいろな遊びを教えて、余った時間に班ごとに行わせた。

どの教室でも、旗作りの合間楽しくゲームをしている姿が見られ、仲

間意識が少しずつ現れてきたようである。班長会によって、業前で何をしたらよいかを班長にはっきりとつかませることができ、業前活動をスムーズに行うことができた。その結果、業前最終日は、余裕を持って当日の持ち物やルールの確認をすることができた。

(業前計画 6月26日)

様本たんけんたい 業前計画

6月26日

① プループの届かぬ  
 ② プループの届かぬ  
 ③ プループの届かぬ  
 ④ プループの届かぬ  
 ⑤ プループの届かぬ  
 ⑥ プループの届かぬ  
 ⑦ プループの届かぬ  
 ⑧ プループの届かぬ  
 ⑨ プループの届かぬ  
 ⑩ プループの届かぬ

班のほた 図案

(業前計画 6月27日)

27日 班の班作り

① プループの届かぬ  
 ② プループの届かぬ  
 ③ プループの届かぬ  
 ④ プループの届かぬ  
 ⑤ プループの届かぬ  
 ⑥ プループの届かぬ  
 ⑦ プループの届かぬ  
 ⑧ プループの届かぬ  
 ⑨ プループの届かぬ  
 ⑩ プループの届かぬ

班の班作り

(業前計画 6月28日)

様本たんけんたい 業前計画

6月28日(水)

1. 問題文作り  
 2. 作問作り

① プループの届かぬ  
 ② プループの届かぬ  
 ③ プループの届かぬ  
 ④ プループの届かぬ  
 ⑤ プループの届かぬ  
 ⑥ プループの届かぬ  
 ⑦ プループの届かぬ  
 ⑧ プループの届かぬ  
 ⑨ プループの届かぬ  
 ⑩ プループの届かぬ

(ポイント指示書)

| コース | ポイント指示書              |
|-----|----------------------|
| ①   | 登りばつに登ろう             |
| ②   | 登りばつの上に何かを置いておくかがあるか |
| ③   | クマの足音をきいてのぼる         |
| ④   | クマの足音をきいてのぼる         |
| ⑤   | クマの足音をきいてのぼる         |
| ⑥   | クマの足音をきいてのぼる         |
| ⑦   | クマの足音をきいてのぼる         |
| ⑧   | クマの足音をきいてのぼる         |
| ⑨   | クマの足音をきいてのぼる         |
| ⑩   | クマの足音をきいてのぼる         |

ウ. 集会当日

代表委員と執行部で、前日用意しておいた問題文や道具を決められた場所に設置して準備が終了した。選手宣誓の声とともに探検隊が出発した。最初は、班長がもらったごみ袋の番号のポイントへ行くようにして、班が一所所に偏らないようにした。

地図をもとにポイントを探し、熱心に問題文を読み、班長を中心に協力して解いている様子がどこでもよく見られた。また、高学年の児童が、できるだけ低学年の要望を聞きながら回る姿も多く見られた。

問題の内容は、全員で行うもの・班の代表が行うもの・問題を解くものなど様々なものがあり、どの子も楽しそうだった。執行部の児童は、先生方に手伝ってもらいながら、危険な場所の監視や迷子が出ないように見回りをした。また、問題が分からない班に内容を教えたりして、集会が円滑に運営されるよう努力した。

あっという間に2時間が過ぎ、閉会式を行い集会を終えた。結果発表は、数日後の児童集会で行うことにした。

エ. 事後段階(評価段階)

結果の集計を代表委員と執行部で行い、上位10班と全てのポイントを回った班を児童集会で表彰するとともに、児童会だよりで知らせた。



間意識が少しずつ現れてきたようである。班長会によって、業前で何をしたらよいかを班長にはっきりとつかませることができ、業前活動をスムーズに行うことができた。その結果、業前最終日は、余裕を持って当日の持ち物やルールの確認をすることができた。

(業前計画 6月26日)

様本だんげんたい 業前計画

① プルプル開合わて  
こまからプルプル開合わてしうかい  
をし、自分の名前と班をワッペンで  
めくことしうかいしう。

② 班のぼた-目覚まし  
班長が考えた班のぼた-目覚ましを  
人に見せて、班のぼた-目覚ましを  
めく。

③ 仲間作り  
でることか、子で遊ぼうゲーム  
して遊ぼう。

④ 船大のゲーム  
ゲームのルール  
（ついでに、遊ぼうしうかいしう。）  
あつぽ

班のぼた 図案

ここに班のぼた-目覚ましを  
ワッペンに見せよう。

※ ぼたにはワッペンを貼る  
ぼた-目覚ましをワッペン  
でめく。ぼた-目覚まし

(業前計画 6月27日)

27日 班のぼた作り  
・ガクテンとワッペンでワッペン  
作り付け。

班のぼた作り  
・ガクテンとワッペンでワッペン  
作り付け。

班のぼた作り  
・ガクテンとワッペンでワッペン  
作り付け。

班のぼた作り  
・ガクテンとワッペンでワッペン  
作り付け。

班のぼた作り  
・ガクテンとワッペンでワッペン  
作り付け。

(ポイント指示書)

| 班 | ポイント                                       | なにかし伝番号 |
|---|--------------------------------------------|---------|
| ① | ① 登りばうに登ろう                                 |         |
|   | 登りばうの上に自分の班のぼたを<br>めく。ぼた-目覚ましをワッペンで<br>めく。 |         |
|   | ② 仲間作り                                     |         |
|   | ゲームのルールをワッペンで<br>めく。ぼた-目覚ましをワッペン<br>でめく。   |         |

(業前計画 6月28日)

様本だんげんたい 業前計画  
6月28日(水)

① 問題文作り  
・ガクテンとワッペンでワッペン  
作り付け。

② 仲間作り  
・ガクテンとワッペンでワッペン  
作り付け。

③ ゲーム  
・ガクテンとワッペンでワッペン  
作り付け。

④ 船大のゲーム  
・ガクテンとワッペンでワッペン  
作り付け。

ウ. 集会当日

代表委員と執行部で、前日用意しておいた問題文や道具を決められた場所に設置して準備が終了した。選手宣誓の声とともに探検隊が出発した。最初は、班長がもらったごみ袋の番号のポイントへ行くようにして、班が  
一か所に偏らないようにした。

地図をもとにポイントを探し、熱心に問題文を読み、班長を中心に協力して解いている様子がどこでもよく見られた。また、高学年の児童が、できるだけ低学年の要望を聞きながら回る姿も多く見られた。

問題の内容は、全員で行うもの・班の代表が行うもの・問題を解くものなど様々なものがあり、どの子も楽しそうだった。執行部の児童は、先生方に手伝ってもらいながら、危険な場所の監視や迷子が出ないように見回りをした。また、問題が分からない班に内容を教えたりして、集会が円滑に運営されるよう努力した。

あっという間に2時間が過ぎ、閉会式を行い集会を終えた。結果発表は、数日後の児童集会で行うことにした。

エ. 事後段階(評価段階)

結果の集計を代表委員と執行部で行い、上位10班と全てのポイントを回った班を児童集会で表彰するとともに、児童会だよりで知らせた。





(3) 他の実践への波及

ア. 「収穫祭」(11月16日実施)

篠木探検隊と同じ仲良し班による収穫祭では、下級生への種の引き継ぎと焼きいもを行った。昨年の反省を生かして、今年は、運動場で各班の代表がいもを焼くことになった。

探検隊同様に班長会を生かして、各班への連絡や業前活動の説明をした。業前活動は、以前よりも短時間で活発に行われた。班員も同じなので、業前は良い雰囲気であった。いもを焼く炉係の児童は、事前に指導を受け練習した。

当日は、先生の手助けを受けたが、初めての経験をした子も多く、係の児童にとっては有意義であった。反面、発表を聞きながら待っていた児童の中には、いも焼きが見えず不満を残す子もいた。

集会後の反省は、各係ごとに行ったが、係の役割は十分にできた。また、係のない児童も、自分の立場を自覚して、話をしっかり聞いたり低学年の子に親切にできた。

**収穫祭反省集計**

**収穫祭反省 (302, 402)**

|                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1. 班長<br/>・しめじ班(4人) ・お餅班(4人) ・てびね班(2人)<br/>(理由)<br/>○ かんままとめた。業前の待ち時間の連絡がしっかりできた。ほんのかゆうじも良かった。関係も悪くありませんでした。<br/>× 9はしあそんでいた。しめじ、F。</p>                                            | <p>4. 依頼<br/>・しめじ班(13人) ・お餅班(5人) ・てびね班(4人)<br/>(理由)<br/>○ 学年が少しカリビでくられたから。話を聞いた。声がかかったから<br/>× 係長があんまり話をしてくれなかった。しめじ班から、係長が話をしてくれているのを見ていた。いもが焼けた。たまたま焼けたが、いもが焼けた。高学年とあるんではないか。</p>   |
| <p>2. 炉係<br/>・しめじ班(4人) ・お餅班(5人) ・てびね班(1人)<br/>(理由)<br/>○ みんなの力をためたから。いもをうまく焼けた。先が少し焦りすぎた。もう少し早く焼けたらいいかな。もう少し早く焼けたらいいかな。<br/>× 焼くことができた。お餅班が少し焦りすぎた。少し遅く入っていた。</p>                     | <p>5. 収穫祭<br/>・しめじ班(14人) ・お餅班(35人) ・てびね班(17人)<br/>(理由)<br/>○ いもがおいしかった。お餅もおいしかった。お餅もおいしかった。お餅もおいしかった。<br/>× 係長が少し少なかった。いもが少し焦りすぎた。お餅も少し焦りすぎた。いもが少し焦りすぎた。お餅も少し焦りすぎた。</p>               |
| <p>3. 高学年<br/>・しめじ班(12人) ・お餅班(15人) ・てびね班(5人)<br/>(理由)<br/>○ みんなの力をためたから。いもをうまく焼けた。先が少し焦りすぎた。もう少し早く焼けたらいいかな。もう少し早く焼けたらいいかな。<br/>× お餅班が少し焦りすぎた。お餅班が少し焦りすぎた。お餅班が少し焦りすぎた。お餅班が少し焦りすぎた。</p> | <p>6. 発表<br/>・しめじ班(14人) ・お餅班(35人) ・てびね班(17人)<br/>(理由)<br/>○ みんなの力をためたから。いもをうまく焼けた。先が少し焦りすぎた。もう少し早く焼けたらいいかな。もう少し早く焼けたらいいかな。<br/>× お餅班が少し焦りすぎた。お餅班が少し焦りすぎた。お餅班が少し焦りすぎた。お餅班が少し焦りすぎた。</p> |

**収穫祭作文**

**収 穫 祭**

一三 かがや そうすけ  
おもちがやけるまでのクイズや、けんけんがおもしろかったです。ともたらのゆうきくんは、なんべんもかって、まえにでられたのに、ぼくはけんけんです。まけて、くやしかったです。

いよいよ、おもちがやきました。六ねんせいのおにちゃんか「すきなものをえらんでいよ」といってくれたので、大きなおもちにしました。  
こけたところが、まっくらになりましたが、おもしろいとおもいました。たへてきたら、あまくて、すくおいしかったです。たのしいしゅうかくさいます。

四の一 長谷川 直葉  
みんなで作った作物に感謝し、祝う収かく祭は楽しかった。わたしは、修屋君達が校長先生から火をもらうのが気に入った。お餅をやりたかった。クイズや引きつぎ式をやっている間、いもが焼けていた。「うん、いいにおい。」と面白いながら、おにぎりを焼きました。「おいしい。」と面白いので、おにぎりを焼きました。わたしは、「おいしい。」と面白いので、おにぎりを焼きました。わたしは、「おいしい。」と面白いので、おにぎりを焼きました。

「発表した、空田さんと岩崎さん、野村くん、木村くんも上手にやれたし、今日は最高の日だね。」



## 6. 研究の成果と今後の課題

今回の研究・実践で、個や学級を変容させる手だてを中心にしたたてわり集団活動の見直しを図った結果、次のような成果が得られた。

### (1) 研究の成果

- ア. 集会活動にたてわり集団を積極的に取り入れたことで、異年齢同士で触れ合う場が増え、新たな人間関係が生まれた。
- イ. たてわり集会活動を経験したことによって、児童に思いやりや尊敬の気持ちが芽生えたことは、児童会活動が異年齢集団活動として有効であったと言える。
- ウ. 観点表をもとに実践を考察することで、従来見過ごされがちな個の変容をとらえることができ、変容の手だてを見つけるのに役立ったり、また児童に賞賛の形で還元して意欲を持たせたりすることができた。
- エ. 集会活動の観点を明らかにすることによって、指導者が個の変容を意識して集会に取り組むようになり、子どもを育てる場が昨年までより多くなった。

### (2) 今後の課題

- ア. 仲良し班を基盤とした集団活動は2年目であり、全ての児童がフォロワーから出発しているわけではない。継続した集団活動によって、どの子どもリーダーとしての資質を身につけることが、たくましい人間育成につながる。
- イ. 集会活動をさらに創造的な活動に高めていくには、それぞれの集会に応じて、どんな場を設定してどんな指導をしていくかを考えることが大切である。そのためには、集会の内容に応じた観点表を作成する必要がある。
- ウ. 集会活動は、手だてばかりでなく集会自体の魅力も大切な要素である。魅力ある集会を企画していくことが必要であり、そのために絶えず児童の実態を把握していくことである。

## 7. おわりに

児童会活動に携わって7年近くになるが、変容していく子どもたちの姿にいつも感心させられる。特に、自分たちで考えたことが次第に現実の形となっていくとき、子どもたちの目は輝きに満ちてくる。

改めて集会活動を見直してみて、今までの集会では自分自身が何気なく助言を与えてきたことに気づかされた。今後は、さらに一人ひとりを見つめた実践を深め、どんな手だてによってどのように変容させ、その変容にいかにして気づかせるかを考えた集会活動をめざしていきたい。

# バズ学習への必然性

～ その実践28年間を振り返る中で ～

南山大学 萩原 克巳

バズ学習にとりくんだ動機は学校によってさまざまであるが、それは大きく二分することができる。

一つは、これまでの学校の態勢が生んだ阻害条件を排除したり、それを解決するためにであり、他の一つは、教育観からくる必要性を満たすためにである。

もうどうにもならない、何とかしなければならないという切実感が、バズ学習への動機となった例は全国でも多い。教師がいくら熱心に指導しても生徒の学習意欲が低調で、いっこうに学習効果があがらないとか、男女のきつ抗はいうに及ばず、生徒個々の有機的なつながりのないまま、学級は学習集団という意識のないまま、競争的排他的な傾向を助長させている姿をみかねてとか、続発する生活指導上の事件や問題点を解決するためとか、あるいは、辺地という地域性からくる閉鎖的な性格を克服するためとか、いろいろある。

しかし、これらは動機の要素ではあり得ても、バズ学習がそれらをすぐ解決したり克服できるという特効薬的なものだとは期待したわけではない。事実、教育という仕事はそんな単純なものではない。でもいつの日か成果がみられるだろう、近い将来児童生徒や学校の姿が変わっていくだろうと、ひそかな期待を寄せたことはほんとうだろう。

なぜそんな問題点があるのか、なぜいつまでも排除できないのか、といった要因をさぐりながら、教育の基本に立ち返るとき、私たちはだれかれの別なく、これまでの教育態勢について反省する必要性に迫られたわけである。教育の基本に立ち返るとはどういうことか、従来の教育態勢の反省から何が挙げられるか、ということについては、いずれ後でもふれることになるが、それこそバズ学習のねらいそのものに外ならない。

二分した動機の一つ、教育観からくる必要性も、実は今まで述べてきたことと異なるものではない。教育とはどうすることなのか、どういう人間を育てること

が大切なのか、効率の高い指導をするためにはどうするか等々、これらの問いに対するとき、きまっただれしものが従来の教育態勢の反省に帰着してしまう。つまり、大きく分けられそうなこの二つの動機は、やっぱり同じだということに気付くのである。

### 1 「教育とは何か」を問うために

「教育は社会化への過程である」といえる。非社会的な児童生徒たちを社会化することが教育の機能であり、目的でなければならない。だから私たちの仕事は、社会生活に適応していける人間の育成であり、さらにいえば、自己の力で自己の道を切り開くことのできる人間の育成であるということができる。

そういう人間を育てるために、私たち教師は何をしてやらなければいけないのか、無自覚であっていいはずがない。そこで私たちは「教育とは何か」「学力とは何か」を問いながら、教育実践上の理論や方法をバズ学習に求めてきたわけである。

### 2 集団的事態を認識するために

たしかに学校では、一人の教師が多数の児童生徒を指導している。だから考えようによっては、学校ないし学級は個人の集合体であり、教師によって大量生産がなされていることになる。そこではどうかすると、学級の成員は他人と競争し、押しのけることはあっても、他の人々と協力し、集団としての場の力で個々の人の学習を助け合ったり、お互いの力で磨き合うことはない。これは、これまで長く続いてきた教育の場で、だれしものが経験してきたことであった。学級の場の力が、個々の学級成員の力を伸ばす働きを認めるような配慮や指導は、伝統的な学習指導の場では少なかった。

バズ学習では、学級という集団の場の中で、意図的に、児童生徒の相互の働きかけや協力によって、個々の児童生徒の学力や学級集団全員の学力を高めていこうとする。だからその基盤は、学級構成員の人間関係であり、協力態勢であり、教え合い、確かめ合いの相互交流活動である。しかしこのことは、教師不在でもないし、個人を軽視することでもない。たしかに、自発的な相互の働き合いを強調し、集団の成長を願いはするが、バズ学習では、伝統的な学習指導以上に意図的な教師の指導を強調する。そして、集団を大切にすること以上に個人を大切にすること。いいかえれば、学習や指導の場における個人を軽んじ、集団関係の問題の

みを取りあげようということではない。バズ学習の究極は、やはり個人を高めることなのである。

「集団」は、学校と名のつくところに存在するまぎれもない事態である。この事態を認識し、その機能を生かしながら、より高い効率と、望ましい教育の在り方を求めて努力する必要のあることは、なにもバズ学習に限ったことではないだろう。

### 3 学習の統合化を進めるために

教科指導と生活指導は、本来が別のものではないのに、従来の指導態勢ではこの両者は統合のされようがなかった。別々の考え方で行われた。互いに孤立した分野だとはだれも思ってもいないが、あるべき一つの理念の下で、互いに関連をもちながら指導を展開していこうとする努力はたしかに稀薄であった。一方では協力や親切を説き、互いに人の立場を理解し合える望ましい学級の成長を願いながら、一方では競争的排他的にならざるを得ないような学習態勢が、しかも同じ教師によって、何の思慮もなく助長されている。全人教育が叫ばれながら、これはいったいどういうことなのであろうか。

教育の分野はまことに多様である。職務の内容は、一人や二人では何ともならないほど多岐である。しかしこれは、職務上の分掌やとりあげられる問題・事例などがそうなのであって、教育の本質が多岐にわたっているはずはないのである。多様化された領域の末端で、互いに離反し合うとは妙なはなしである。

ここに、教育の統合化をはかる必要がでてくる。統合とは「一つにまとめ合わせる」という意味だが、たとえばある授業に、あらゆる教科の学習項目を盛り込んで、ひとまとめにしながら指導するということではない。いろいろな活動が決して矛盾を感じさせないような、互いに離反し合うことのないような、そして、それぞれの分野領域から教育目標に迫るような、そういう指導態勢をつくる必要があると思うのである。

「学力と人間関係」「個人的学習と集団的学習」「個人の発達と集団の成長」という三つの基本的な性格は、学習の統合化をめざすバズ学習の基本的な教育理念でもある。

### 4 一斉学習を見直すために

個別学習か一斉学習かということになれば、バズ学習は、当然一斉学習の仲間

である。つまりバズ学習は、一斉学習の効率を高めるための一方式であるともいえる。だから、何か特別な考え方をしなければバズ学習には取り組めないというものではない。しかし、従来の一斉学習を通して考えていたことと、バズ学習がねらっていることとの間には、互いに隔たりがないというわけではない。

一斉学習という漫然とした態勢や形態の中では、あまりにも大切ないろいろの要素が見落とされている。学力を高めることと仲よく協力し合うこととは、必ずしも同一の学習活動の中で、同時に求められはしなかった。無自覚に指導が進められていたのである。競争的排他的にならざるを得ないような態勢は、必要以上の優越感や劣等感を助長し、楽しいはずの学習の場も冷えきったものになっていたり、望ましい人間関係の芽をもぎとっていたのかもしれない。教育の営みは、無自覚な繰り返しであってはならない。

バズ学習では、認知目標と態度目標を同時に達成しようとする。これは、もともと別々のものであろうはずもない。知識や技能の習得を強調すればするほど、態度目標の達成が強調されねばならないし、態度目標の達成はまた、認知目標なくしては考えられない。両者は一体のものであり、切り離して考えることはできないのである。

「分からなかったら聞いてみよ。」

「分かったら説明してみよ。」

「間違っていたら指摘してやれ。」

「そして、こんどは聞き役になってみよ。」

こういう指導をしてみると、分かったつもりの者が、案外分かっていないことに気付くものである。人に説明ができて、相手をうなずかせることができたとき、はじめて分かったと評価させたい。そのうえみんなの考えも聞ける。創造的になって思考が発展する。思考の拡大と、自己調整作用、即時評価や自己評価といわれるものが、よくできる者にもできない者にも、程度の差はあれ、あっという短時間のうちに、一人の例外もなくできるのである。全員が、積極的に参加せざるを得ない。少しもぼんやりしておられない。すぐ人が話しかけてくる。この相互作用は、学習意識を反らさせないし、必然的に学習意欲を高めていく。こうした意図的な話し合いは、もはや人間関係を基盤にしなければできないし、この学習活動を通して人間関係もいちじるしく高まっていく。認知と態度が一体だというのは、こうした意味においてである。

一斉学習とバズ学習の違い—それは「学力とは何か」についての、基本的な考えの違いだともいえる。

## 5 教科指導と学級経営の関わりを意図するために

学級という単位がひとつの学習集団である限り、教科指導と学級経営を切り離して考えることはできない。教育が教師の側から一方的に、あるいは、教師対児童生徒の間だけで行われるものでなく、学級成員相互の間でも行われることを前提とするなら、そのどちらかを無視した教育はあり得ないはずである。ところが、私たちは長い間この両者を二面的に考え、それぞれの立場で指導しがちであった。教科によって指導者が変るといふ中学校や高校にあっては、なおのことであった。

学級経営とは、学級に対して連絡をしたり、注意をしたりして生活指導をすることや、「学級活動」と呼ばれる領域の活動を円滑に運ぶことだ、という受けとめ方をしがちであった。だから、教科指導は教科担任がすることであって、学級担任のまったく関知したことではないという姿勢がたしかにある。かといって、学級担任がすべての学習内容に関与するという意味ではない。学級で行われる教育活動の効率があがるような態勢を整えることが、学級経営の眼目であることを私たちは認識しなければならない。どんな学習に対しても、学級中のだれしものが、同じ学習目標に向かって努力するような態度形成を積極的に推し進める必要がある。学級担任の、授業への積極的関与というのはいふまでもなくそういう意味においてである。

先に、認知と態度は同時に達せられるといった。認知に伴う態度の底辺には、学習に対して前向きで、積極的な学級のモラルがなければならない。教科担任がいくら力を入れてみても、成熟していない学級では多くを期待することは無理だろう。学級経営は、すべての活動の基盤であり、出発点であることを忘れてくはない。

と同時に、教科担任も、自分の授業を通して学級経営に関与していくことになるのも当然である。バズ学習によって、その学級や班のもっている特質や問題点などがいっそう浮き彫りにされて、学級経営へのよき提言ともなるし、授業をしながら、直接学級態勢の指導をしていることにもなる。

教科指導と学級経営—ともすると二面的に考えられがちなこの両者の統合は、バズ学習を通してより可能になるだろう。

## 6 学習の効率化をはかるために

授業は学校教育のすべてではないが、学校教育の大半を占めていることは事実である。私たちもバズ学習を通して、これまで授業の効率化をはかるために、いろいろな研究や実践を積み重ねてきた。その集積は、いうまでもなく全国各地に



あり、その努力は今も続けられている。しかし、その方途や技術は、必ずしも画一的ではない。バズ学習の基本的なねらいや原理をふまえながら実践することは共通しているが、具体的な展開や形は各様である。とはいっても、実際は大同小異で驚くような差異のあろうはずもない。それはバズ学習を、現象的に、しかも端的にとらえていうならば、学習過程とか指導過程といわれる中に、児童生徒の相互作用を意図していくという基本姿勢があるからである。

学習の効率化をはかるための考え方や方法の多様化はかつてないともいわれるが、バズ学習は、その何れにもない独特のものをうち出しているなどは毛頭思ってもいない。部分的にはあるものとかかなり似かよっており、共通基盤に立っていることも多かろうと思っている。

「学習活動への積極的な参加」「理解の促進と拡大」「態度の発達」など、これらバズ学習の原理に関わることについては、これまで随所でふれてきたが、相互作用を意図していくことが、学習のうえでどういう意味をもち、効率化を進めるうえでどういう役割を果たすかについて、より積極的に認識していきたい。

#### 7 態勢づくりのために

学校規模の大小によっていくらかは異なろうけれど、全職員が共通の基盤にたつて、みな同じ方向を向くようになるまでには、特別な切実感がない限りかなりの時間が必要だろう。それぞれが思い思いに実践してみても、もちろんそれはそれで効果はあるけれど、学校の態勢が固まらなければ充分成果を期待することはできない。教師のひとりひとりが同じ考えをもたなければ、だいいち生徒が混乱を起こしてしまう。「よし、やろう」という意気込みや切実感は、そう簡単に生まれてくるものではない。たとえだれかが意欲を燃やしても、それが幾人かの共感を呼び得ても、なかなか全部に通じるものではない。やはり一部に過ぎないのだ。ただ漫然とこれまでの学習形態や態勢を反省し、より能率や効果を高めようといった程度では、はじめから真剣に対し得べくもない。これが普通の姿であつて、決して共感しない人が教育をなおざりに考えているからではない。あせってはならない、ということをおぼろげに私たちが私たちの体験を通してつくづく思うのである。

こと教育という仕事が、一人や二人ではどうにもならないものであることと、教師集団がばらばらだったら、到底成果は期待できないことをもう一度思い起こしてみよう。

「どういう教育が子どもをしあわせにするのか」という問題について、私たちは真剣に考え話し合いながら、共通理解をし、それを共通の目標にまで高めてい

くことがまず必要であろう。そして私たちは、その本質を常にみきわめながら、教育の近代化をめざして進まなければならない。

態勢とは、共通の目標に向かい、すべてのことを包括しながら進む姿である。だから、研究の態勢はそれが糸口ではあっても、単なる一つの研究主題を解明していくためのものであってはならず、学校の教育態勢でなければならないだろう。

私たち教師は、児童生徒たちに全力をあげて学習に取り組むことを教え、協同していくことを求めている。その教師が、あるべき姿も求めず、力を合わせる努力を怠ったならば、おはなしにならないではないか。教師自身が、協力していくことの美しさを、みんなで考え合うことのすばらしさを、まず体得していく必要があるだろう。

平成2年度 事業報告

|     |                                                                                                                                           |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4 月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成2年度会員募集及会費納入等の案内状発送<br/>新会員の勧誘<br/>年会費 個人2000円 学校加入10000円</li> <li>・会報（ニューズレター）発行と発送</li> </ul> |
| 6 月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第25回全国バス学習研究大会事前打合せ<br/>講師・司会・提案者・助言者・記録者等の依頼<br/>依頼状発送</li> </ul>                                |
| 7 月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第25回全国バス学習研究大会事前打合せ<br/>大会要項発送</li> </ul>                                                         |
| 8 月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第25回全国バス学習研究大会事前打合せ</li> <li>・第25回全国バス学習研究大会（24・25日）<br/>名古屋大学において</li> </ul>                     |
| 9 月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第25回全国バス学習研究大会分科会報告原稿依頼</li> </ul>                                                                |
| 12月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・会報（ニューズレター）発行と発送</li> </ul>                                                                       |
| 1 月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国バス学習研究会役員会案内発送</li> </ul>                                                                       |
| 2 月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国バス学習研究会役員会（9日） 愛知会館において</li> <li>・同 役員幹事会（28日） 愛知会館において</li> </ul>                              |
| 3 月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・同 役員幹事会（12日） 南城中にて<br/>第26回全国バス学習研究大会について</li> </ul>                                              |
| 4 月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成3年度会員募集及会費納入等の案内状発送<br/>新会員の勧誘</li> <li>・同 役員幹事会（27日） 南城中にて<br/>第26回全国バス学習研究大会について</li> </ul>   |
| 5 月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・会報（ニューズレター）発行と発送</li> </ul>                                                                       |
| 6 月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・同 役員幹事会（17日） 南城中にて<br/>第26回全国バス学習研究大会について</li> </ul>                                              |
| 7 月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・同 役員幹事会（11日） 南城中にて<br/>第26回全国バス学習研究大会について</li> </ul>                                              |
| 8 月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・同 役員幹事会（3日）南城中にて<br/>第26回全国バス学習研究大会について</li> <li>・第26回全国バス学習研究大会 同 懇親会</li> </ul>                 |

## 平成2年度 会計報告

|      |           |
|------|-----------|
| 収入総額 | 1,309,942 |
| 支出総額 | 124,423   |
| 差引残高 | 1,185,519 |

### 内 訳

| 収入の部     | 決算額     |
|----------|---------|
| 繰越金      | 740,404 |
| 会費       | 358,722 |
| 塩田様寄付    | 200,000 |
| 雑収入      | 10,838  |
| 支出の部     | 決算額     |
| 郵送料      | 18,402  |
| 切手代      | 3,350   |
| 全国バス大会助成 | 100,000 |
| 封筒代      | 1,940   |
| 事務用品代    | 731     |

## 平成3年度 事業計画

- ・平成3年度 会員募集 年会費徴収
- ・第26回全国バス学習研究大会および総会の開催
- ・会報の発行
- ・全国バス学習研究会役員会